

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第222集

# 土場遺跡発掘調査報告書

北本内ダム建設工事関連遺跡発掘調査

(財)岩手県文化振興事業団  
埋蔵文化財センター

# 土場遺跡発掘調査報告書

北本内ダム建設工事関連遺跡発掘調査

# 序

岩手県には旧石器時代の遺跡をはじめとする数多くの埋蔵文化財包蔵地が各地にあり、平成5年度の岩手県教育委員会のまとめでは8,700箇所を越えております。先人の残したこれらの埋蔵文化財を保護し、保存していくことは私たち県民に課せられた重大な責務であります。

一方、本調査の原因となりましたダム建設事業を例にあげるまでもなく、現代社会を豊かにし、快適な生活をおくるための地域開発もまた県民の切実な願いであります。埋蔵文化財の保護・保存という相容れない要素をもつ調和のとれた施策が今日的課題となっております。

財団法人岩手県文化振興事業団は、埋蔵文化財センターの創設以来、埋蔵文化財保護の立場にたって、県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡について発掘調査を行い、その記録を残す措置をとってまいりました。

本報告書は、北本内ダム建設工事に関連して、平成5年度に発掘調査した土場遺跡の調査結果をまとめたものであります。本遺跡は和賀川と北本内川との合流点付近の左岸の河岸段丘上に立地し、調査の結果、縄文時代の土坑や陥し穴状遺構、特に早期や前期の土器が多く発見され、貴重な資料を提供することができました。本書が広く活用され、考古学の研究に寄与するとともに埋蔵文化財に対する関心と理解をいっそう深めることに役立つことを切に希望します。

最後になりましたが、発掘調査および報告書作成にご協力とご援助を賜りました岩手県土木部北本内ダム建設事務所や北上市教育委員会をはじめとする多くの関係諸機関・関係各位に深く感謝申し上げます。

平成7年3月

財団法人岩手県文化振興事業団

理事長 高橋 令則

## 例 言

1. 本報告書は、岩手県北上市和賀町和賀仙人に所在する土場遺跡の発掘調査結果を収録したものである。
2. 本遺跡の調査は、北本内ダム建設関連工事に伴う記録保存を目的とした緊急発掘調査である。調査は、岩手県土木部北本内ダム建設事務所と岩手県教育委員会文化課との協議を経て、財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した。
3. 遺跡台帳番号、調査期間、発掘調査面積、調査担当者は次の通りである。

|        |                   |
|--------|-------------------|
| 遺跡番号   | ME51-1265         |
| 発掘調査期間 | 平成5年10月1日～11月5日   |
| 発掘調査面積 | 570m <sup>2</sup> |
| 調査担当者  | 高橋 正之・吉田 充        |
4. 分析・鑑定は次の方々に依頼した（敬称略）。

|           |                   |
|-----------|-------------------|
| 黒曜石石材産地分析 | 藁科 哲男（京都大学原子炉実験所） |
| 石材鑑定      | 佐藤 二郎（長内水源工業）     |
5. 野外調査にあたっては、北上市教育委員会および地元の方々に、室内整理では作業員の方々に御協力をいただいた。
6. 報告書の担当は次のとおりである。

|         |            |          |
|---------|------------|----------|
| 〈執筆〉    | I章：高橋 與右衛門 | その他：吉田 充 |
| 〈編集・校正〉 | 吉田 充       |          |
7. 本遺跡から出土した遺物および調査資料は、岩手県立埋蔵文化財センターに保管している。

# 目 次

序  
例言

## <本 文>

|                |    |             |    |
|----------------|----|-------------|----|
| I. 調査に至る経過     | 3  | 2. 陥し穴状遺構   | 18 |
| II. 遺跡の位置と環境   | 3  | 3. 遺構外出土遺物  | 26 |
| 1. 位置と立地       | 3  | (1) 縄文時代の土器 | 26 |
| 2. 地形          | 4  | (2) 石器      | 36 |
| 3. 地質          | 7  | V. まとめ      | 46 |
| 4. 基本層序        | 7  | 1. 遺構       | 46 |
| 5. 周辺の遺跡       | 8  | 2. 遺物       | 46 |
| III. 野外調査と整理方法 | 13 | 3. 遺跡       | 47 |
| 1. 野外調査        | 13 | VI. 鑑定・分析   | 56 |
| 2. 室内整理        | 13 | 黒曜石石材産地同定   |    |
| IV. 遺構と遺物      | 16 | 報告書抄録       | 74 |
| 1. 土坑          | 16 |             |    |

## <図 版>

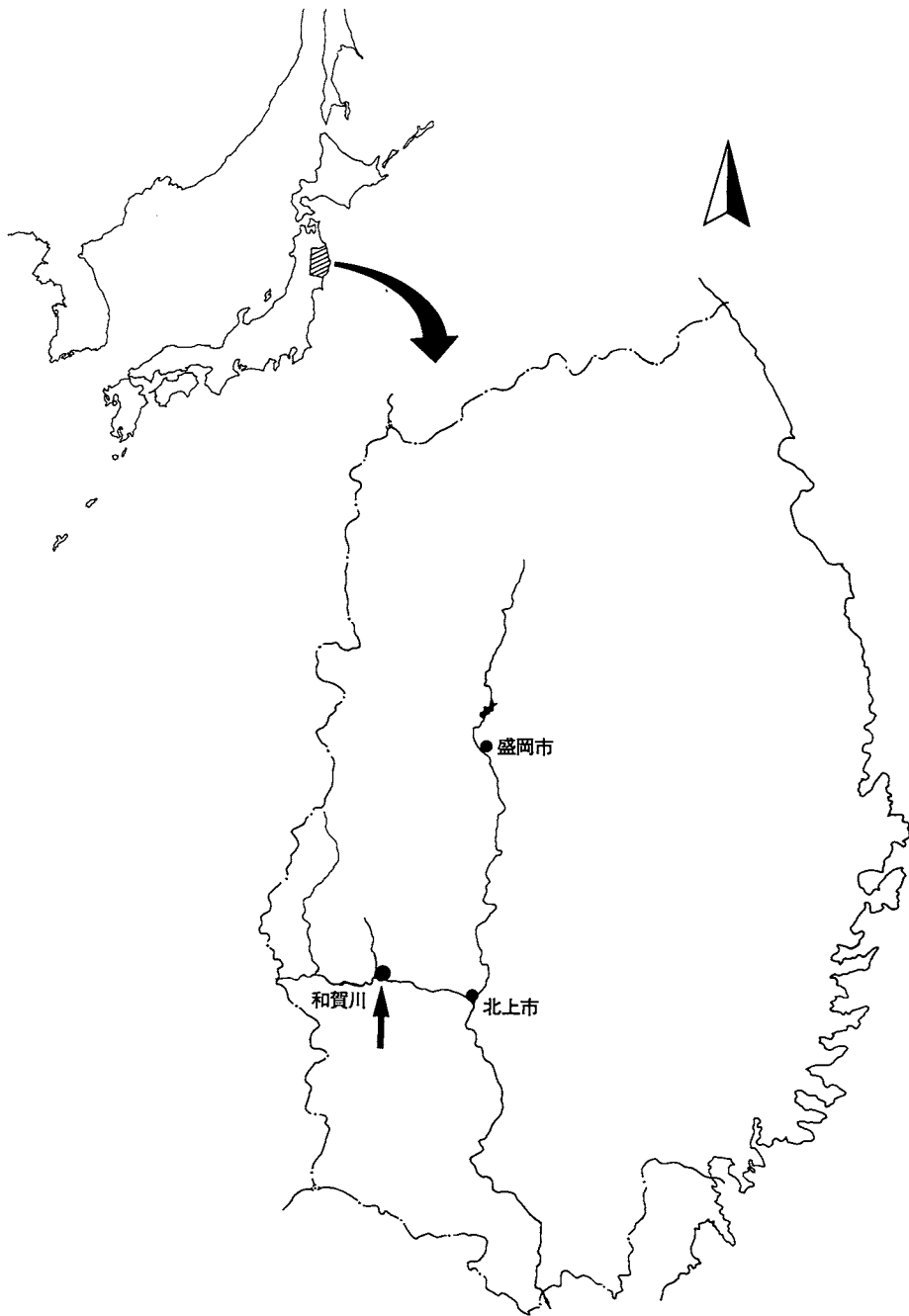
|                        |     |                    |    |
|------------------------|-----|--------------------|----|
| 第1図 日本全図にみる遺跡の位置       | 1   | 陥し穴状遺構・遺物          | 23 |
| 第2図 遺跡位置図              | 2   | 第12図 H4-2、H4-3号    |    |
| 第3図 地形区分図              | 7・8 | 陥し穴状遺構・遺物          | 25 |
| 第4図 基本層序               | 9   | 第13図 遺構外出土遺物・土器(1) | 33 |
| 第5図 土場遺跡と周辺遺跡位置図       | 10  | 第14図 遺構外出土遺物・土器(2) | 34 |
| 第6図 遺構配置図              | 15  | 第15図 遺構外出土遺物・土器(3) | 35 |
| 第7図 F4-1、I4-1号土坑・遺物    | 17  | 第16図 遺構外出土遺物・石器(1) | 40 |
| 第8図 J2-1、J4-1号土坑・遺物(1) | 19  | 第17図 遺構外出土遺物・石器(2) | 41 |
| 第9図 J4-1号土坑遺物(2)       | 20  | 第18図 遺構外出土遺物・石器(3) | 42 |
| 第10図 F4-1、G6-1号        |     | 第19図 遺構外出土遺物・石器(4) | 43 |
| 陥し穴状遺構・遺物              | 21  | 第20図 遺構外出土遺物・石器(5) | 44 |
| 第11図 H3-1、H4-1号        |     | 第21図 遺構外出土遺物・石器(6) | 45 |

## 〈 表 〉

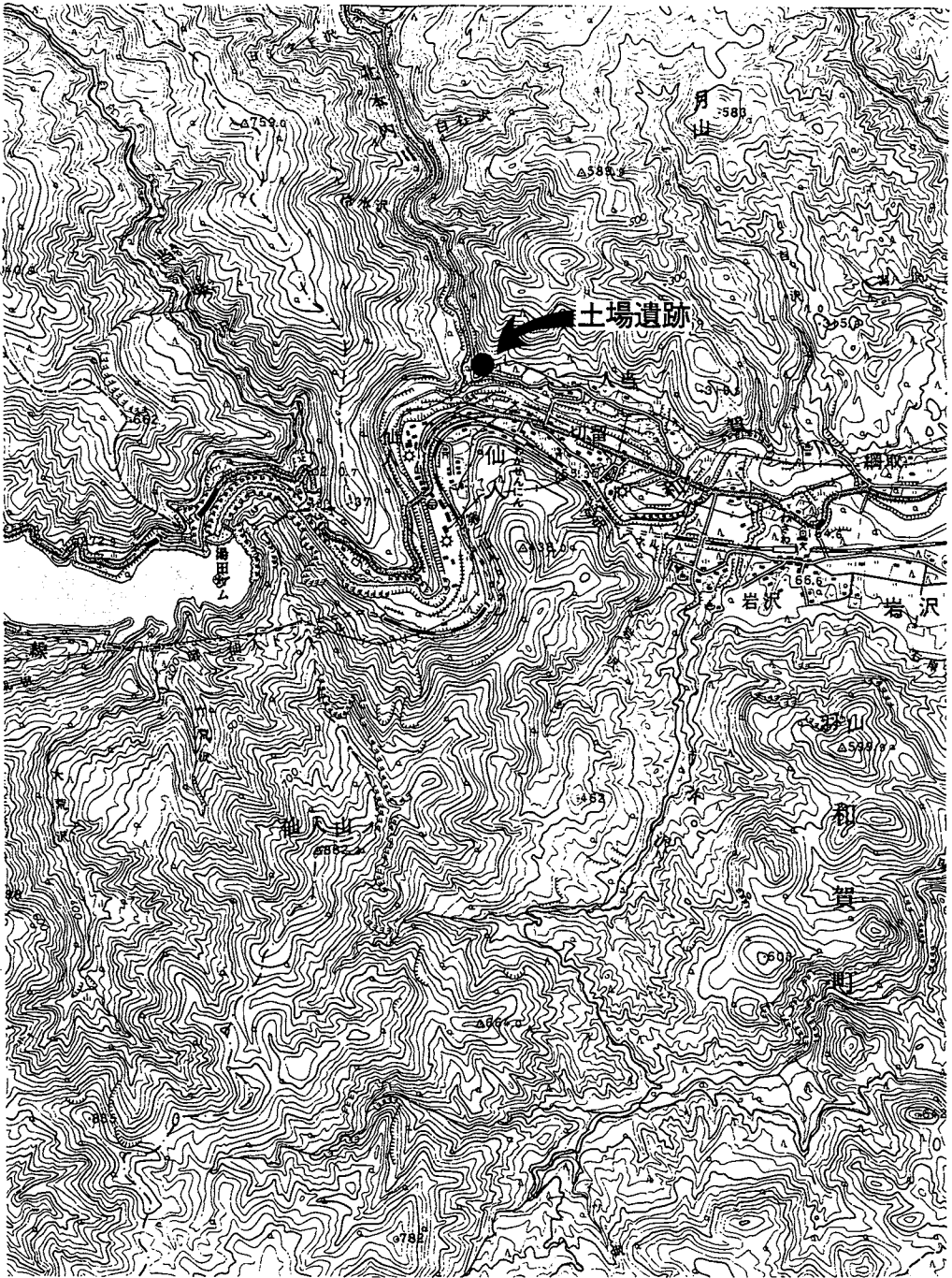
|                      |    |                     |    |
|----------------------|----|---------------------|----|
| 第1表 周辺の遺跡出土土器型式…………… | 9  | 第5表 土器観察表（遺構内）…………… | 49 |
| 第2表 周辺の遺跡一覧表……………    | 11 | 第6表 土器観察表（遺構外）…………… | 50 |
| 第3表 土坑一覧表……………       | 49 | 第7表 石器計測表（遺構外）…………… | 52 |
| 第4表 陥し穴状遺構一覧表……………   | 49 |                     |    |

## 〈写真図版〉

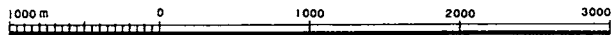
|                            |    |                           |    |
|----------------------------|----|---------------------------|----|
| 写真図版1 遠景……………              | 60 | 写真図版8 遺構外出土遺物・土器(1)……………  | 67 |
| 写真図版2 調査前全景・基本土層……………      | 61 | 写真図版9 遺構外出土遺物・土器(2)……………  | 68 |
| 写真図版3 土坑(1)……………           | 62 | 写真図版10 遺構外出土遺物・石器(1)…………… | 69 |
| 写真図版4 土坑(2)・陥し穴状遺構(1)…………… | 63 | 写真図版11 遺構外出土遺物・石器(2)…………… | 70 |
| 写真図版5 陥し穴状遺構(2)……………       | 64 | 写真図版12 遺構外出土遺物・石器(3)…………… | 71 |
| 写真図版6 遺構内出土遺物(1)……………      | 65 | 写真図版13 遺構外出土遺物・石器(4)…………… | 72 |
| 写真図版7 遺構内出土遺物(2)……………      | 66 | 写真図版14 遺構外出土遺物・石器(5)…………… | 73 |



第1図 日本全図にみる遺跡の位置



1:50,000 川 尻



第2図 遺跡位置図



## I 調査に至る経過

北本内ダムは上水道の確保や発電と洪水調節を目的とした多目的ダムとして昭和59年に事業化され、和賀川の支流北本内川に建設されることとなったが、工事用道路として使用計画のある北上市道「人当線」の線形不良と狭隘のため、改良工事を行うこととなった。

工事区間に存在する埋蔵文化財包蔵地の取扱については、岩手県教育委員会から平成4年8月17日付「教文562号」によって岩手県土木部総務課を通じて事業照会があり、それに対して平成4年8月25日付「北建237号」で対象包蔵地が存在する旨の回答をした。それを受けた岩手県教育委員会は平成4年12月7日に試掘調査を実施し、その結果を岩手県土木部河川課ダム室を通じて平成4年12月18日付「教文994号」で報告し、平成5年度に本調査を実施することとなった。

事業者は岩手県教育委員会あてに平成5年3月22日付で「発掘調査通知の提出について」で通知し、平成5年3月23日付「北建421号」で回答した。さらに、岩手県教育委員会から平成5年3月29日付「教文7-120号」で「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等に付いて」の通知を受けて、平成5年10月1日付で契約を締結し、当事業団の受託事業として実施することとした。

## II 遺跡の位置と環境

### 1 位置と環境

土場遺跡は岩手県北上市にあり、東日本旅客鉄道北上線和賀仙人駅の北西約0.5km付近に位置する。国土地理院発行の5万分の1地形図「川尻」NJ-54-20-1（新庄1号）の図幅に含まれ、北緯39度18分30秒、東経140度54分30秒付近にあたる。所在地番は、北上市和賀町和賀仙人第8地割44-7である。

北上市は岩手県南部にあり、県庁所在地である盛岡市の南方約64kmに位置する。北上市は平成3年に旧北上市、江釣子村、和賀町の3地区が合併し、新しい北上市に生まれ変わった。面積は約440km<sup>2</sup>、人口は約8万7000人となった（平成6年9月）。産業面では、北上工業団地が分譲完了後、平成2年に南部工業団地の造成が終了するなど北上川流域テクノポリス領域の中核的な工業都市を形成し、発展しつつある。

地理的条件に恵まれ、古くから交通の要衝にあった。南北に流れる北上川船運の南部藩最南端の商港として繁栄し、後に西和賀の鉱産物の集配地として栄えた。今日では、従来の交通網

に加え、東北縦貫自動車道、東北新幹線の整備、さらに東北横断自動車道の建設とますますターミナル都市としての機能を充実させている。

本遺跡が営まれた時代の気象について、現在の気象から観察する。平成5年の1月から10月までの月平均気温を北上市と盛岡市との比較でみると、盛岡市よりは幾分暖かいものの、ほとんど同じような変動を示す。年間の最暖月は8月で20.9℃となり、1月の0.0℃と比較すると年較差は約21℃である。今年は、特に冷夏となり盛岡では1924年以来3番目に低い気温となった。月間降水量でみると、盛岡市よりも多く、梅雨時の7月が253mmとなった。風向は盛岡市に較べ特異である。北上低地内は北寄り、西寄り、南寄りの3方向の風におもに支配されている。北上市では、冬（1月）は西寄り68%、北寄り16%、春（4月）は西寄り73%、南寄り20%、夏（7月）は南寄り74%、北寄り19%、秋（10月）は西寄り52%、南寄り32%となり、冬と夏はおよそ盛岡市と同じ傾向を示すものの、春と秋は西寄りの風が特に強い。これは、奥羽山脈を横切る和賀川に起因し、土場周辺でも峡谷に沿った西風の強い日が多くある。

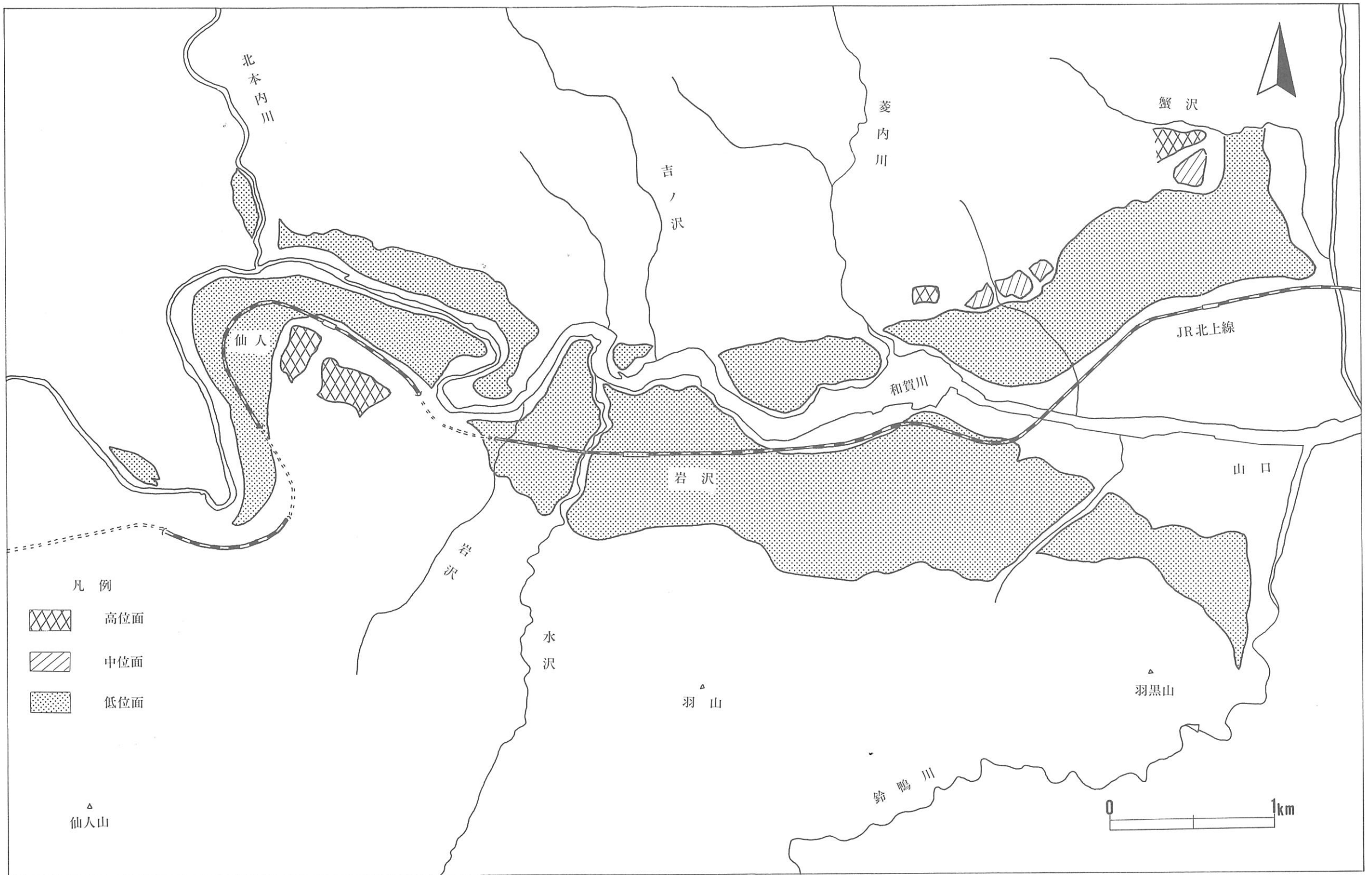
## 2 地 形

土場遺跡は南北に連なる奥羽山脈の東縁にあり、和賀仙人峡谷沿いにある。奥羽山脈東縁と北上低地帯は、およそ南北方向の構造に支配されて接し、和賀仙人付近もこの影響を受けている。湯田ダムから東進してきた和賀川は日本重化学工業㈱のある仙人付近で北北西に進路を変えるが、これは同じく北北西-南南東に流路を持つ北本内川の方向を支配すると考えられる構造の影響による。

和賀川流域の地形については中川ほか（1963,1971）、Toyoshima（1984）、愛宕山報告書（1993）などで報告している。中川ほか（1971）は、和賀川下流沿岸に分布する段丘を、高位より仙人段丘、岩沢高位段丘、岩沢段丘、菱内段丘、綱取段丘、切留段丘、横川目段丘の7段丘面に区分した。また、愛宕山遺跡報告書（1993）では、高位より峠山高位面、峠山低位面・H面、大荒沢面・M1面、大台野面・L1面、小繫沢面の5段丘面に区分した。

和賀仙人付近は南方の焼石岳、須川岳、鬼首火山付近を供給源とする鍵火山灰の分布範囲外と考えられ、より詳しい段丘区分ができない。したがって、上記報告書を参考にし地形の特徴から、愛宕山遺跡報告書の峠山高位面、峠山低位面・H面を高位面、大荒沢面・M1面を中位面、大台野面・L1面、小繫沢面を低位面として区分する。

高位面は、仙人付近の和賀川右岸の高さ320~290mの北向き斜面（峠山高位面）と高さ約250mの西向き斜面（H面）に、左岸の横川目愛宕山の高さ約215mの南向き斜面（H面）に、左岸の蟹沢付近の高さ約180mの斜面（H面）に分布する。面は開析され、常緑針葉樹高木や、2次林と考えられる夏緑広葉樹高木が生育する。



第3図 地形区分図

中位面は、左岸の横川目吉沢付近南向き斜面に、同山田付近南向き斜面に分布する。高さは170～160mである。面は開析され、常緑針葉樹高木や、2次林と考えられる夏緑広葉樹高木が生育する。

低位面は、上位面に較べて開析されていないが、田畑に利用され、段丘崖が不明瞭となっている。高さは土場付近で180～170m、岩沢で180～150m、横川目山田で約125mとなり、岩沢付近では段丘面の発達が顕著でありさらに数段に細分される。

遺跡と段丘の関係は、後述する遺跡のほとんどが低位面に立地するが、ぼうず山遺跡、根洗沢遺跡および愛宕山遺跡は高位面に立地する。本遺跡は低位面に属する。

### 3 地質

奥羽脊梁山脈は、雁行状に配列した背斜構造で形成され、その軸は北北東-南南西方向に持っている。和賀仙人の西側には荒沢森背斜があり、さらにその東側を南北性の断層が発達している。このため峡谷部には、先第三系基盤岩の古生界や中生代花崗岩類が部分的に露出している。また、前述した構造のために、本遺跡以西には下部中新統の大荒沢層が、その東側には下部中新統上部の大石層が分布する。

大荒沢層は、先第三系基盤岩類を不整合に覆う。本層は、緑紫色変朽安山岩溶岩・同質集塊岩・自破碎溶岩・角礫凝灰岩などを主体とし、海底噴出による堆積物である。大石層は、大荒沢層とは漸移または同時異相の関係である。本層は、緑色～淡緑色塊状凝灰角礫岩・淡緑色砂質凝灰岩・凝灰質砂岩・黒灰色凝灰質シルト岩・黒色板状シルト岩を主体とし、安山岩溶岩・流紋岩溶岩およびそれらに伴う火山碎屑岩類などを挟在させる。これら新第三系を覆って、第四系の段丘堆積物である砂礫層や粘土層が堆積している。

本遺跡の遺物は、大荒沢層を基盤とする段丘堆積物最上部付近の黒色土ないし褐色火山灰質粘土層中に包含されている。

### 4 基本層序

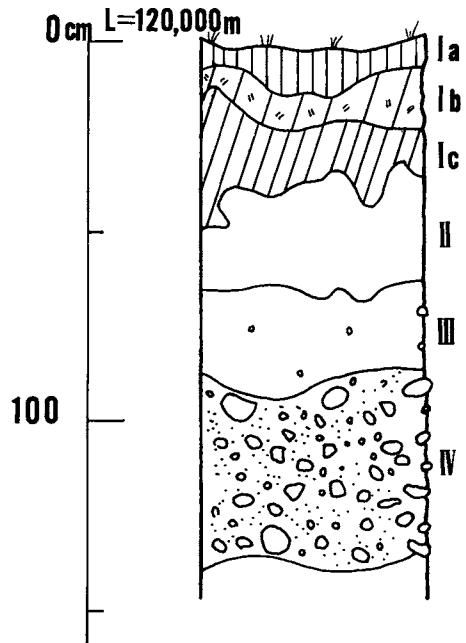
林道より調査区への登り口露頭のグリッドK7南壁面セクションにより記述すると、次のとおりである。(第4図)

I a 層 暗褐色 (10YR 3/3) 表土層。腐植に富み、細根や枯枝を含む。ねばり気がほとんどない。層厚10～15cm。

I b 層 暗褐色 (7.5YR 3/3) 粘土質シルト。若干褐色の粘土が混じるため層理がやや明瞭。細根が入り込み、炭化物や遺物を含む。

層厚10～20cm。

- I c 層 黒褐色 (10YR 2/3) 粘土質シルト。下位ほど粘土分を増す。炭化物や遺物を含む。層厚10~30cm。
- II 層 黄褐色 (10YR 5/8) 粘土。ややしまりがよい。層厚20~30cm。
- III 層 明黄褐色 (10YR 6/6) 礫混じり粘土。しまりがよい。層厚約20cm。
- IV 層 におい黄褐色 (10YR 6/3) 砂礫層。礫は風化が進んでいない。



第4図 基本層序

## 5 周辺の遺跡

和賀仙人から山体と平野の境界付近の横川目、山口地区までの遺跡をとりあげる。分布調査された遺跡は44遺跡で、発掘調査された遺跡は10遺跡である。このうち旧石器を出土する遺跡は6遺跡、縄文土器は41遺跡（早期2、前期7、中期17、後期12、晩期

17）、弥生土器は6遺跡、土師器は3遺跡、須恵器は2遺跡、陶器は1遺跡である。遺構は、竪穴住居跡が1遺跡（第5図の53）、土坑・陥し穴類が6遺跡（8、21、32、50、53、54）、炭焼窯跡が1遺跡（49）、館跡に関係した堀跡や土塁などは5遺跡（25、37、47、48、53）、塚跡は2遺跡（34、46）で検出されている。遺跡はほとんどが低位面に立地するが、ぼうず山遺跡、根洗沢遺跡、愛宕山遺跡は高位面に立地する。以下、縄文土器が出土した遺跡について列挙する。

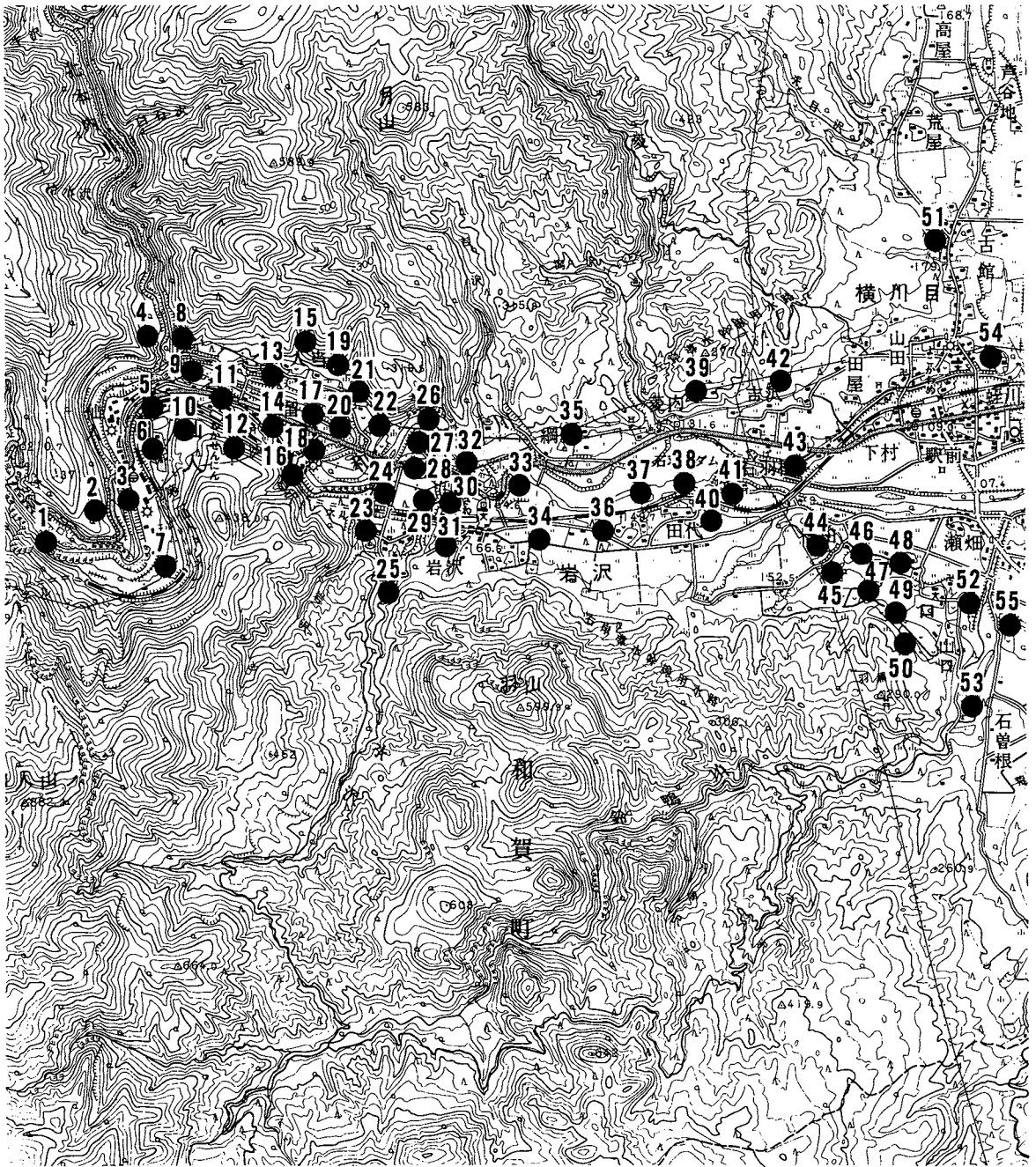
縄文時代早期の土器は、人当I遺跡で出土している。人当I遺跡では、貝殻腹縁と棒状工具による刺突の組み合わせた文様、貝殻条痕文、表裏縄文の3類に区分された土器が出土した。前期の土器は、人当I遺跡、人当III遺跡、下岩沢I遺跡、下仙人館遺跡、愛宕山遺跡で出土している。人当I遺跡では、複節による羽状縄文、単節斜縄文、単節による羽状縄文、S字状縄文の土器が、下岩沢I遺跡では、単節斜縄文、0段多条文の土器が、愛宕山遺跡では羽状縄文が出土している。中期の土器は、夏畑I遺跡、和賀仙人西遺跡、切留I遺跡、ぼうず山遺跡、人当II遺跡、切留II遺跡、人当III遺跡、切留III遺跡、人当IV遺跡、人当I遺跡、岩沢III遺跡、下岩沢I遺跡、御前淵遺跡、羽黒山麓II遺跡、千手堂遺跡、蛭川館遺跡で出土している。人当I遺跡では、施文具による文様（ハ字状の押圧文、単軸絡条体施文後に波状平行沈線文）、粘土紐と原体側面押圧による文様、隆起線と磨り消しによる裝飾文様体の3類に区分された土器が、下岩沢I遺跡では、平行捺糸圧痕文、単節斜縄文の土器が出土し、羽黒山麓II遺跡では沈

線による渦巻文の施された土器が出土している。後期の土器は、切留 I 遺跡、人当 II 遺跡、切留 II 遺跡、人当 III 遺跡、岩沢 I 遺跡、下岩沢 I 遺跡、岩沢 II 遺跡、田代遺跡、羽黒山麓 II 遺跡、蛭川館遺跡、田中館遺跡で出土している。羽黒山麓 II 遺跡では、縦回転単節縄文、縦回転単節縄文で体部に 2 本の沈線を持つもの、口縁部で平行沈線間に刻みを持つもの、櫛搔文を持つものが出土している。晩期の土器は、人当 II 遺跡、人当 I 遺跡、赤石 II 遺跡、下岩沢 III 遺跡、下岩沢 V 遺跡、岩沢 I 遺跡、下岩沢 I 遺跡、岩沢 II 遺跡、鳥谷森遺跡、田代遺跡、田屋遺跡、羽黒山麓 I 遺跡、羽黒山麓 II 遺跡、八幡館遺跡、千手堂遺跡、田中館遺跡で出土している。人当 I 遺跡では、平行沈線と棒状工具の刺突による文様を持つ土器が、下岩沢 I 遺跡では羊歯状文と平行沈線文を持つ土器、雲形文を持つ土器、口縁部で平行沈線間に刻み目を入れ、羊歯状の文様を持つ土器が出土し、羽黒山麓 I 遺跡では単節縄文が出土し、羽黒山麓 II 遺跡では口縁部に数本の沈線を巡らし、口唇部に小さな刻み目を持つもの、浅鉢で入り組み文を施すもの、小突起が連続する波状口縁を持つものなどが出土し、千手堂遺跡では単節縄文を地文とし頸部に 3 本の沈線が巡る土器などが出土している。

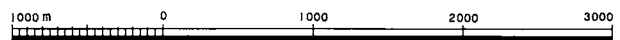
土器型式は次の遺跡で報告がある。

第 1 表 周辺の遺跡出土土器型式

| 番号 | 遺跡名     | 縄文                          |  |                |             |
|----|---------|-----------------------------|--|----------------|-------------|
|    |         | 早期                          | 前期   | 中期             | 晩期          |
| 13 | 人当 II   |                             |  | 大木 7a ~ 8a     | 大洞 C2       |
| 15 | 人当 III  |                             | 大木 6   | 大木 8a          |             |
| 21 | 人当 I    | 鳥木沢 1 群 5<br>寺の沢<br>早稲田 5 類 | 花積下層式<br>上川名 III 式<br>早稲田 6 類<br>長七谷地 III 群<br>大木 2b | 大木 7<br>大木 10  | 大洞 C1<br>C2 |
| 26 | 下岩沢 III |                             |  |                | 大洞 C2       |
| 31 | 岩沢 III  |                             |  | 大木 7b ~ 8b     |             |
| 37 | 下仙人館    |                             | 大木 6   |                |             |
| 41 | 田代      |                             |  |                | 大洞 C2       |
| 50 | 羽黒山麓 II |                             |  | 大木 8b          | 大洞 C2       |
| 52 | 千手堂     |                             |  | 大木 10          | 大洞 C2, A'   |
| 53 | 蛭川館     |                             |  | 大木 7b 8a<br>8b |             |



1:50,000 川尻



第5図 土場遺跡と周辺遺跡位置図

第2表 周辺の遺跡一覧表

| 番号 | 遺跡名    | 種別  | 旧石器 | 遺物 |   |   |   |   |   |    |    |    |    |     | 所在地 |       |
|----|--------|-----|-----|----|---|---|---|---|---|----|----|----|----|-----|-----|-------|
|    |        |     |     | 縄文 |   |   |   |   |   | 石器 | 弥生 | 土師 | 須恵 | その他 |     |       |
|    |        |     |     | 早  | 前 | 中 | 後 | 晩 | 不 |    |    |    |    |     |     |       |
| 1  | 夏畑II   | 散布地 |     |    |   |   |   |   |   |    | ○  |    |    |     |     | 仙人2・8 |
| 2  | 夏畑I    | 散布地 | ○   |    |   | ○ |   |   |   |    |    |    |    |     |     | 仙人8   |
| 3  | 和賀仙人西  | 散布地 |     |    |   | ○ |   |   |   |    |    |    |    |     |     | 仙人2   |
| 4  | 本内     | 散布地 |     |    |   |   |   |   |   | ○  |    |    |    |     |     | 仙人8   |
| 5  | 和賀仙人北  | 散布地 |     |    |   |   |   |   |   | ○  |    |    |    |     |     | 仙人1   |
| 6  | 和賀仙人   | 散布地 | ○   |    |   |   |   |   |   | ○  | ○  |    |    |     |     | 仙人1   |
| 7  | 和賀仙人南  | 散布地 |     |    |   |   |   |   |   | ○  |    |    |    |     |     | 仙人2   |
| 8  | 土場     | 散布地 |     | ○  | ○ | ○ | ○ | ○ |   | ○  |    |    |    |     |     | 仙人8   |
| 9  | 切留I    | 散布地 |     |    |   | ○ | ○ |   |   | ○  |    |    |    |     |     | 仙人4   |
| 10 | ぼうず山   | 散布地 | ○   |    |   | ? |   |   |   | ○  |    |    |    |     |     | 仙人1   |
| 11 | 仙人駅前   | 散布地 |     |    |   |   |   |   |   |    |    |    |    |     |     | 仙人4   |
| 12 | 根洗沢    | 散布地 | ○   |    |   |   |   |   |   |    |    |    |    |     |     | 仙人1   |
| 13 | 人当II   | 散布地 |     |    |   | ○ | ○ | ○ |   |    |    |    |    |     |     | 仙人8   |
| 14 | 切留II   | 散布地 |     |    |   | ? | ? |   |   | ○  |    |    |    |     |     | 仙人5   |
| 15 | 人当III  | 散布地 |     |    |   | ○ | ○ |   |   | ○  |    |    |    |     |     | 仙人8   |
| 16 | 切留V    | 散布地 | ○   |    |   |   |   |   |   |    |    |    |    |     |     | 仙人5   |
| 17 | 切留III  | 散布地 |     |    |   | ○ |   |   |   | ○  |    |    |    |     |     | 仙人5   |
| 18 | 切留IV   | 散布地 |     |    |   |   |   |   |   | ○  | ○  |    |    |     |     | 仙人6   |
| 19 | 人当IV   | 散布地 |     |    |   | ○ |   |   |   |    |    |    |    |     |     | 仙人8   |
| 20 | 赤石I    | 散布地 |     |    |   |   |   |   |   | ○  | ○  |    |    |     |     | 仙人9   |
| 21 | 人当I    | 散布地 |     | ○  | ○ | ○ |   | ○ |   | ○  | ○  |    |    |     |     | 仙人9   |
| 22 | 赤石II   | 散布地 |     |    |   |   |   | ○ |   |    |    |    |    |     |     | 仙人9   |
| 23 | 法ヶ松I   | 散布地 |     |    |   |   |   |   |   | ○  | ○  |    |    |     |     | 岩沢8   |
| 24 | 法ヶ松II  | 散布地 |     |    |   |   |   |   |   | ○  | ○  |    |    |     |     | 岩沢8   |
| 25 | 水沢館    | 館跡  |     |    |   |   |   |   |   |    |    |    |    |     |     | 岩沢8   |
| 26 | 下岩沢III | 散布地 |     |    |   |   |   | ○ |   | ○  |    |    |    |     |     | 岩沢8   |
| 27 | 下岩沢II  | 散布地 |     |    |   |   |   |   |   | ○  | ○  |    |    |     |     | 岩沢8   |



| 番号 | 遺跡名    | 種別  | 旧石器 | 遺物 |   |   |   |   |   |    |    |    |    |     | 所在地 |         |
|----|--------|-----|-----|----|---|---|---|---|---|----|----|----|----|-----|-----|---------|
|    |        |     |     | 縄文 |   |   |   |   |   | 石器 | 弥生 | 土師 | 須恵 | その他 |     |         |
|    |        |     |     | 早  | 前 | 中 | 後 | 晩 | 不 |    |    |    |    |     |     |         |
| 28 | 下岩沢IV  | 散布地 |     |    |   |   |   |   |   |    |    |    |    |     |     | 岩沢8     |
| 29 | 下岩沢V   | 散布地 |     |    |   |   |   | ○ |   | ○  |    |    |    |     |     | 岩沢8     |
| 30 | 岩沢I    | 散布地 |     |    |   |   | ○ | ○ |   | ○  |    |    |    |     |     | 岩沢9     |
| 31 | 岩沢III  | 散布地 |     |    | ○ |   |   |   |   | ○  |    |    |    |     |     | 岩沢8     |
| 32 | 下岩沢I   | 集落地 |     | ○  | ○ | ○ | ○ | ○ |   | ○  | ○  |    |    |     |     | 岩沢9     |
| 33 | 岩沢II   | 散布地 |     |    |   |   | ○ | ○ |   | ○  |    |    |    |     |     | 岩沢9     |
| 34 | 上山田塚   | 塚   |     |    |   |   |   |   |   |    |    |    |    |     |     | 岩沢10    |
| 35 | 鳥谷森    | 散布地 |     |    |   |   |   | ○ |   | ○  |    |    |    |     |     | 横川目     |
| 36 | 下仙人    | 散布地 |     |    |   |   |   |   |   | ○  |    |    |    |     |     | 岩沢9     |
| 37 | 下仙人館   | 館   |     | ○  |   |   |   |   |   | ○  |    |    |    |     | 陶器  | 岩沢9     |
| 38 | 御前淵    | 散布地 |     |    | ? |   |   |   |   |    |    |    |    |     |     | 山口15    |
| 39 | 愛宕山    | 散布地 | ○   | ○  |   |   |   |   |   |    |    |    |    |     |     | 横川目5    |
| 40 | 泉      | 散布地 |     |    |   |   |   |   | ○ |    |    |    | ○  |     |     | 山口13    |
| 41 | 田代     | 散布地 |     |    |   |   | ○ | ○ |   | ○  | ○  |    |    |     |     | 山口14・15 |
| 42 | 田屋     | 散布地 |     |    |   |   |   | ○ |   |    |    |    |    |     |     | 横川目6    |
| 43 | 吉沢     | 散布地 |     |    |   |   |   |   |   | ○  |    |    |    |     |     | 横川目8    |
| 44 | 小吹野    | 散布地 |     |    |   |   |   |   |   | ○  | ○  |    | ○  |     |     | 山口18    |
| 45 | 新田真平   | 散布地 |     |    |   |   |   |   |   |    |    | ○  |    |     |     | 山口22    |
| 46 | 福田塚    | 塚   |     |    |   |   |   |   |   |    |    |    |    |     |     | 山口23    |
| 47 | 馬場館    | 館   |     |    |   |   |   |   |   | ○  |    |    |    |     |     | 山口23・24 |
| 48 | 福田館    | 館   |     |    |   |   |   |   |   | ○  | ○  |    | ○  |     |     | 山口45・46 |
| 49 | 羽黒山麓I  | 散布地 |     |    |   |   |   |   | ○ | ○  |    |    |    |     |     | 山口23    |
| 50 | 羽黒山麓II | 散布地 |     |    | ○ | ○ | ○ | ○ |   | ○  | ○  |    |    |     |     | 山口38    |
| 51 | 八幡館    | 散布地 |     |    |   |   |   |   | ○ |    |    | ○  |    |     |     | 横川目     |
| 52 | 千手堂    | 散布地 |     |    | ○ |   | ○ |   |   | ○  |    |    |    |     |     | 山口23    |
| 53 | 蛭川館    | 散布地 |     |    | ○ | ○ |   |   |   | ○  |    |    |    |     |     | 横川目     |
| 54 | 田中館    | 館   |     | ○  |   |   | ○ | ○ |   | ○  |    |    | ○  | ○   |     | 山口      |

※ ?は報告書で推定、不：時期不明

### III ・ 野外調査と室内整理の方法

#### 1 野外調査

##### (1) 調査区割の設定と遺構名

本遺跡は、北本内ダム建設事務所設置した2級 (No.6, 7)、3級 (No.1) 基準点を使用し、基準点1、2を設置した。基準点の成果は次の通りである。

基準点1  $X = -76670.000$   $Y = +6550.000$

基準点2  $X = -76670.000$   $Y = +6570.000$

グリッドは、基1と基2を結ぶ線と、この線に直交する線を基準線にした。これをもとに調査区全体をカバーするように2m間隔の大区画を設定し、西から東に1～12の数字を、北から南へA～Kのアルファベットを付し、両者の組み合わせによって区画をし、F4のように表した。

遺構名は、遺構の種類と検出順位を組み合わせ、F4-1号土坑、G6-1号陥し穴のように表した。

##### (2) 粗掘・遺構検出と精査

検出面までの深さ及び層序の確認のため2m四方の試掘を段丘の縁沿いに4ヶ所行い、遺物包含層がI b層I c層であり、遺構検出面がII層であることを確認してから、調査区の1/3を手掘りで行った。発掘調査期間が1ヶ月と短いことより、残り2/3を重機によりI c層下部まで掘り下げた。

検出された遺構は、原則として2分法で精査した。精査の各段階において必要図面の作成や写真撮影を行った。

遺構内出土の遺物は、埋土では一括として取り上げた。底面出土の遺物はなかった。遺構外出土の遺物については各区画単位に出土した層位を記入して取り上げた。

##### (3) 実測方法・写真撮影

実測は女性協力員2人一組で、簡易遣り方測量で行った。実測図は平面図・断面図とも1/10～1/20の縮尺で作成した。

写真撮影は、6×7cm版1台(白黒)と35mm版2台(白黒、カラーリバーサル)の3台を1組として使用し、埋土断面・全景・遺物出土状況等を撮影した。

#### 2 室内整理

##### (1) 作業手順

雨天時に遺物の水洗いを発掘現場で行い、併せて接合・復元可能な遺物を観察した。室内整理では遺物の仕分け登録を行い、報告書掲載分について写真撮影を行った。その後、遺物実測、遺構第二原図作成、遺構・遺物トレース、土器拓本の順に作業を進め、最後に図版と写真図版を作成した。これらの作業と併行して観察、鑑定、計測、原稿作成を行い報告書に掲載した。

#### (2) 遺構図版

各遺構図版は以下の縮尺を原則としたが、一部には縮尺の変更もあり、図版にはそれぞれスケール・縮尺を付した。

土坑・陥し穴の平面図・断面図……………1/40

遺構配置図は発掘調査時に作成した図面を基本に1/500の縮尺図を作成した。

#### (3) 遺物図版

本遺跡から出土した遺物には、土坑・陥し穴から出土した遺物、遺構外から出土した遺物ごとに一連の遺物番号を付した。

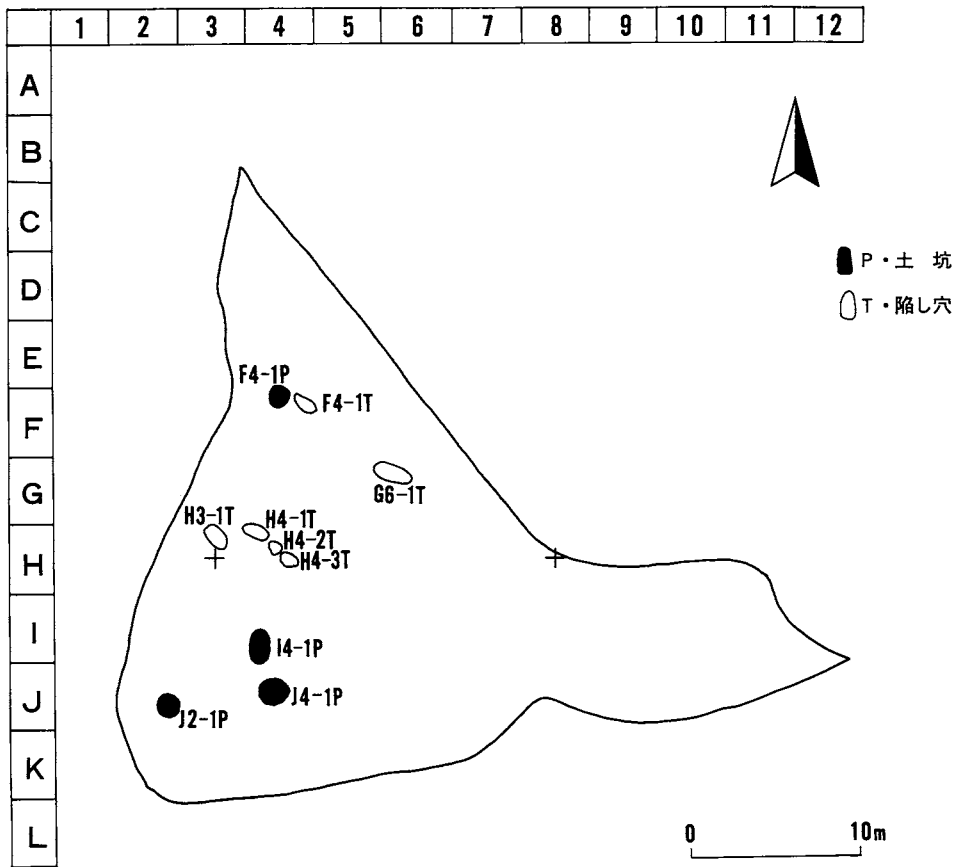
掲載遺物の縮尺率は次の通りである。

土器の実測図……………1/6 拓本……………1/3

剝片石器 ……………2/3～1/2 礫石器……………1/3

#### (4) 写真図版

写真の縮尺は遺構・遺物とも不定である。遺物の写真番号は遺物図版番号と同一番号とした。ただし、出土した遺物のうち限られたものしか実測できなかったため、石器については実測できなかったものも含めてできるだけ多く掲載した。したがって、実測図はないが、写真のある石器がある。



第6図 遺構配置図

## IV 遺構と遺物

検出された遺構は、縄文時代の遺構と考えられる土坑4基、陥し穴状遺構6基である。(第6図)

### 1 土坑

#### (1) F4-1号土坑

遺構(第7図、写真図版3):調査区北側のF4区に位置し、II層上面で暗褐色土の落ち込みを確認した。F4-1号陥し穴状遺構と隣接している。開口部は不整円形、頸部は不整楕円形、底部は不整円形を呈する。断面形はフラスコ状である。規模は開口部径128×121cm、頸部径117×96cm、底部径138×127cmである。壁高は約40cmである。底面はIII層であり、全般的に平坦で開削時明緑色を呈していた。

堆積土は2層に区分された。ほぼ全体が暗褐色土で埋まり、壁際には地山崩壊土が見られる。

遺物(第7図、写真図版6):埋土から土器片3点、石器1点が出土した。1は口縁部である。斜位沈線の下に2条の平行沈線文を、その下位に馬蹄形の刺突を施している。2は条痕文が、3は捺糸文(単軸絡条体)が施され、植物繊維が含まれる。4は石筥である。

時期:遺構の規模や形態、遺物の時代から類推して、縄文時代の遺構と考えられる。

#### (2) I4-1号土坑

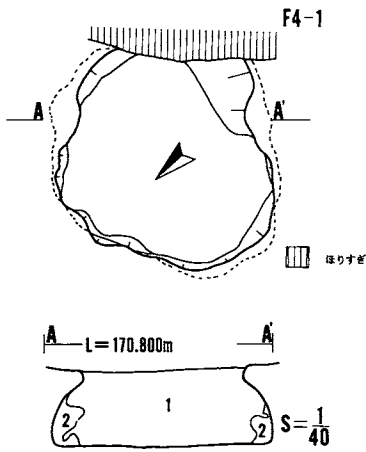
遺構(第7図、写真図版4):I4区に位置し、II層上面で確認した。開口部、底部とも不整楕円形を呈する。断面形は浅鉢形である。規模は開口部径170×106cm、底部径105×59cmである。壁高は約36cmで、底面から緩く立ち上がる。底面はIII層である。堆積土はI層のみである。

遺物(第7図、写真図版6):埋土から土器片2点、石器2点が出土した。5、6は口縁部で5は平縁、6は小波状を呈する。ともに植物繊維を混入し、不整捺糸文で施されている。7は不定形石器、8は石筥で刃部が欠損している。

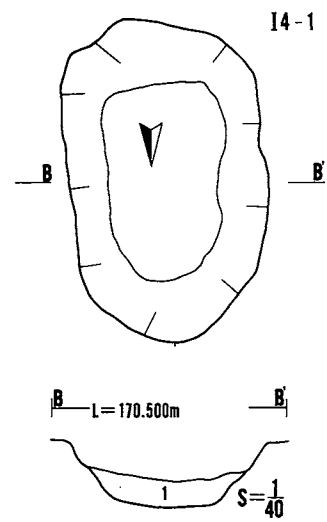
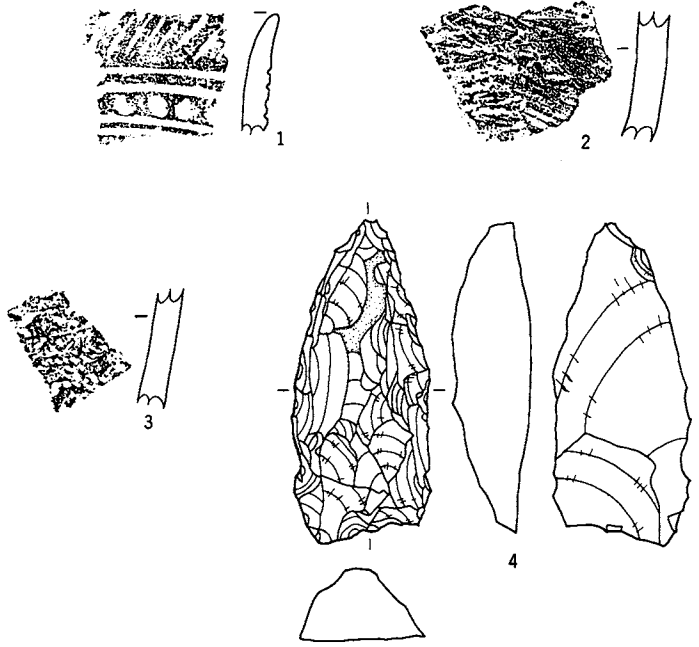
時期:遺構の規模や形態、遺物の時代から類推して、縄文時代の遺構と考えられる。

#### (3) J2-1号土坑

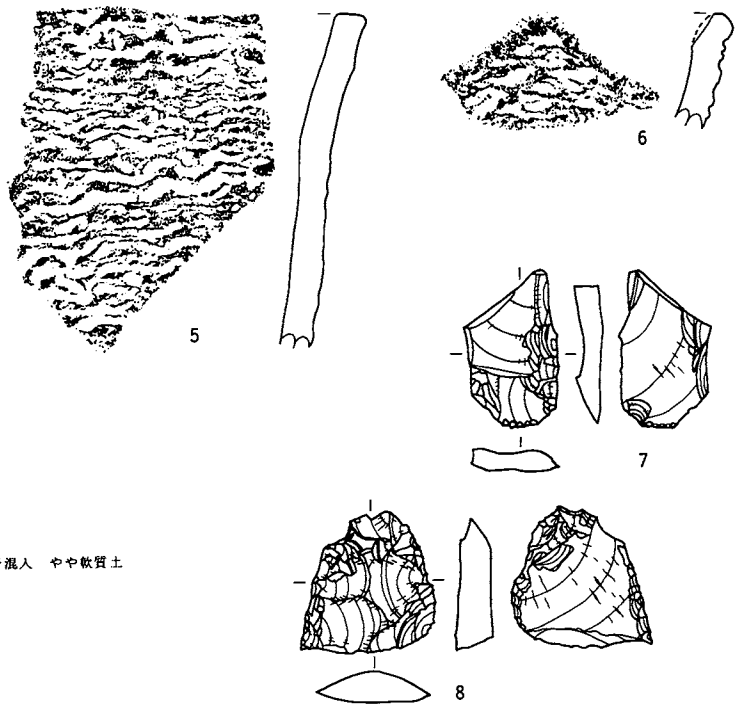
遺構(第8図、写真図版3):調査区南西端のJ2区に位置し、II層上面で確認した。開口部、底部とも不整円形を呈する。断面形は碗形である。規模は開口部径128×114cm、底部径104×98cmである。壁高は約50cmで、底面から緩やかに立ち上がる。底面はIV層上面である。堆積土



- 1 7.5YR 3/3 暗褐色土 細粒 粘性やや有り  
 2 7.5YR 4/4 褐色土 しまりやや有り

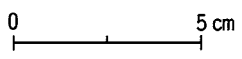


- 1 7.5YR 3/4 暗褐色土 細粒砂 明褐色粘質土若干混入 やや軟質土



(単位: g, cm)

| No | 器種  | 出土区       | 長さ  | 幅   | 厚さ  | 重量   | 石質    | 産地           | 備考 |
|----|-----|-----------|-----|-----|-----|------|-------|--------------|----|
| 4  | 石碗  | F4-1号土坑埋土 | 8.5 | 3.7 | 1.9 | 57.0 | 珪質泥岩  | 川尻以西 新第三系中新統 |    |
| 7  | 不定形 | I4-1号土坑埋土 | 4.2 | 2.5 | 0.6 | 7.2  | 細粒凝灰岩 | 川尻以西 新第三系中新統 |    |
| 8  | 石碗  | I4-1号土坑埋土 | 3.7 | 3.6 | 0.8 | 13.0 | 凝灰質泥岩 | 川尻以西 新第三系中新統 |    |



第7図 F4-1、I4-1号土坑・遺物

は4層に区分された。上位3層に炭化物の混入が認められた。

遺物（第8図、写真図版6）：埋土から土器片3点、石器2点が出土した。1は原体LRの、2は原体RLの単節斜縄文である。3は口縁部で内湾する。沈線文と貝殻腹縁圧痕文で施される。4は不定形石器である。5は石籠で刃部が欠損している。

時期：遺構の規模や形態、遺物の時代から類推して、縄文時代の遺構と考えられる。

#### (4) J4-1号土坑

遺構（第8図、写真図版3）：調査区南側のJ4区に位置し、II層上面で暗褐色土の落ち込みを確認した。開口部は不整形円形、頸部と底部は不整楕円形を呈する。断面形は両壁下部が外側に湾曲した鉢形を呈する。規模は開口部径168×152cm、底部径134×96cmである。壁高は約66cmで、外側に湾曲しながら立ち上がり、開口部は大きく開く。底面はIV層上面である。堆積土は3層に区分された。底部付近は暗褐色土がレンズ状に堆積し、その上に暗褐色土と黄褐色土の混合層がのる。

遺物（第8～9図、写真図版6～7）：土器片は5を除いて植物繊維を混入させ、すべてに石英粒を含む。また4には輝石を含む。6は0段多条による環付単節斜縄文、7は単節斜縄文、8は原体LRの単節斜縄文、9は貝殻腹縁圧痕文と刺突文、10は不整捺糸文が施される。11、12は不定形石器で、11は2縁辺に使用痕が認められる。12は1縁辺に刃部がある。13はすり石で、断面が楕円形状で器体の側縁部にすり面がある。14は凹石で、表裏面の長軸に沿って複数の窪みがある。

時期：遺構の規模や形態、遺物の時代から類推して、縄文時代の遺構と考えられる。

## 2 陥し穴

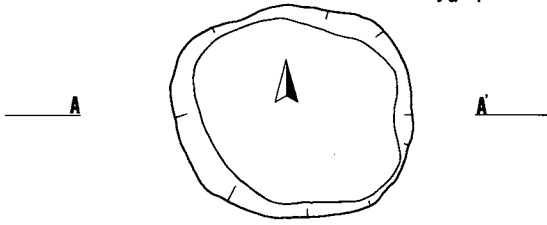
### (1) F4-1号陥し穴

遺構（第10図、写真図版4）：調査区北側のF4区に位置し、II層上面で暗褐色土の落ち込みを確認した。F4-1号土坑と隣接している。開口部は不整形円形、底部は隅丸長方形で、長軸方向はNW-SEである。断面形は短軸がピーカー状を呈するが、開口部が大きく開くため、片側上部が緩く立ち上がる。長軸は長方形を呈し、開口部は開く。規模は開口部径156×108cm、底部径113×33cmである。壁高は約80cmで、全体的には底面からほぼ垂直に立ち上がる。底面はIV層上面である。堆積土は7層に区分された。主体をなすのは5層で暗褐色土と黄褐色土の混合層である。

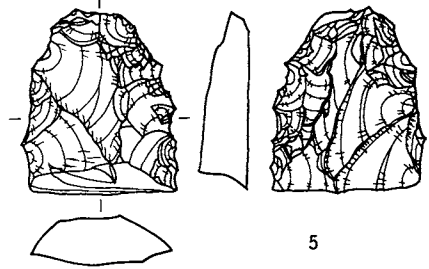
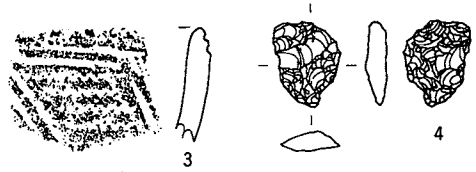
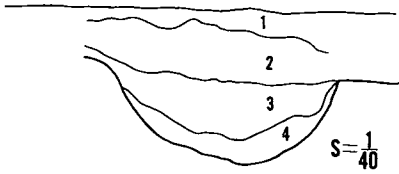
遺物：遺物は出土しなかった。

時期：周辺にある遺構とそれほどの時期差は無いものと推定される。

12-1



L = 170.900m

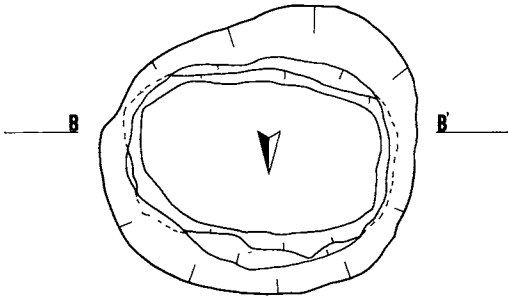


- 1 10YR 3/3 暗褐色土 シルト しまりなし 炭化物含
- 2 10YR 2/3 黒褐色土 粘土混じりシルト しまりなし 炭化物含
- 3 10YR 3/4 暗褐色土 粘土質シルト しまりなし 炭化物含
- 4 10YR 5/6 黄褐色土 礫質粘土(φ10mm) しまり有り

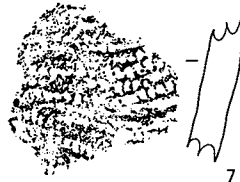
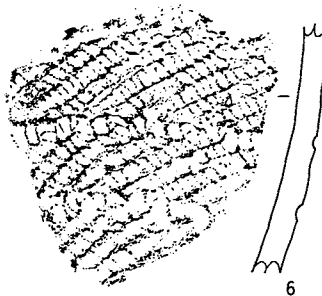
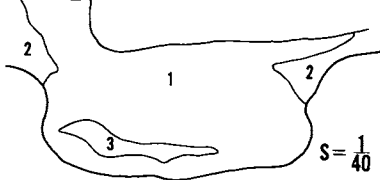
(単位: g, cm)

| No. | 器種  | 出土区       | 長さ  | 幅   | 厚さ  | 重量   | 石質    | 産地   | 備考      |
|-----|-----|-----------|-----|-----|-----|------|-------|------|---------|
| 4   | 不定形 | J2-1号土坑埋土 | 2.3 | 1.7 | 0.5 | 1.8  | 黒曜石   |      |         |
| 5   | 石匱  | J2-1号土坑埋土 | 4.9 | 4.1 | 1.3 | 26.2 | 凝灰質泥岩 | 川尻以西 | 新第三系中新統 |

14-1



L = 170.800m

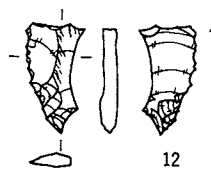
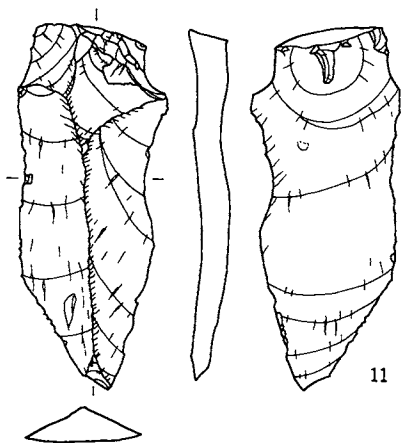
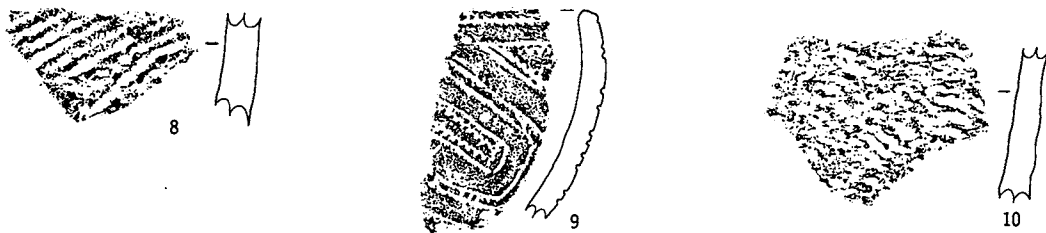


- 1 10YR 3/3 暗褐色土 粘土質シルト しまりなし 粘性やや有り
- 3/4 暗褐色土と5/6黄褐色土が斑点状に混入
- 2 10YR 4/4 褐色土 砂質粘土 しまりなし 粘性やや有り
- 3 10YR 2/2 黒褐色土 粘土質シルト しまりなし 粘性やや有り

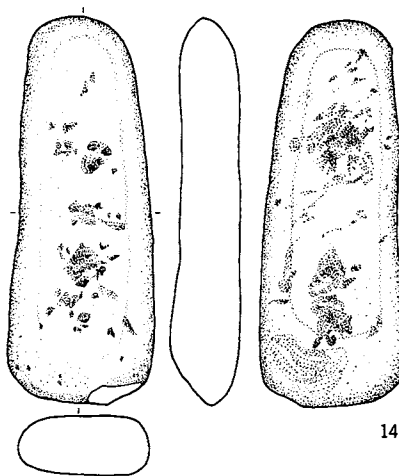
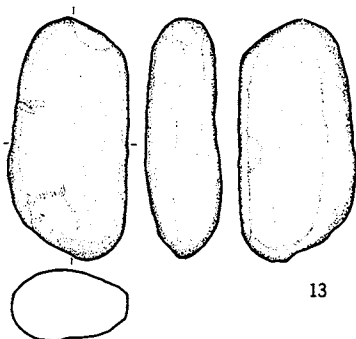
0 5 cm

第8図 J2-1、J4-1号土坑・遺物(1)





0 5cm

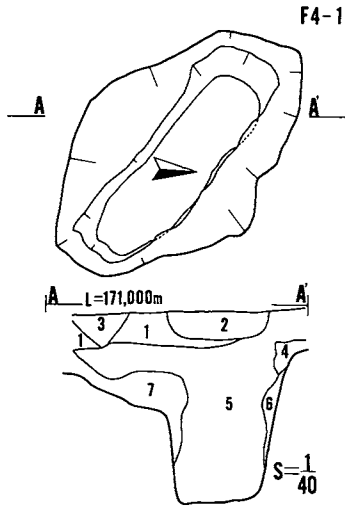


0 10cm

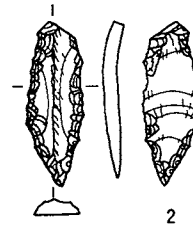
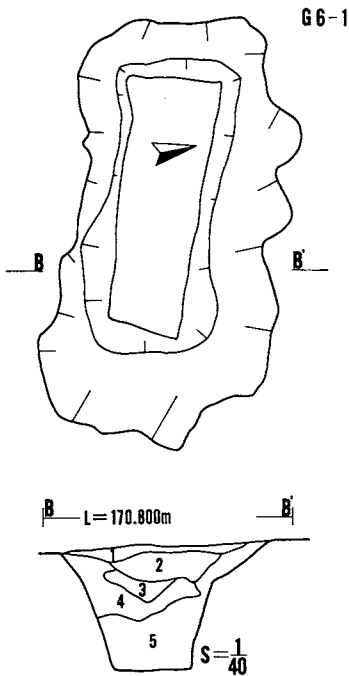
(単位: g, cm)

| No | 器種  | 出土区       | 長さ   | 幅   | 厚さ  | 重量    | 石質     | 産地   | 備考      |
|----|-----|-----------|------|-----|-----|-------|--------|------|---------|
| 11 | 不定形 | J4-1号土坑埋土 | 9.6  | 4.0 | 0.9 | 31.2  | 凝灰質泥岩  | 川尻以西 | 新第三系中新統 |
| 12 | 不定形 | J4-1号土坑埋土 | 2.9  | 1.6 | 0.4 | 1.5   | 細粒凝灰岩  | 川尻以西 | 新第三系中新統 |
| 13 | 擦石  | J4-1号土坑埋土 | 10.8 | 6.4 | 3.8 | 428.0 | 淡緑色凝灰岩 | 奥羽山地 | 新第三系中新統 |
| 14 | 凹石  | J4-1号土坑埋土 | 20.6 | 7.8 | 3.6 | 740.0 | 淡緑色凝灰岩 | 奥羽山地 | 新第三系中新統 |

第9図 J4-1号土坑遺物(2)



- 1 7.5YR 3/3 暗褐色土 しまりやや有り
- 2 7.5YR 4/3 褐色土 粘性やや有り
- 3 7.5YR 6/3 にぶい褐色土 ブロック状 粘性有り
- 4 7.5YR 3/4 暗褐色土 比較的細粒 しまり有り
- 5 7.5YR 3/3 暗褐色土 細粒 若干砂礫入り
- 6 7.5YR 5/6 明褐色土 粘性やや有り
- 7 7.5YR 3/2 黒褐色土 細粒 さらさらしている



0 5 cm

(単位: g, cm)

| No | 器種 | 出土区        | 長さ  | 幅   | 厚さ  | 重量  | 材質    | 産地           | 備考 |
|----|----|------------|-----|-----|-----|-----|-------|--------------|----|
| 2  | 石鏃 | G6-1号陥し穴埋土 | 4.4 | 1.5 | 0.4 | 2.6 | 凝灰質泥岩 | 川尻以西 新第三系中新統 |    |

- 1 7.5YR 4/4 褐色土 しまり有り
- 2 7.5YR 4/6 褐色土 粘性やや有り
- 3 7.5YR 5/6 明褐色土 粘性やや有り
- 4 7.5YR 3/3 暗褐色土 比較的さらさらしている
- 5 7.5YR 3/2 黒褐色土 若干軟らかくしまり有り
- 6 5YR 2/2 黒褐色土 粘性やや有り 明褐色土混入

第10図 F4-1、G6-1号陥し穴状遺構・遺物

## (2) G6-1 号陥し穴状遺構

遺構（第10図、写真図版4）：調査区北東側のG6区に位置し、II層上面で暗褐色土の落ち込みを確認した。開口部は不整長方形、底部は長方形で、長軸方向はWNW-ESEである。断面形は短軸が鉢状を、長軸が長方形を呈し、ともに開口部は大きく開く。規模は開口部径222×110cm、底部径134×44cmである。壁高は約66cmで、底面からやや緩く立ち上がる。底面はIV層上面で、巨礫が2個認められた。堆積土は6層に区分された。褐色系土で下位ほど暗色を呈する。

遺物（第10図、写真図版6）：1は貝殻文と条痕文で施されている。口縁部は平縁で外反し、口唇部は逆V字状を呈する。胎土には石英粒の他、輝石粒が含まれる。口縁部上端に斜位貝殻腹縁圧痕文、その下位に棒状工具による横位平行沈線文が施される（平行沈線文に縦位の沈線文が見えるが、発掘時の傷である）。2は石錐である。棒状で、頭部と身部の区別ができない。頭部が一部欠損している。縦長剝片を素材とし、身部側に打面がある。半両面調整で、背面は第1次剝離で生じた稜線を中央に残し、その全周縁に細部調整を施している。腹面は、頭部端と先端部にだけ細部調整を施している。

時期：遺構の規模や形態、遺物の時代から類推して、縄文時代の遺構と考えられる。

## (3) H3-1 号陥し穴

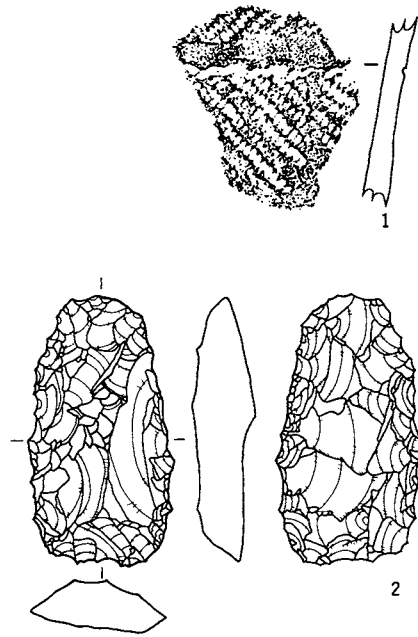
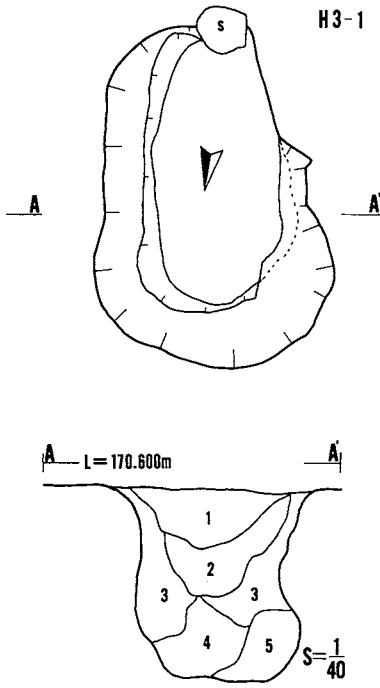
遺構（第11図、写真図版4）：調査区西側のH3区に位置し、II層上面で暗褐色土の落ち込みを確認した。基準杭1に近接するため一部開口部付近を十分に掘れなかったが、開口部、底部ともに楕円形を呈すると推定される。長軸方向はほぼN-Sである。断面形は短軸がおよそピーカー状を、長軸が長方形を呈し、開口部は大きく開く。規模は開口部径183×110cm、底部径148×65cmである。壁高は約102cmで、全体的には底面からほぼ垂直に立ち上がる。底面はIV層上面である。堆積土は5層に区分された。壁際は地山崩壊土である。

遺物（第11図、写真図版7）：1は0段多条による異方向環付単節斜縄文で施される。2は石篋である。木葉形で両面調整をしている。

時期：遺構の規模や形態、遺物の時代から類推して、縄文時代の遺構と考えられる。

## (4) H4-1 号陥し穴

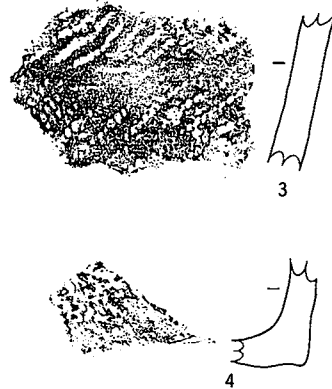
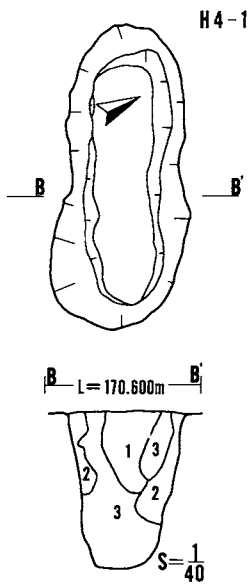
遺構（第11図、写真図版5）：調査区西側のH4区に位置し、II層上面で黒褐色土～褐色土の落ち込みを確認した。H4-2号、H4-3号陥し穴が隣接する。開口部は不整楕円形、底部は隅丸長方形で、長軸方向はほぼWNW-ESEである。断面形は短軸が鉢形、長軸が長方形を呈



- 1 7.5YR 3/3 暗褐色土 比較的軟質
- 2 7.5YR 4/3 褐色土 細粒 しまりやや有り
- 3 7.5YR 4/6 褐色土 細砂若干混入 比較的粘性有り
- 4 7.5YR 5/3 にぶい褐色土 粘性やや有り しまり有り
- 5 7.5YR 3/2 黒褐色土 明褐色土細砂が若干混入 比較的粘性有り

(単位: g, cm)

| No | 器種 | 出土区        | 長さ  | 幅   | 厚さ  | 重量   | 石質    | 産地           | 備考 |
|----|----|------------|-----|-----|-----|------|-------|--------------|----|
| 2  | 石鏡 | H3-1号陥し穴埋土 | 7.0 | 3.6 | 1.4 | 40.4 | 細粒凝灰岩 | 川尻以西 新第三系中新統 |    |



0 5 cm

- 1 10YR 4/6 褐色土 粘土質シルト 粘性やや有り しまりなし
- 2 10YR 5/6 黄褐色土 シルト質粘土 粘性有り しまりなし
- 3 10YR 2/2 黒褐色土 シルト 粘性やや有り しまりなし

第11図 H3-1、H4-1号陥し穴状遺構・遺物

し、開口部が開く。規模は開口部径161×62cm、底部径124×30cmである。壁高は約84cmで、底面からほぼ垂直に立ち上がる。底面はIV層上面である。堆積土は3層に区分された。壁際は地山崩壊土である。

遺物（第11図、写真図版7）：3は原体LRの単節斜縄文で施され、胎土に石英粒の他、輝石粒を含む。4は底部で平底を呈する。

時期：遺構の規模や形態、遺物の時代から類推して、縄文時代の遺構と考えられる。

#### (5) H4-2号陥し穴

遺構（第12図、写真図版5）：調査区西側のH4区に位置し、II層上面で暗褐色土の落ち込みを確認した。H4-1号、H4-3号陥し穴状遺構が隣接する。開口部は楕円形、底部は隅丸長方形で、長軸方向はほぼNNW-SSEである。断面形は短軸が鉢形、長軸が長方形を呈し、開口部が開く。規模は開口部径131×99cm、底部径115×56cmである。壁高は約90cmで、底面からほぼ垂直に立ち上がり、開口部で緩くなる。底面はIV層上面で、凹凸がある。堆積土は6層に区分された。底部から黒褐色土、褐色土、暗褐色土の順に堆積する。上部には礫も混入し、人為的に埋め戻されたとも考えられる。

遺物：遺物は出土しなかった。

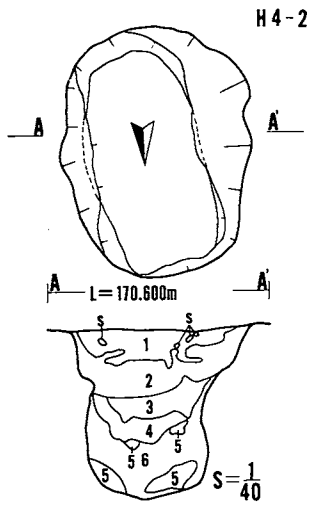
時期：周辺にある遺構とそれほどの時期差は無いものと推定される。

#### (6) H4-3号陥し穴

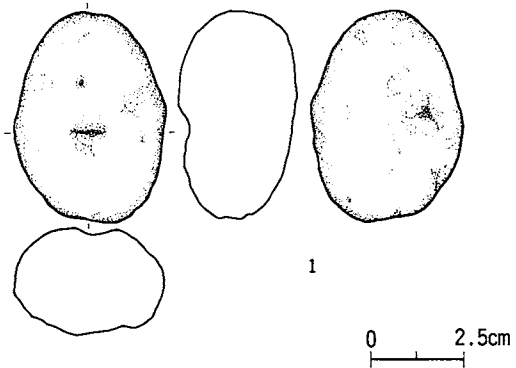
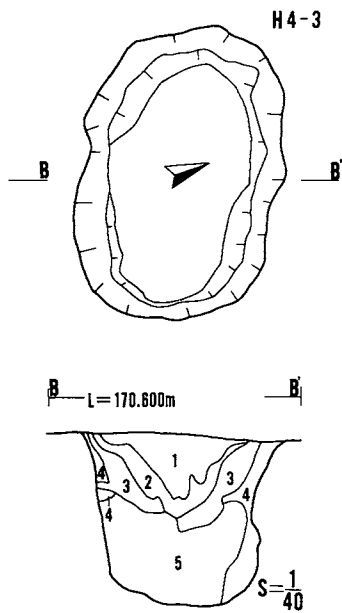
遺構（第12図、写真図版5）：調査区西側のH4区に位置し、II層上面で黒褐色土の落ち込みを確認した。H4-1号、H4-2号陥し穴状遺構が隣接する。開口部、底部ともにおよそ楕円形で、長軸方向はほぼNW-SEである。断面形は短軸が鉢形、長軸が長方形を呈し、開口部が開く。規模は開口部径159×101cm、底部径130×74cmである。壁高は約90cmで、底面からほぼ垂直に立ち上がる。底面はIV層上面である。堆積土は5層に区分された。下部は褐色土主体に黄褐色土との混合層で、その上に黒褐色土が堆積する。

遺物（第12図、写真図版7）：1は楕円形状の凹石で、器体の中心部に窪みを持つ。

時期：遺構の規模や形態、遺物の時代から類推して、縄文時代の遺構と考えられる。



- 1 10YR 3/3 暗褐色土 シルト 礫混入 粘性やや有り しまりなし
- 2 10YR 5/6 黄褐色土 粘土 礫混入 炭化物 粘性有り しまりやや有り
- 3 10YR 4/6 褐色シルト質粘土と3/3暗褐色シルトとの混合層 粘性やや有り しまりなし
- 4 10YR 2/2 黒褐色土 シルト 粘性やや有り
- 5 10YR 5/8 黄褐色土 粘土 粘性有り しまりなし
- 6 10YR 4/4 褐色粘土と2/2黒褐色シルトとの混合層 粘性やや有り しまりなし



(単位: g, cm)

| No | 器種 | 出土区        | 長さ   | 幅   | 厚さ  | 重量    | 石質      | 産地     | 備考      |
|----|----|------------|------|-----|-----|-------|---------|--------|---------|
| i  | 凹石 | H4-3号陥し穴埋土 | 10.2 | 8.2 | 5.8 | 648.0 | 砂質緑色凝灰岩 | 奥羽山地一帯 | 新第三系中新統 |

- 1 10YR 2/3 黒褐色土 シルト 粘性やや有り しまりなし
- 2 10YR 2/2 黒褐色土 粘土質シルト 粘性やや有り しまりなし
- 3 10YR 2/2 黒褐色土、黄褐色土混じり粘土質シルト 粘性やや有り しまりなし
- 4 10YR 5/8 黄褐色土 粘土 粘性有り しまり有り
- 5 10YR 5/6 黄褐色土と4/4褐色土混じりシルト質粘土 粘性やや有り しまりなし

第12図 H4-2、H4-3号陥し穴状遺構・遺物

### 3 遺構外出土遺物

#### (1) 土器

遺構外から出土した土器片は、総数約920片である。遺物の取り上げは、グリッド一括で行った。層位的には、I b層およびII c層から出土している。

土器片は大部分破片資料であり、同一個体の同定は容易ではないので、土器個体の全体的把握ではなく、部位毎の施文特徴を観察した。復元土器は約1/4個体1点だけである。

出土した土器の時期を概観すると、縄文時代早期から晩期までと考えられるが、完形品がないため、ここでは施文特徴により次のように分類する。

第1群 貝殻文・沈線文・刺突文それぞれの単独で、またはそれらの組み合わせで施文されるもの

- a類 貝殻文で文様を構成するもの
- b類 沈線文で文様を構成するもの
- c類 刺突文で文様を構成するもの
- d類 貝殻文と沈線文の組み合わせにより文様を構成するもの
- e類 沈線文と刺突文の組み合わせにより文様を構成するもの
- f類 貝殻文と沈線文と刺突文の組み合わせにより文様を構成するもの

第2群 隆起線文で施文されるもの

第3群 胎土に植物繊維を含むもの

- a類 無節斜縄文
- b類 単節斜縄文
- c類 複節斜縄文
- e類 撚糸文
- d類 結節回転文
- f類 その他

(刺突文または、刺突文と撚糸文や縄文により文様を構成するもの)

第4群 胎土に植物繊維を含まないもの

- a類 縄文で施文されるもの
  - 1種 単節
  - 2種 表裏縄文
  - 3種 その他

b類 縄文以外で施文されるもの

第5群 その他

第1群土器

植物性繊維を混入せず、貝殻文・沈線文・刺突文の文様で構成される土器を本群とした。本土器群を、それらの組み合わせによりa～f類に分けた。

a類 (第13図1～18、写真図版8：1～18)

貝殻腹縁圧痕文および貝殻腹縁条痕文を施す土器である。18片掲載する。胎土には石英粒を含み、4,15,16には顕著に見られる。6には石英粒の他に有色鉱物(輝石など)や長石類を含む。ほとんどが砂粒を含むが、7は礫まじり(φ3～5mm)である。焼成は土器により堅緻なものと脆弱なものがあり、全般的な傾向として良好である。器厚は、9mm前後のもの(1,2,3,4,5,11,12,14,17,18)と6mm前後(6,7,8,9,10,13,15,16)のものに分かれ、前者は大形の、後者は小形の貝殻による施文の特徴がある。外面に炭化物が付着しているものがある(1,2,3,11)。

口縁部の形態は平縁である。口唇部は平坦なもの、逆V字～U字状のものがあり、施文手法は口縁部に対して斜交するような刻み目を貝殻腹縁により圧痕しているもの(1,2,8,9,11,12)、その中には階段状に刻み目をもつもの(1,2,12)がある。

外面施文は、口縁部に縦位の貝殻腹縁圧痕文を施し、その下位に貝殻縦位羽状腹縁圧痕文を施すもの(1,2)、口縁部に貝殻横位羽状腹縁圧痕文を施すもの(8)、その下位に貝殻条痕文を施すもの(17)、数本の放射肋を単位に貝殻片を数段圧痕したもの(11,18)、横位に連鎖状に圧痕したもの(7)、斜位の貝殻腹縁圧痕文を上下の横位の貝殻腹縁圧痕文で区画するもの(15,16)、2本の放射肋を単位に縦位の貝殻腹縁圧痕文と横位の貝殻腹縁圧痕文を組み合わせで施しているもの(6)がある。

内面施文には、縦位や横位の貝殻腹縁圧痕文が施されるものがある(9,10)。

b類 (第13図19～24、写真図版8：19～24)

沈線文を施す土器である。6片掲載する。胎土には石英粒を含み、22には長石の混入もみられる。ほとんどが砂粒を含むが、23は礫まじり(φ3～5mm)である。焼成は良好である。器厚は7mm前後である。外面に炭化物が付着しているものがある(22,24)。

23は口縁部で、平縁である。口唇部は平坦で、器面に対して斜め方向から刻み目をつけている。外面には縦位の浅い沈線文を施したのち、横位の浅い沈線文を施し、格子状の文様をつく



りあげている。20は縦位、横位の沈線文で構成される。

21は横位の沈線文を施したのち、数条の斜位の沈線文を施している。22は縦位の沈線文を斜位と横位の沈線文で区画している。

内面は、ナデ調整である。

#### c類（第13図25～27、写真図版8：25～27）

刺突文を施す土器である。3片掲載する。胎土には石英粒を少量含むものがある。焼成は、27は良好であるが、26は亀甲状の割れ目が入り、25は粗雑で脆弱である。器厚は10mm前後である。内面に炭化物が付着しているものがある（27）。

26は横位に刺突文を施している。その下位に斜位の条痕文が施されている。27は尖底部付近と考えられ、下位より放射状に縦位の刺突列を、途中で2列1組の縦位の刺突列に移行させながら施文される。25は半月状の刺突を横位に数段施文し、下位には条痕がみられる。

内面は、ナデ調整である。

#### d類（第13図28～36、写真図版8：28～36）

貝殻腹縁圧痕文と沈線文の組み合わせで施す土器である。10片掲載する。胎土には石英粒を含み、有色鉱物（輝石、雲母など）や長石類も含むものがある（34）。ほとんどが砂粒を含むが、礫まじり（ $\pm\phi 3\text{mm}$ ）のものもある（28）。焼成はほとんど良好である。器厚は、8mm前後である。外面（34）に炭化物が付着しているものがある。

口縁部の形態は平縁（28,29）と小波状（34）を呈するものがある。口唇部は逆V字状のもの（28,34）と逆U字状のもの（29）がある。

外面施文は、口縁部に斜位の貝殻腹縁圧痕文を施し、その下位に横位と斜位の平行沈線文を施すもの（28）、口縁部の上部外面にふくらみをもち、横位の条痕を施し、さらに斜位の貝殻腹縁圧痕文を施すもの（29）がある。腹縁圧痕文と沈線文により幾何学文様を施すもの（30,31,32,34）、2条の沈線の上下位および間に斜位の貝殻腹縁圧痕文を施すもの（33）、数本の放射肋を持つ貝殻片で斜位貝殻腹縁条痕文を施し、その上位に横位や斜位平行沈線文を施すもの（35,36）がある。

内面はナデ調整である。

#### e類（第13図37、写真図版8：37）

沈線文と刺突文の組み合わせで施す土器である。1点掲載する。

胎土には石英粒を含み、砂粒を含む。焼成は良好である。器厚はおよそ8mmである。外面に

炭化物が付着する。

口縁部の形態は平縁である。口唇部は逆V字状を呈し、外反する。

外面施文は、上端から縦位の沈線文、横位1条の刺突文、横位の平行沈線文と3条1組のX字状沈線文を施す。沈線は深く、刺突は右横から斜めに施される。

内面はナデ調整である。

#### f 類 (第14図38~44、写真図版8:38~44)

貝殻腹縁文と沈線文および刺突文の組み合わせで施す土器である。7点掲載する。

胎土には石英粒などの砂粒を含み、焼成は良好である。器厚は7mm前後である。外面に炭化物が付着するものがある(38)。

口縁部の形態は平縁(38,39)と小波状になると想定されるものがある(40)。口唇部は平坦で外傾し内湾ぎみのもの(38,39)、逆V字状のものがある。3点とも口唇部内面の変換線上に貝殻腹縁圧痕文を持つ。

外面施文は、上記文様3要素で幾何学的文様が施される。山形状や弧状の沈線により大区画をし、その内部を菱形に区画し1~3本の放射筋を持つ貝殻片の貝殻腹縁圧痕文で充填したり、大区画の2本の平行沈線間内に貝殻腹縁圧痕文を施したり、区画線の交点付近に刺突を加えられる(38)。体部では、逆「く」字状にくびれ(38,41)、外面には小波状沈線の繋ぎめに刺突が施される(38,42,43,44)。沈線上またはその縁に沿って貝殻腹縁圧痕文が施される(41)。貝殻圧痕文は同一の貝殻を使用し、器面に対する押圧角度をかえて施文し、刺突文は先の尖った施文具で器厚のおよそ半分まで刺突している(39)。

内面はナデ調整であるが、単位幅のわかるミガキ調整もある(39)。

#### 第2群 (第14図45~46、写真図版8:45~46)

隆起線によって飾る土器である。2点掲載する。胎土には石英粒などの砂粒を含む。植物性繊維は混入させない。焼成は良好である。器厚は約5mmである。外面または内面に炭化物が付着する。

隆起帯の幅は約2mmで、数条横位に貼り付けられたり(45)、さらに縦位に貼り付ける(46)。内面には条痕文がみられる。

#### 第3群

植物性繊維を混入する土器を本群とした。縄文原体・文様の違いにより次のようにa~f類に分けた。

**a類** (第14図47、写真図版8:47)

無節斜縄文を施す土器である。1片掲載する。胎土に石英粒などの砂粒を含む。焼成は良好である。器厚は9mmである。内面に炭化物の付着がみられる。

縄文原体は1段Lで、原体の繊維痕が観察される。内面はナデ調整である。

**b類** (第14図48~53、写真図版8:48~49、9:50~53)

単節斜縄文を施す土器である。6片掲載する。胎土に石英粒を含む。ほとんどが砂粒を含むが、礫(φ3~5mm)を含むものもある(52)。全般的に堅緻であるが、粗雑なもの(52)もある。器厚は10mm前後である。内面に炭化物の付着がみられるものがある(49,50)。

縄文原体は2段LRが多く、0段多条(L)によるものもある(48)。条の高低がみられるものもある(49)。口縁部形態は平坦で、平坦な口唇部に縄文が施されるものがある(50)。縄文の幅が5~6mmのもの(51,52)と3mm前後のもの(48,49,50,53)がある。内面はナデ調整である。

**c類** (第14図54~56、写真図版9:54~56)

複節斜縄文を施す土器である。3片掲載する。胎土に石英粒がみられ、砂粒(54,56)と砂礫を含むもの(55)があり、堅緻である。器厚は8~10mmである。内面に炭化物の付着がみられるものがある(55)。

縄文原体は前々段多条(RLR)(54,55)とRLがある。内面はナデ調整である。

**d類** (第14図57~60、15図61、写真図版9:57~61)

結節回転文を施す土器である。5片掲載する。胎土に石英粒や、砂礫を含むものもある(60)。堅緻である。器厚は9mm前後である。内面に炭化物が付着するものがある(59)。

57,58,59は2段RLの縄による結束第1種である。60は、2段LRの縄による結束第2種である。61は口縁部で平縁であり、口唇部は平坦である。原体の末端の縛りによる施文と考えられる。内面はナデ調整である。

**e類** (第15図62~68、写真図版9:62~68)

撚糸文を施す土器である。7片掲載する。胎土に石英粒を含む。62,63は細砂粒を含む。ほとんどが堅緻である。器厚は7~10mmである。

62は平縁で口唇部は平坦である。62,63,64は不規則な撚糸文で施されている。65は0段Lによる、67は0段Rによる撚糸文である。65はR1段を数本一組として羽状に回転施文したもの

である。66は2段RLの原体を2条一対にし、左上がり一方向に巻いて圧痕したものである。68は網目状撚糸文である。内面はほとんどがナデ調整であるが、62、63、はミガキ調整である。

#### f 類 (第15図69～72、写真図版9：69～72)

刺突文または刺突文や縄文により文様を構成するものである。4片掲載する。胎土に石英粒がみられ、砂粒や礫を含む。内面は72を除き粗雑である。器厚は8mm前後である。69は外径12mm、内径5mmの円形竹管状の圧痕文を横位に施しているが、表面の風化が著しい。70は2段の円形刺突文(直径6mm)の上下に不規則な撚糸文を施している。71は半截竹管等により鈍角に刺突文を斜位または横位に施している。72は無文帯を挟んで上位に半截竹管等により横に2段の刺突文を、さらに下位に末端未処理の単節縄文(LR)が施されている。

### 第4群

植物性繊維を混入しない土器を本群とした。縄文の有無、縄文原体・文様の違いにより次のように分類した。

#### a 類 縄文で施されるもの (第15図73～80、写真図版9：73～80)

##### 1 種 単節斜縄文 (第15図73～75、写真図版9：73～75)

単節斜縄文を施す土器である。2片と1/4個体掲載する。胎土に石英粒を、74,75は黄褐色～金色の雲母を多く含む。73は焼成良好であるが、他は内面に浅い亀裂が入り脆弱な感じをうける。表面や内面に炭化物の付着がみられる(73,75)。

73は口縁部付近を1/2復元したものである。LRの縄文原体で施文している。口縁部は平縁であり、平坦な口唇部に斜めの刻みを施している。74,75は植物繊維を混入する土器片に較べて器厚が約5mmと薄く、原体の幅が約1mmと狭く前者と容易に区別できる。縄文原体はRLである。

##### 2 種 表裏縄文 (第14図76、写真図版9 図76)

器体の表裏面に縄文を施す土器である。1片のみの出土である。胎土に石英、長石、輝石粒を含む。脆弱である。器厚は5mmと薄い。平縁で、口唇部は平坦で刻みを施している。表裏面とも口縁部上端から2cmの無文帯がありその下位に、表面は原体LRの単節斜縄文を施す。裏面は同一原体の方向を変えて施文している。

### 3種 その他（第15図77～80、写真図版9：77～80）

上記の種に含まない土器である。胎土に石英粒を含む。77は異方向縄文で、同一原体を方向を変えて回転施文したと考えられる。1片掲載する。焼成は良好である。縄文を埋めるように炭化物が付着する。一見羽状縄文的に見える。78は原体 LR の単節斜縄文と隆帯文により施される。器厚は5mmである。隆帯の幅は3～4mmである。内面には炭化物が付着し、ナデ調整である。79,80は口縁部に横位の平行沈線文とそれを区画するかのように縦位の沈線文を施している。その下位には無文体をはきんで1段L(?)の斜縄文を施している。器厚は8mmである。

### b類 縄文以外で施文されるもの（第15図81～85、写真図版9：81～85）

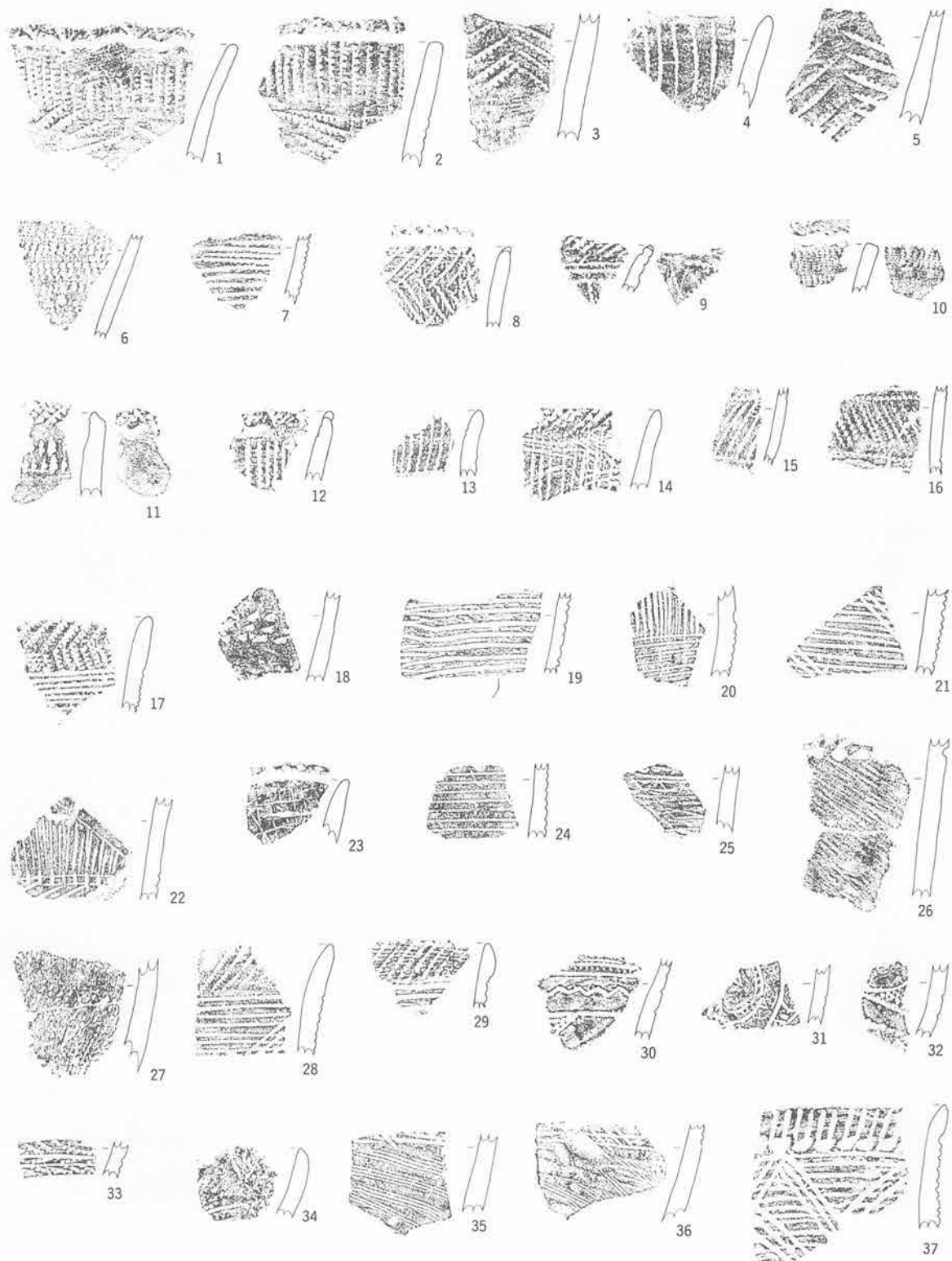
本類に属するものは、84を除いて石英粒が含まれる。

81は無文である。平縁で外反する。表面に炭化物が付着しているが風化がやや著しい。内面に擦痕がみられる。器厚は8mmであるが、口唇部に向けて薄くなる。82は幅4mmの隆帯をもつ。口頸部付近と考えられる。83は、口縁部で粘土紐を張り付けたのち刻みをつけ、その下位に平行沈線を引き、その上から規則的に半截竹管による刺突文を施したものである。口縁部は平縁で、平坦な口唇部である。器厚は7mmである。84は沈線文と横列列点文と単節斜縄文により施される。横位2条の沈線文間に1条の列点文が施され、さらに下位に原体2段LRの斜縄文を施す。器厚は4mmと薄い。焼成は良好である。内面に炭化物が付着する。85は沈線文と三叉文により施される。焼成は良好で、器厚は6mmである。

### 第5群（第15図86～88、写真図版9：86～88）

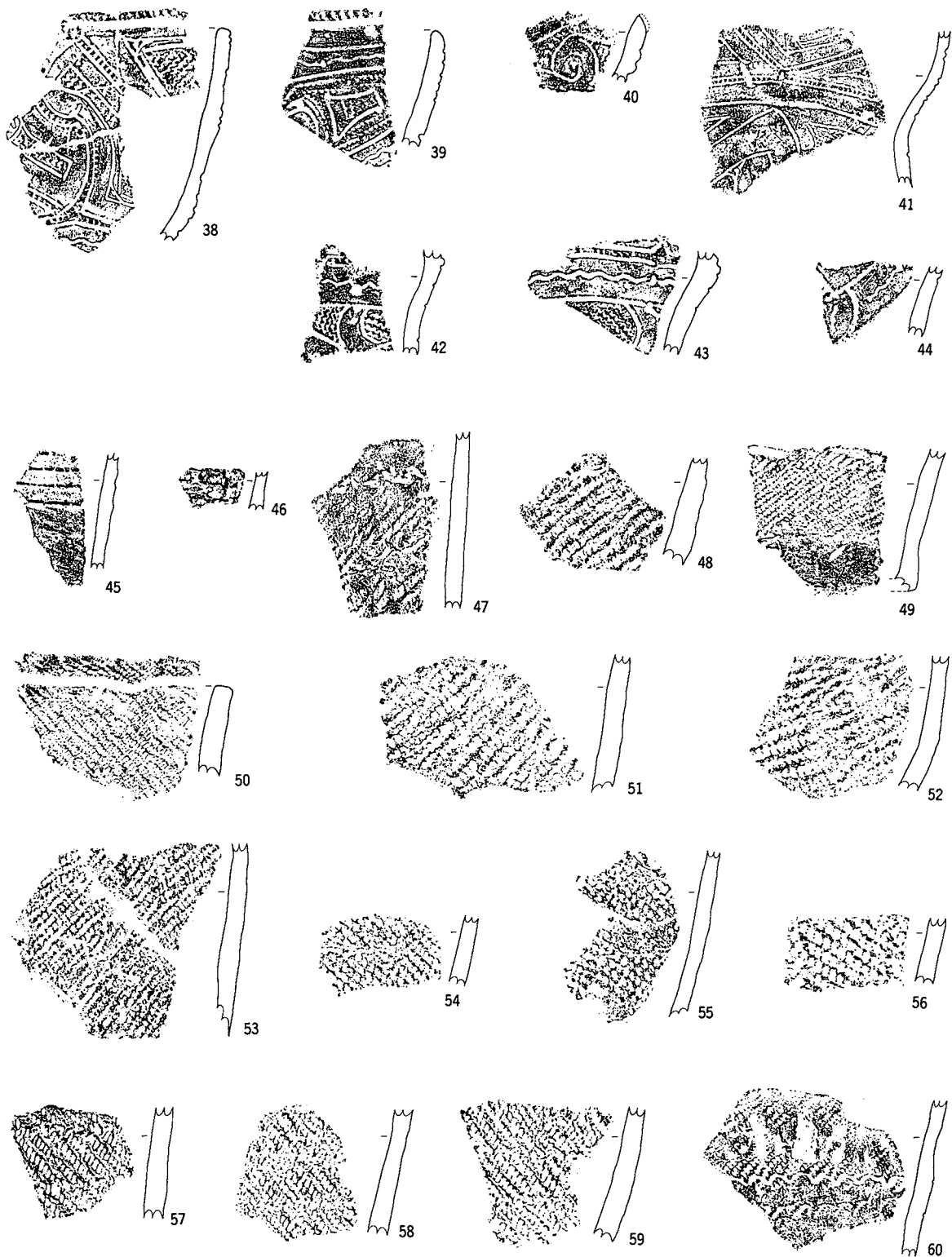
上記分類に区分しにくいものである。本群に属するものすべてに石英粒を観察できる。

86は表面の風化が著しい。数本の放射肋を単位とした貝殻腹縁圧痕文と半月状の刺突文で施される。第一群とは本片のみが植物繊維を混入することにより別にした。器厚は9mmである。87は2段の撚糸文の下位に原体LRの単節斜縄文が施される土器である。平縁で、平坦な口唇部を持ち外反する。内面に炭化物が付着する。88は網目状撚糸文（単軸絡条体第5類）である。風化が著しく、脆弱である。植物繊維を観察できないことにより第3群とは区別した。器厚は7mmである。

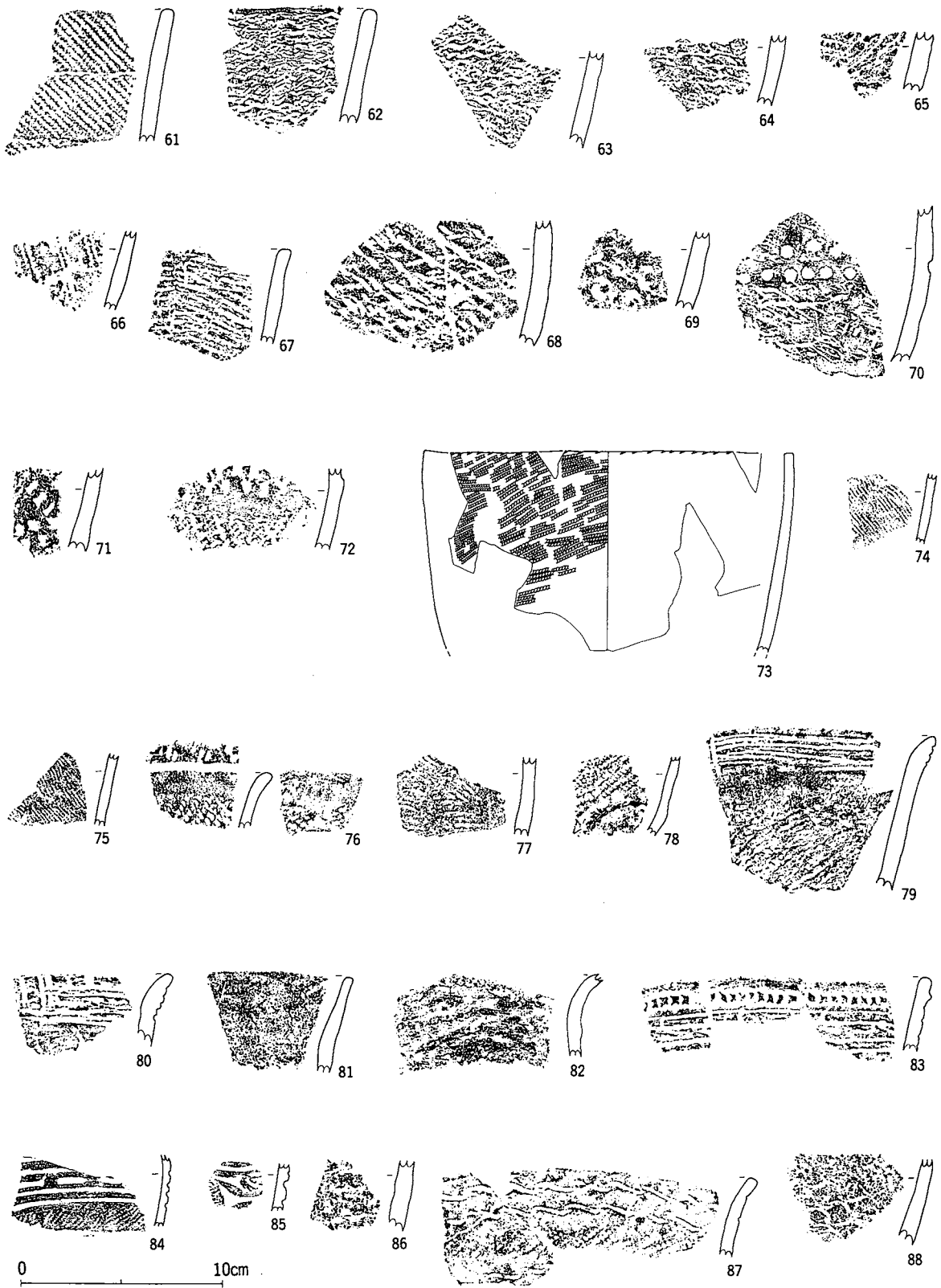


0 10cm

第13図 遺構外出土遺物・土器(1)



第14図 遺構外出土遺物・土器(2)



第15図 遺構外出土遺物・土器(3)



## (2) 石器

遺構外から出土した石器は、石鏃、石錐、石匙、石篋、不定形石器などの剥片石器と、石錘、すり石、凹石などの礫石器および石核であり、各器種ごとに形態により分類し、その特徴について述べる。

なお、石器の出土総数は剥片を除いて約200点であるが、図版・写真図版は抽出し、写真図版は図版よりは多めに掲載する。

### 石鏃（第16図1～5、写真図版10：1～5、50、51）

総数は、完形品（7点）の他、石鏃と想定される破片（4点）を含めて11点出土した。

本遺跡では有茎鏃は出土しなかったため、無茎鏃を基部形態、身部の形状の2要素で次のように分類した。まず基部の形態で凹基と平基に、身部の形態で正三角形と二等辺三角形に分ける。分類ごとの個数は次のようになる。

|           |             |                     |
|-----------|-------------|---------------------|
| 凹基・正三角形   | （2点：1、50）   | ※身部の形状は、石鏃と近似の三角形を  |
| 二等辺三角形    | （5点：2、3、51） | 想定し、その底辺と他の辺の比が約1.2 |
| 平基・二等辺三角形 | （4点：4、5）    | 以下のものを正三角形（見かけ上、正   |
|           |             | 三角形に見える）とし、それ以上のもの  |
|           |             | を二等辺三角形とした。         |

両面調整をしたものと半両面調整したものがある。50は両面調整をしており、挟りが比較的深い。1は表面中央が盛り上がり稜をなす片面調整で、裏面は平坦で両縁調整をしている。51は表裏面ともに両縁調整をしている。5は11点中最大で、両面調整をしているが、細部調整はしていない。

尖頭部開き角度は、24°～49°で、30°～40°に集中する。使用石材は珪質泥岩（4点）、硬質泥岩（4点）、凝灰質泥岩（2点）、細粒凝灰岩（1点）である。

### 石錐（第16図6、写真図版10：6、52）

総数は、完形品（1点）、石錐と想定される破片（2点）を含めて3点出土した。

頭部と身部の区別のできるものとできないもの、できないものの中で二等辺三角形のもの、棒状のものに分ける。分類ごとの個数は次のようになる。

区別できる（1点：6）

区別できない・二等辺三角形（1点：52）

6は身部が欠損している。縦長剥片を素材とし、頭部に打面がある。身部周縁に2次加工を施している。52は背面2ヶ所が欠損している。半両面調整で、腹面は両縁調整だけである。使

用石材は、泥岩類（2点）、凝灰岩（1点）である。

石匙（第16図7～10、17図11～14、写真図版10：7～10、11：11～14、53、54）

総数は、完形品（10点）と石匙と想定される破片（8点）を含めて18点出土した。

縦長のものと同横長のものに大別し、縁辺の構成数と先端部の形態で丸みを帯びるもの、尖頭状のもの、平坦なものに分ける。分類ごとの個数は次のようになる。

縦長・2縁辺・丸みを帯びる（6点：7、8、9）

・2縁辺・尖頭状（6点：10、11）

・3縁辺・平坦（5点：12、13、53）

横長・3縁辺・尖頭状（1点：14）

ほとんどのものが縦長の剝片素材を用いた片面調整である。つまみ部が作り出されている位置と打面部との関係は次のようである。

つまみと打面部が同方向にあるもの（12点：8、9、10、12、13、14、54）

つまみと打面部が逆方向にあるもの（3点：7、11）

不明（3点：53）

刃部調整は次の通りである。

a 両面加工で全縁辺に認められるもの

左刃部（10、13） 下刃部（13）

b 両面加工で一部の縁辺に認められるもの

左刃部（54）

c 片面加工で全縁辺に認められるもの

左刃部（8、9、12、14） 右刃部（7～14、54） 下刃部（14）

d 片面加工で一部の縁辺に認められるもの

左刃部（7、11）

aの左刃部のものは、松原遺跡で報告している打面調整剝離に似ている。使用石材は、凝灰岩5点、泥岩類13点である。

石篋（第17図15～19、18図20～23、写真図版11：15～18、55～57、12：19～23、58～60）

総数は、完形品（28点）、石篋と想定される破片（23点）を含めて51点出土した。

長軸に左右がほぼ対称で上方が狭く下方が広がる三角形ないし四辺形で、広がる辺に刃部を持つものを基本として、次のように分類する。

a 二等辺三角形のもの（26点：15、55、56、16、57、17、18、19、20、21）

b 木葉形のもの (5点:58,59,22)

c 四辺形のもの (14点:23,60)

a) 大きいもので器長10.4cm、器幅4.6cm (20)、小さいもので器長5.0cm、器幅3.2cm (18)である。器面調整は、両面調整のもの(7点:55)、半両面調整のもの(16点:55,56,57,16,17,18)、片面調整のもの(6点:20,21)がある。半両面調整のものには腹面の刃部付近だけに第一次剝離面を残すものがある(56,16)。半両面調整と片面調整の中に、素材が縦長剝片で、頭部(4点:21)と刃部(2点:17)に打面を観察できるものがある。破損品8点中頭部欠損は5点である。

b) a)に較べ、頭部が広く丸みを帯び、背面の稜線的なところがなく緩い曲線を描く。ほとんどが両面調整である。22は尖頭器状である。

c) 破損品が多く、完形品は3点だけである。長方形に近い四辺形が多いが、整った形はしていない。半両面調整がほとんどで、腹面は両縁調整だけのものが多い(23,58)。破損品12点中9点は頭部欠損である。使用石材は、泥岩類(43点)、凝灰岩(5点)流紋岩類(1点)である。

不定形石器、石核(第18図24~26,19図、20図38~40、

写真図版12:26~27、13:28~40,61)

ここでは、石鏃、石錐、石匙、石篋を除く剝片石器を扱う。総数は、61点出土している。

刃部がつくりだされている部位により、次のように分類した。

a) 剝片の1縁辺に刃部があるもの(23点:24,25,26,28)

b) 剝片の2縁辺に刃部があるもの(22点:29,30,31,32,33)

c) 剝片の3縁辺に刃部があるもの(1点:35)

d) 周縁に刃部があるもの(12点:34,36,37,38,61)

e) 石核(7点:38,39,40)

a)は、腹面にあるもの(6点)と背面(19点:24,25,26)にあるものがあり、後者の方が多。b)は、背面(17点:27,28,29,30,31)にあるもの、腹面(4点:33)にあるもの、背面と腹面の左右交互にあるもの(2点:32)があり、背面にあるものが多い。d)の中には円形をしているもの(4点:34,36,61)、尖頭器状のもの(3点:37)がある。使用石材は、泥岩類46、凝灰岩類12、流紋岩1である。e)は、7点出土している。使用石材は泥岩である。

石錘(第20図41~42、写真図版14:41~42)

礫の中軸線上の両端に抉りを作り出しているもので、2点出土した。2点とも偏平な円礫であり、使用石材は凝灰岩である。

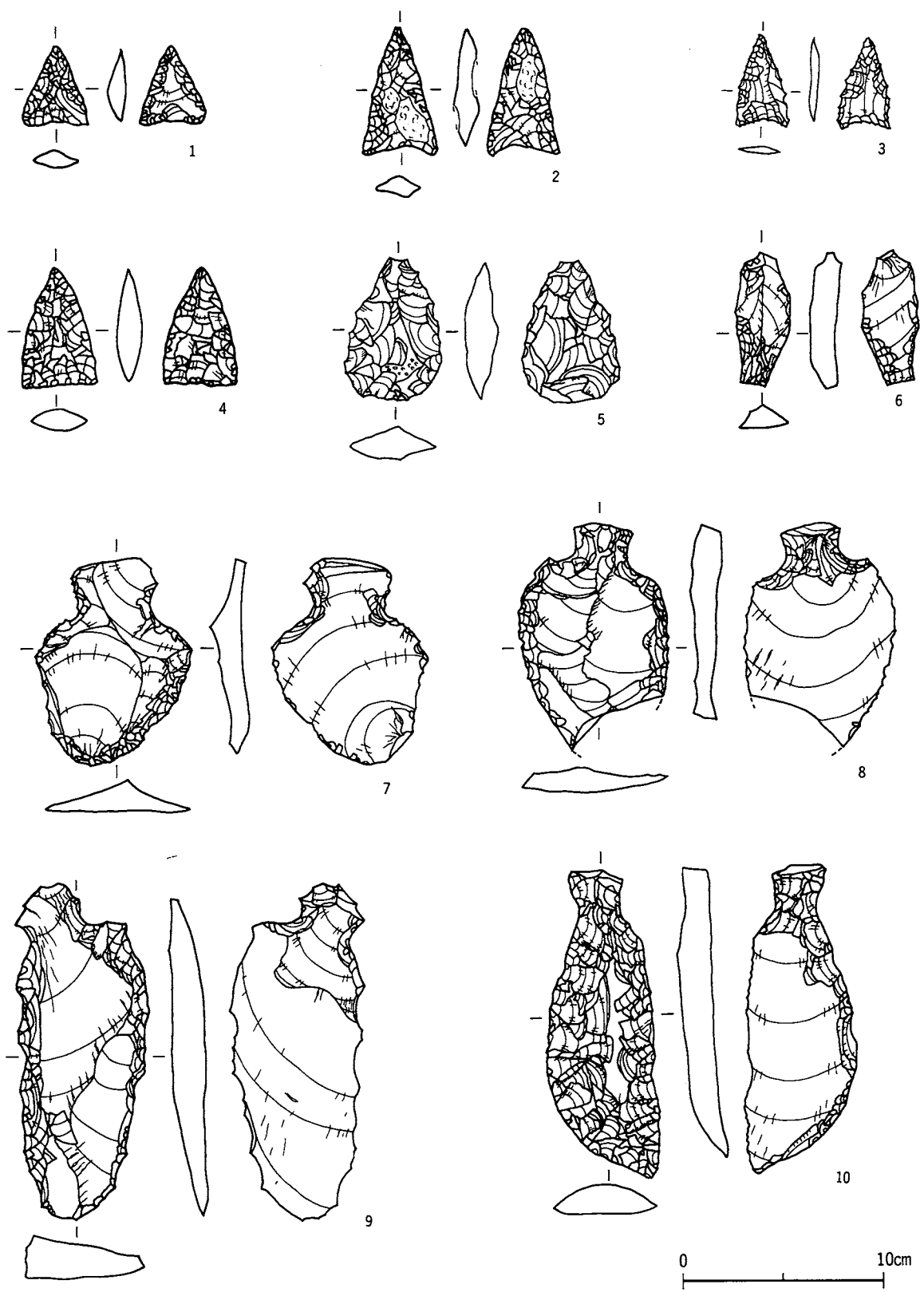
擦石（第20図43、写真図版14：43）

礫の一部にすり面を残すものを扱う。1点出土した。器形は、断面が三角形状であり、器体の側縁部にある。使用石材は、凝灰岩である。

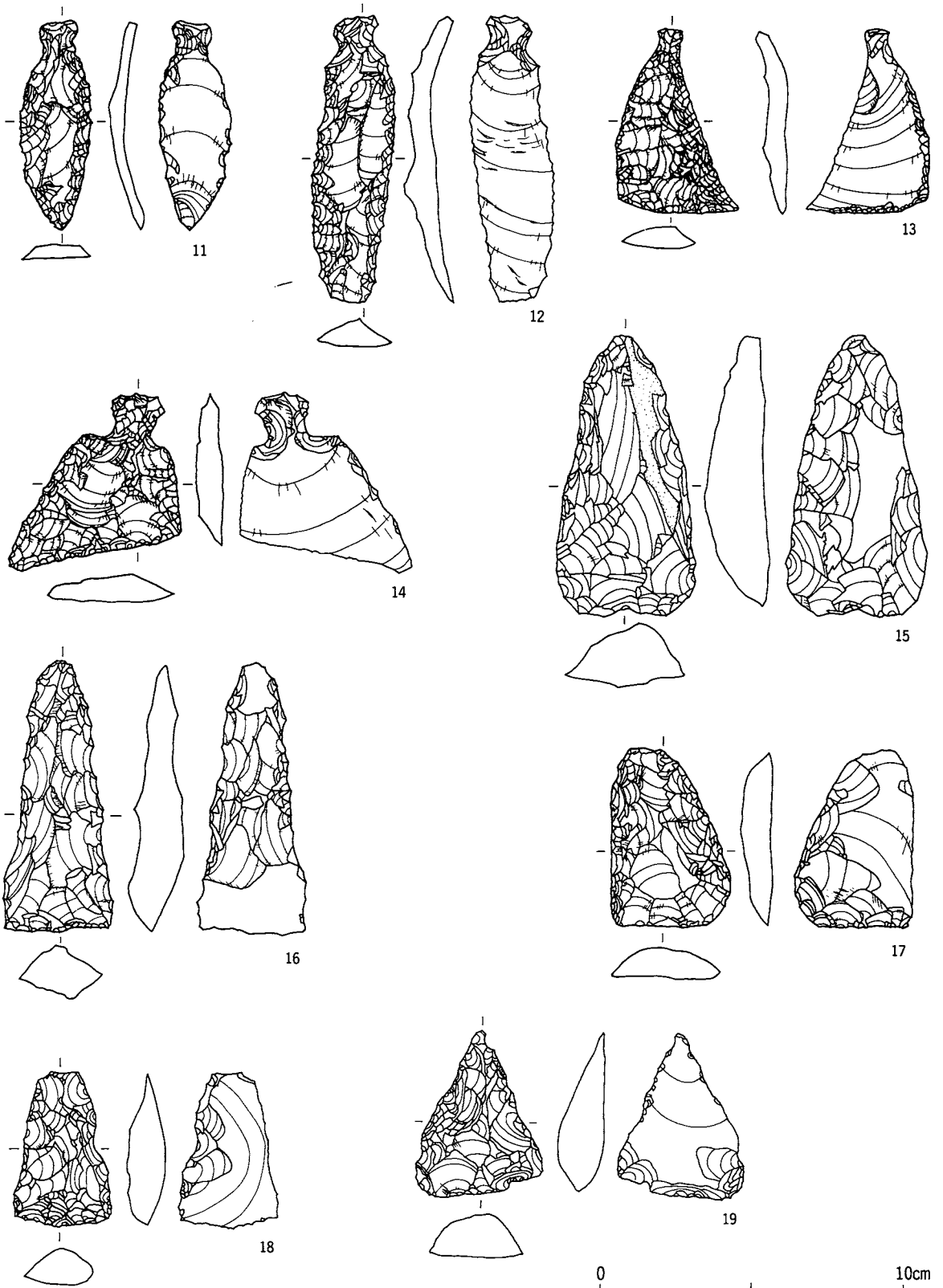
凹石（第21図44～49、写真図版14：44～49）

器体の中央部付近に凹を持つ礫を扱う。総数は、完形品12点、欠損品1点を含めて13点出土した。

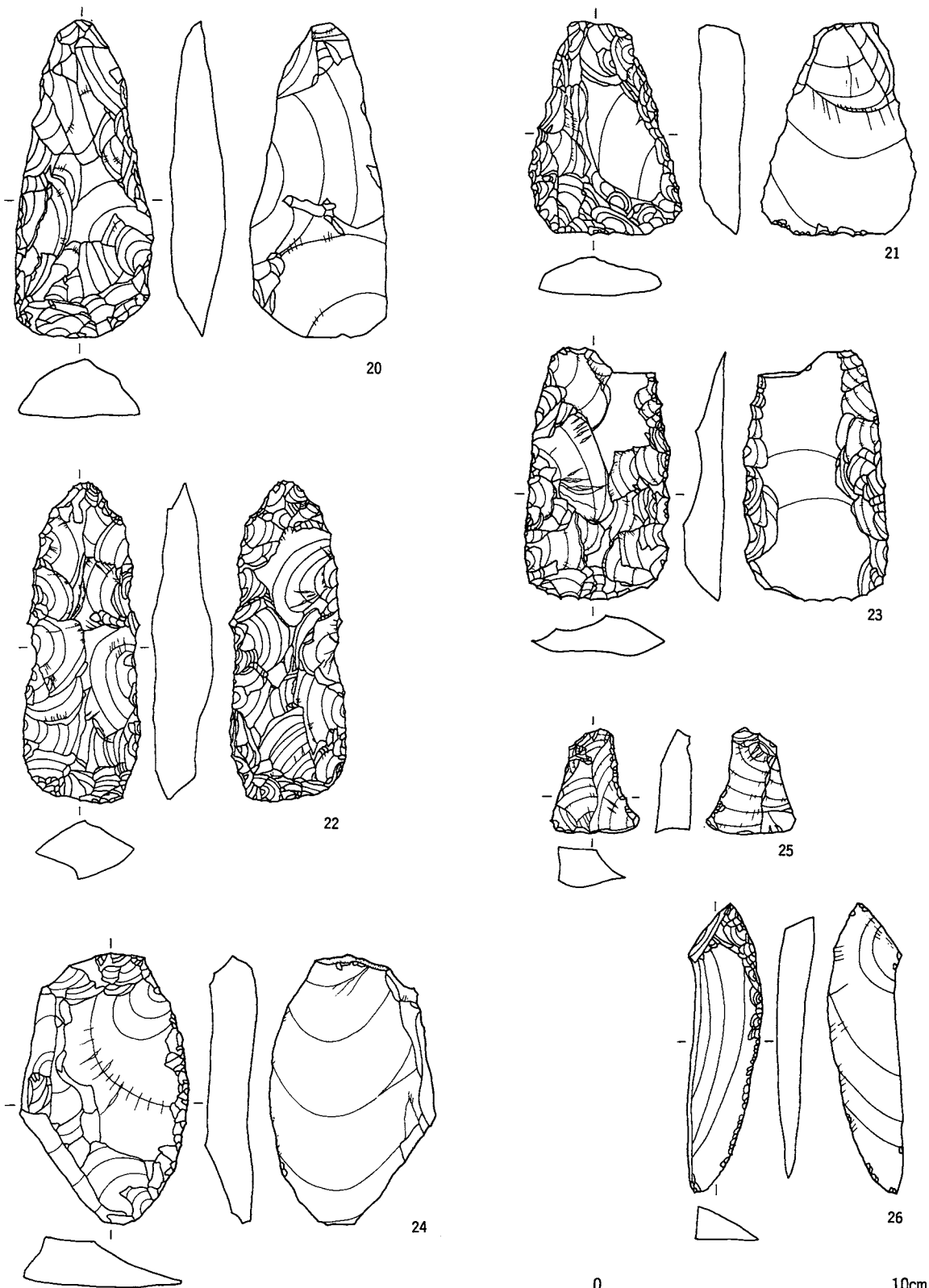
器形が円形に近く、器体の中心部に窪みを持つものがあり（9点：45）、その中で裏側にも窪みを持つものがある（5点：44、46）。また、長方形状または楕円形状のものは、表裏面の長軸にそって複数の窪みがあり、一直線状に並ぶ（3点：47、48、49）。使用石材は、全て凝灰岩である。



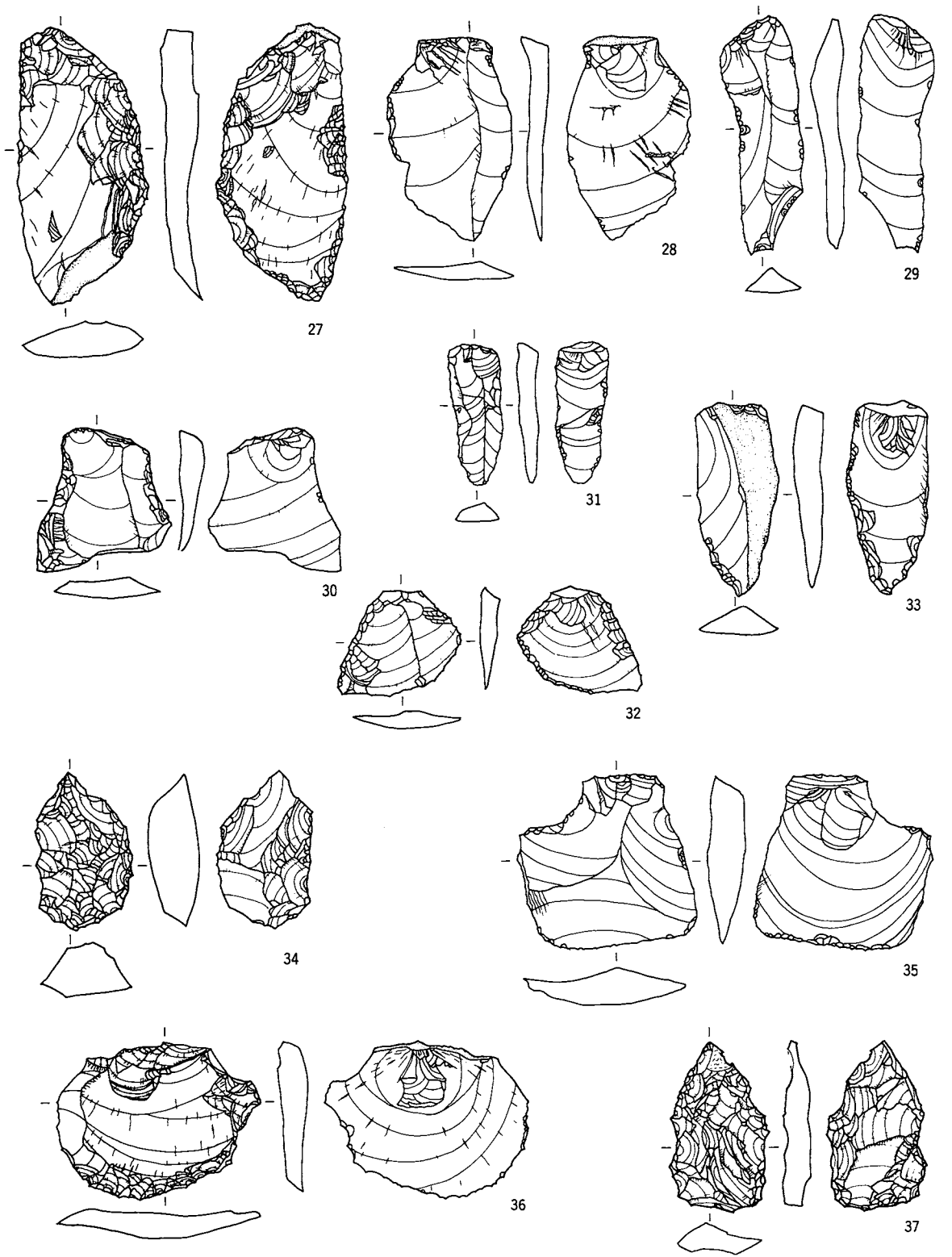
第16図 遺構外出土遺物・石器(1)



第17図 遺構外出土遺物・石器(2)

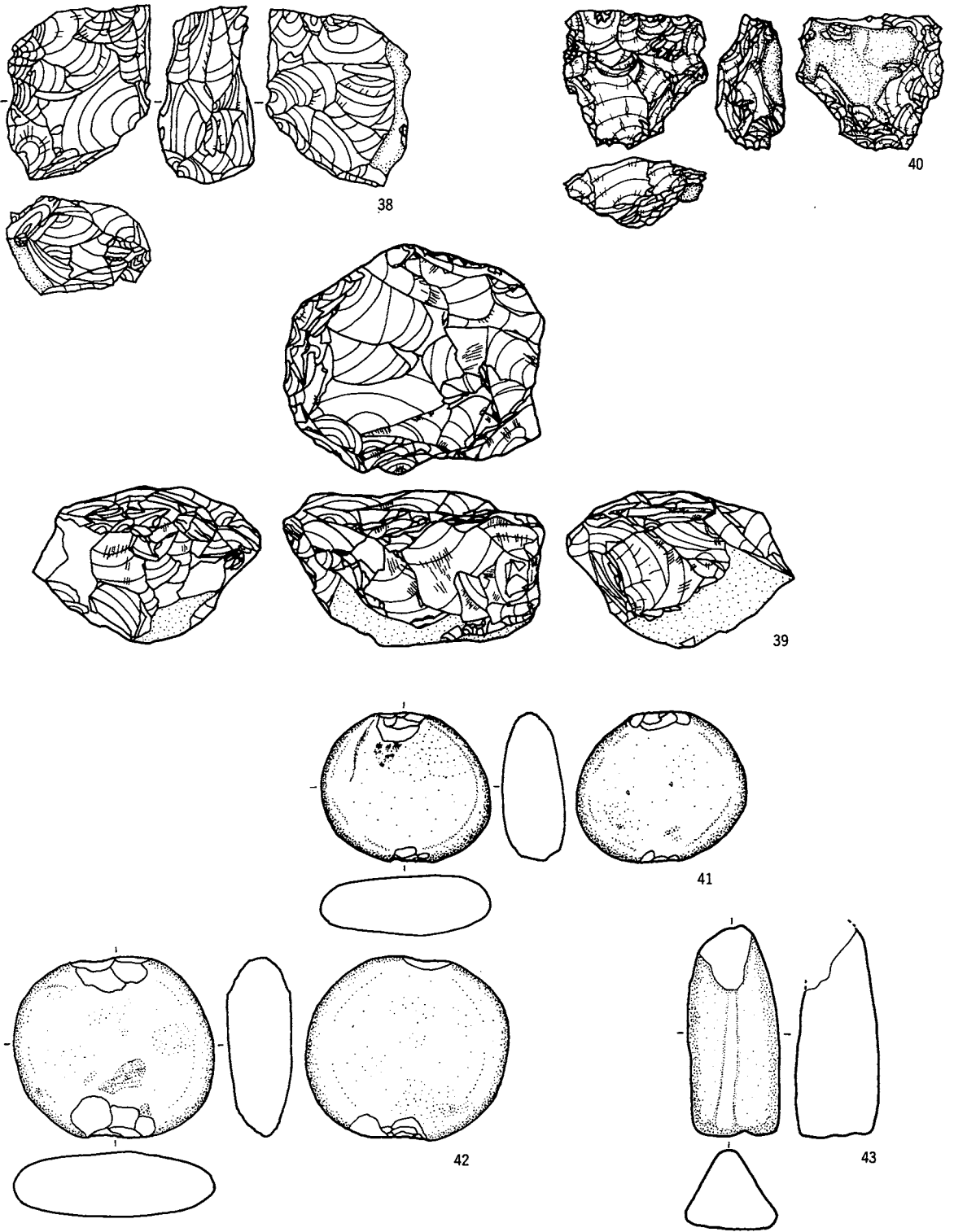


第18図 遺構外出土遺物・石器(3)

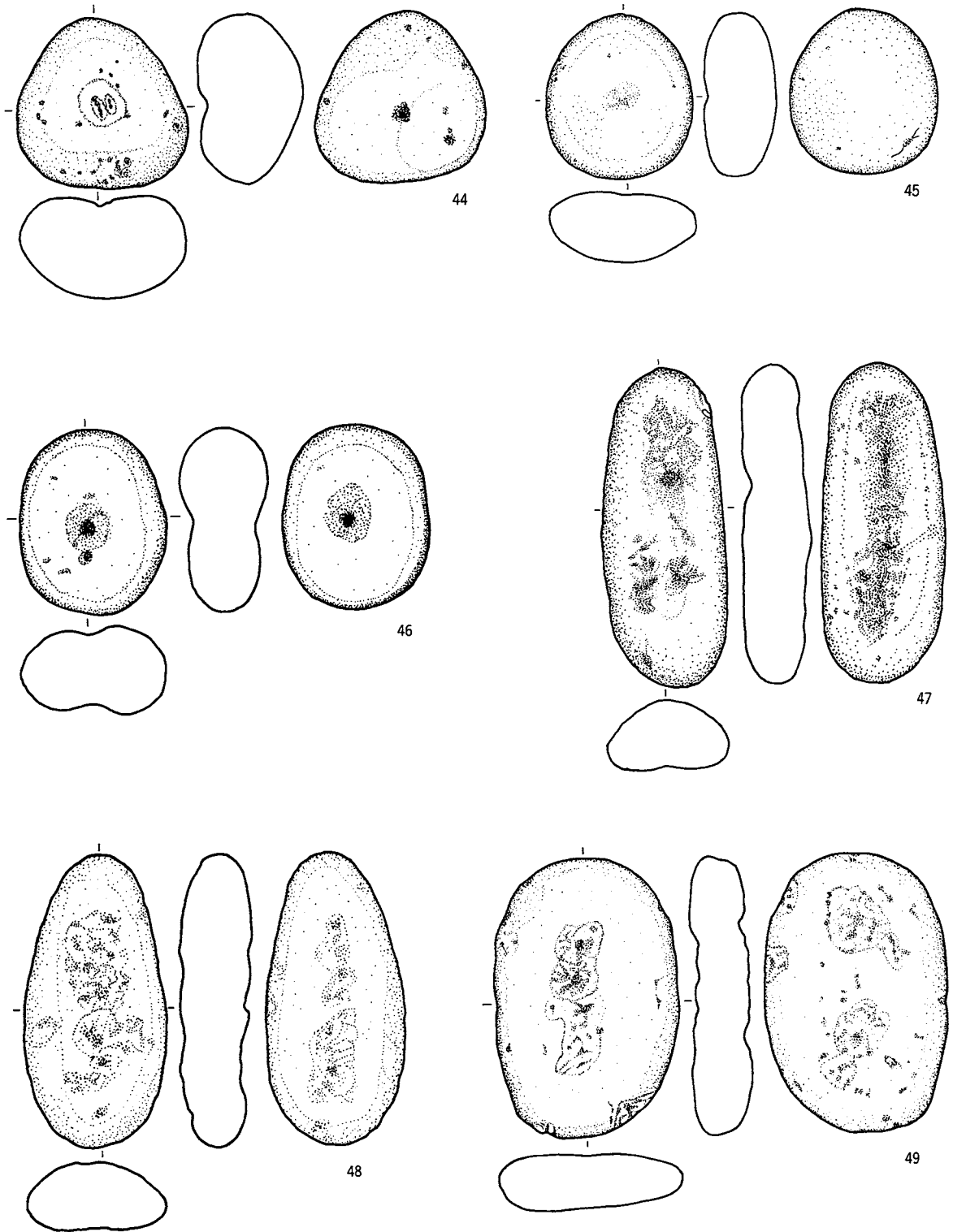


第19図 遺構外出土遺物・石器(4)





第20図 遺構外出土遺物・石器(5)



第21図 遺構外出土遺物・石器(6)

## V まとめ

### 1 遺構

(1) 検出された遺構は、土坑4基と陥し穴状遺構6基である。

(2) 土坑4基と陥し穴状遺構4基から少量の遺物が出土している。土器は貝殻文や、胎土に植物繊維を含む燃糸文や斜縄文をもつ土器であり、構築・使用時期は縄文時代早期ないしは前期と考えられる。

(3) 土坑と陥し穴状遺構の埋土は壁際の崩壊土を除くと、壁の土層と異なり、黒褐色～暗褐色土の単一もしくは褐色土との混合層として堆積している。土層断面から埋積の状況を考えると、自然に堆積した場合、風による影響が大きく、壁際から堆積し、堆積後の上位層の重量も加わり、基本的には断面形は中央部が凹になると考えられる。埋積方向は偏りはあるものの同一方向からではなく、四方からと考えるのが自然である。以上のことより、埋積の状況を推測すると、短時間で堆積したものと、時間間隙のあるものの2種類に分類できる。F4-1号土坑やJ4-1号土坑などは前者であり、H4-2号陥し穴状遺構などは後者に属する。前者のものはほぼ同一層であり、環境が時間とともに変化し、土が少しずつ変化することや、埋積の速さを考えると不自然である。したがって、人為的な埋積の可能性もある。

### 2 遺物

(1) 第1群、第2群、第5群の一部として分類した土器群は、第2群を除いて主に貝殻文を施文具とし、沈線や刺突を組み合わせて施文されたもので、縄文時代早期に比定される。

これらの土器は、第5群のものを除き胎土に植物繊維を混入させない。34、30、31、32、38、39、40、41、42、43、44は、貝殻腹縁圧痕文、沈線文、刺突文で複雑な幾何学的な文様が展開されるもので、胎土や3つの文様要素の施文手法は、売場遺跡第V群に分類されている物見台式、あるいは千歳式と呼ばれる土器群に類似する。

8、15、16、27、35、36は、蛸沢遺跡（青森、1979）の第II類土器、蛸沢A II式に類似する。22は沈線による直線的幾何学文を構成し、ムシリ I 式に比定した同遺跡の第VI類に類似する。細隆起線文とした45、46は、売場遺跡第VI群D<sub>2</sub>類に類似する。同群はムシリ I 式、早稲田III類に対比されている。

(2) 第3群の土器群は胎土に植物繊維を混入させ、縄文時代前期の土器と考えられる。また、4群の87は「岩手の土器」で分類されている前期の土器に類似する。68は単軸絡状体を用いた網目状の文様は、売場遺跡（青森、1984）第X II群土器に類似する。

(3) 82、83は縄文時代中期の土器と考えられる。83は大木7式、82は大木10式に分類されると考えられる。

(4) 74、75、84、85は縄文時代晩期の土器と考えられる。

(5) 石器類は、石鏃、石匙、石錐、石篋、不定形石器、石錘、凹石、擦石などが出土している。この中で石篋の出土が多く、本遺跡の特徴と言える。

(6) 遺物と層位のはっきりした相関性はみられず、各時期の遺物がほぼ同一層順（I b、I c層）から出土している。しかしながら、点数は少ないがII層（漸位層）からは貝殻文を含む文様で構成される土器片が出土している。

### 3 遺跡

土場遺跡は主に早・前期の土器を多く出土した。土坑や陥し穴状遺構の埋土にも同時期の土器片などが混じていたことから、早・前期を中心に活動していた場所と言える。住居跡が検出されず、土器片に混じて石篋が特に多く出土したことから、この付近は狩猟や採集のための準備の場であったとのみではなく、調査範囲外に集落が存在するとも考えることができる。現和賀川河床との比高は約40m、本遺跡が載る面は北上低地内で低位段丘に相当するため、その形成時期を約2万年前とし、6千年前から利用し、河床面が平均的に侵食されたと仮定すると、そのころは約28mの比高があったことになり、地形的環境は現在と大幅な違いはなかったと推定される。しかしながら、旧石器時代の寒冷な気候から温暖な気候へと移り変わったこの場所は、落葉樹林が繁茂し獲物も増加したと考えられ、低地より移り住んできた人々の狩猟場所となっていたはずである。

本遺跡周辺の早・前期の遺跡は9遺跡と少なく、本遺跡はこれらの時期の遺跡として新たな情報を提供する遺跡として位置づけられる。

〈参考文献〉

- 青森県教育委員会 (1980):新納屋遺跡発掘調査報告書(2)  
青森県教育委員会 (1984):売場遺跡発掘調査報告書  
青森県教育委員会 (1979):蜚沢遺跡発掘調査報告書  
小田野 哲憲 他 (1982):「岩手の土器」岩手県立博物館  
北村 信 (1981):「新第三系」北上川流域地質図・説明書225-277  
庄内 昭男 (1983):「貝殻文」縄文文化の研究 5 203-218  
富樫 泰時 (1989):「貝殻沈線文系土器様式」縄文土器大観 1 270-273  
Toyoshima, M. (1984):東北大学理科報告(地理学) 34巻 88-105  
中川 久夫 他 (1971):「北上線沿線の段丘群」東北大地古研邦報71巻47-59  
盛岡地方気象台 (1993):気象月報 1月～11月  
和賀町教育委員会 (1990):和賀町内遺跡分布調査報告書II

第3表 土坑一覽表

| 番号 | 遺構名   | 平面形   | 断面形   | 規模(cm)  |        |         |    | 備考 |
|----|-------|-------|-------|---------|--------|---------|----|----|
|    |       |       |       | 開口部     | 頭部     | 底部      | 深さ |    |
| 1  | F4-1号 | 不整円形  | フラスコ状 | 128×121 | 117×96 | 138×127 | 40 |    |
| 2  | I4-1号 | 不整楕円形 | 浅鉢形   | 170×106 | —      | 105×59  | 36 |    |
| 3  | J2-1号 | 不整円形  | 碗形    | 128×114 | —      | 104×98  | 50 |    |
| 4  | J4-1号 | 不整円形  | 鉢形    | 168×152 | —      | 134×96  | 66 |    |

第4表 陥し穴状遺構一覽表

| 番号 | 遺構名   | 平面形   | 断面形<br>(短軸) | 開口部規模(cm) |     | 底部規模(cm) |    | 深さ<br>(cm) | 備考 |
|----|-------|-------|-------------|-----------|-----|----------|----|------------|----|
|    |       |       |             | 長軸        | 短軸  | 長軸       | 短軸 |            |    |
| 1  | F4-1号 | 不整楕円形 | ビーカー状       | 156       | 108 | 113      | 33 | 80         |    |
| 2  | G6-1号 | 不整長方形 | 鉢状          | 222       | 110 | 134      | 44 | 66         |    |
| 3  | H3-1号 | 楕円形   | ビーカー状       | 183       | 110 | 148      | 65 | 102        |    |
| 4  | H4-1号 | 不整楕円形 | 鉢形          | 161       | 62  | 124      | 30 | 84         |    |
| 5  | H4-2号 | 楕円形   | 鉢形          | 131       | 99  | 115      | 56 | 90         |    |
| 6  | H4-3号 | 楕円形   | 鉢形          | 159       | 101 | 130      | 74 | 90         |    |

第5表 土器観察表 (遺構内)

| 遺物番号 | 出土区         | 層位 | 器種 | 部位  | 文様の特徴・備考             | 内面調整 | 胎土    | 器厚 | 分類     | 図版 | 写真図版 |
|------|-------------|----|----|-----|----------------------|------|-------|----|--------|----|------|
| 1    | F4-1号土坑     | 埋土 | 深鉢 | 口縁部 | 沈線文、刺突文、外面に炭化物付着     | ナデ   | 砂混り   | 7  | I群e類   | 7  | 6    |
| 2    | F4-1号土坑     | 埋土 | 深鉢 | 胴部  | 条痕文、内面に炭化物付着         |      | 砂混り   | 9  | V群     | 7  | 6    |
| 3    | F4-1号土坑     | 埋土 | 深鉢 | 胴部  | 擦糸文、外面に炭化物付着、繊維含     | ナデ   | 砂混り   | 8  | III群e類 | 7  | 6    |
| 5    | I4-1号土坑     | 埋土 | 深鉢 | 口縁部 | 擦糸文、繊維含              | ナデ   | 粗砂混り  | 8  | III群e類 | 7  | 6    |
| 6    | I4-1号土坑     | 埋土 | 深鉢 | 口縁部 | 擦糸文、繊維含              | ナデ   | 砂混り   | 9  | III群e類 | 7  | 6    |
| 1    | J2-1号土坑     | 埋土 | 深鉢 | 胴部  | 単節縄文                 | ナデ   | 砂レキ混り | 7  | IV群a類  | 8  | 6    |
| 2    | J2-1号土坑     | 埋土 | 深鉢 | 胴部  | 単節縄文                 | ナデ   | 細砂混り  | 10 | IV群a類  | 8  | 6    |
| 3    | J2-1号土坑     | 埋土 | 深鉢 | 口縁部 | 貝殻腹縁圧痕文、沈線文          | ナデ   | 砂混り   | 7  | I群d類   | 8  | 6    |
| 6    | J4-1号土坑     | 埋土 | 深鉢 | 胴部  | 環付縄文、内面に炭化物付着、繊維含    | ナデ   | 細砂混り  | 8  | III群b類 | 8  | 6    |
| 7    | J4-1号土坑     | 埋土 | 深鉢 | 胴部  | 単節縄文、内面に炭化物付着、繊維含    | ナデ   | 砂混り   | 9  | III群b類 | 8  | 6    |
| 8    | J4-1号土坑     | 埋土 | 深鉢 | 胴部  | 単節縄文、内面に炭化物付着、繊維含    | ナデ   | 砂混り   | 9  | III群b類 | 9  | 7    |
| 9    | J4-1号土坑     | 埋土 | 深鉢 | 口縁部 | 貝殻腹縁圧痕文、沈線文、刺突分      | ナデ   | 砂混り   | 7  | I群f類   | 9  | 7    |
| 10   | J4-1号土坑     | 埋土 | 深鉢 | 胴部  | 擦糸文                  | ナデ   | 粗砂混り  | 8  | V群     | 9  | 7    |
| 1    | G6-1号陥し穴状遺構 | 埋土 | 深鉢 | 口縁部 | 貝殻腹縁圧痕文、沈線文、外面に炭化物付着 | ナデ   | 砂レキ混り | 8  | I群d類   | 10 | 6    |
| 1    | H3-1号陥し穴状遺構 | 埋土 | 深鉢 | 胴部  | 単節縄文の羽状をなす、内面に炭化物付着  |      | 砂混り   | 7  | IV群a類  | 11 | 7    |
| 3    | H4-1号陥し穴状遺構 | 埋土 | 深鉢 | 胴部  | 単節縄文                 | ナデ   | 砂混り   | 8  | IV群a類  | 11 | 7    |
| 4    | H4-1号陥し穴状遺構 | 埋土 | 深鉢 | 底部  | 単節縄文                 | ナデ   | 砂混り   | 8  | IV群a類  | 11 | 7    |

第6表 土器観察表（遺構外）

| 遺物<br>番号 | 出土区 | 層位  | 器種 | 部位  | 文様の特徴・備考                 | 内面調整 | 胎土          | 器厚<br>(mm) | 分類      | 図版 | 写真<br>図版 |
|----------|-----|-----|----|-----|--------------------------|------|-------------|------------|---------|----|----------|
| 1        | E 5 | I c | 深鉢 | 口縁部 | 貝殻腹縁圧痕文、口唇部<br>にも貝殻腹縁圧痕文 | ナデ   | 粗砂混り        | 8          | I 群 a 類 | 13 | 8        |
| 2        | E 5 | I b | 深鉢 | 口縁部 | 1と同じ、外面に炭化物<br>付着        | ナデ   |             | 9          | I 群 a 類 | 13 | 8        |
| 3        | E 5 | I b | 深鉢 | 胴部  | 貝殻腹縁圧痕文、外面に<br>炭化物付着     | ナデ   |             | 10         | I 群 a 類 | 13 | 8        |
| 4        | J 3 | I c | 深鉢 | 口縁部 | 貝殻腹縁圧痕文                  | ナデ   | 砂混り         | 9          | I 群 a 類 | 13 | 8        |
| 5        | G 4 | I c | 深鉢 | 胴部  | 貝殻腹縁圧痕文                  | ナデ   | 砂混り         | 8          | I 群 a 類 | 13 | 8        |
| 6        | I 6 | I b | 深鉢 | 胴部  | 貝殻腹縁圧痕文                  | ナデ   | 輝石・長石<br>混り | 7          | I 群 a 類 | 13 | 8        |
| 7        | H 6 | I   | 深鉢 | 胴部  | 貝殻腹縁連鎖状圧痕文               | ナデ   | レキ混り        | 5          | I 群 a 類 | 13 | 8        |
| 8        | H 7 | I c | 深鉢 | 口縁部 | 貝殻腹縁圧痕文                  | ナデ   | 砂混り         | 6          | I 群 a 類 | 13 | 8        |
| 9        | J 3 | I c | 深鉢 | 口縁部 | 貝殻腹縁圧痕文、内面に<br>も貝殻腹縁圧痕文  |      | レキ混り        | 6          | I 群 a 類 | 13 | 8        |
| 10       | J 5 | I c | 深鉢 | 口縁部 | 貝殻腹縁圧痕文、内面に<br>も貝殻腹縁圧痕文  |      | 細砂混り        | 6          | I 群 a 類 | 13 | 8        |
| 11       | H 3 | I b | 深鉢 | 口縁部 | 貝殻腹縁圧痕文、口唇部<br>にも貝殻腹縁圧痕文 | ナデ   |             | 10         | I 群 a 類 | 13 | 8        |
| 12       | I 2 | I b | 深鉢 | 口縁部 | 貝殻腹縁圧痕文、口唇部<br>貝殻圧痕文     | ナデ   |             | 8          | I 群 a 類 | 13 | 8        |
| 13       | H 6 | I   | 深鉢 | 口縁部 | 貝殻腹縁圧痕文                  | ナデ   |             | 7          | I 群 a 類 | 13 | 8        |
| 14       | F 5 | II  | 深鉢 | 口縁部 | 貝殻腹縁圧痕文                  | ナデ   |             | 8          | I 群 a 類 | 13 | 8        |
| 15       | I 2 | I b | 深鉢 | 胴部  | 貝殻腹縁圧痕文                  | ナデ   |             | 5          | I 群 a 類 | 13 | 8        |
| 16       | I 2 | I b | 深鉢 | 胴部  | 貝殻腹縁圧痕文                  | ナデ   |             | 5          | I 群 a 類 | 13 | 8        |
| 17       | G 4 | I   | 深鉢 | 口縁部 | 貝殻腹縁圧痕文、貝殻腹<br>縁条痕文      |      |             | 9          | I 群 a 類 | 13 | 8        |
| 18       | H 3 | I b | 深鉢 | 胴部  | 貝殻腹縁圧痕文                  | ナデ   | 砂レキ混り       | 8          | I 群 a 類 | 13 | 8        |
| 19       | K 2 | I c | 深鉢 | 胴部  | 沈線文                      | ナデ   |             | 6          | I 群 b 類 | 13 | 8        |
| 20       | G 4 | I   | 深鉢 | 胴部  | 沈線文                      | ナデ   |             | 8          | I 群 b 類 | 13 | 8        |
| 21       | G 4 | I b | 深鉢 | 胴部  | 沈線文                      | ナデ   |             | 9          | I 群 b 類 | 13 | 8        |
| 22       | I 4 | I b | 深鉢 | 胴部  | 沈線文                      | ナデ   | 長石混り        | 7          | I 群 b 類 | 13 | 8        |

| 遺物<br>番号 | 出土区 | 層位  | 器種 | 部位  | 文様の特徴・備考         | 内面調整 | 胎土   | 器厚<br>(mm) | 分類   | 図版 | 写真<br>図版 |
|----------|-----|-----|----|-----|------------------|------|------|------------|------|----|----------|
| 23       | I 2 | I b | 深鉢 | 口縁部 | 沈線文              | ナデ   | レキ混り | 7          | I群b類 | 13 | 8        |
| 24       | J 6 | II  | 深鉢 | 胴部  | 沈線文、外面に炭化物付着     | ナデ   |      | 7          | I群b類 | 13 | 8        |
| 25       | G 3 | I b | 深鉢 | 胴部  | 刺突文              | ナデ   | レキ混り | 7          | I群c類 | 13 | 8        |
| 26       | H 4 | I   | 深鉢 | 胴部  | 刺突文              | ナデ   |      | 9          | I群c類 | 13 | 8        |
| 27       | I 3 | I c | 深鉢 | 胴部  | 刺突列、内面全体に炭化物付着   | ナデ   |      | 11         | I群c類 | 13 | 8        |
| 28       | G 3 | II  | 深鉢 | 口縁部 | 貝殻腹縁圧痕文、沈線文      | ナデ   | レキ混り | 9          | I群d類 | 13 | 8        |
| 29       | G 4 | I c | 深鉢 | 口縁部 | 貝殻腹縁圧痕文、沈線文      | ナデ   |      | 8          | I群d類 | 13 | 8        |
| 30       | I 3 | I b | 深鉢 | 胴部  | 貝殻腹縁圧痕文、沈線文      | ナデ   |      | 8          | I群d類 | 13 | 8        |
| 31       | I 3 | I b | 深鉢 | 胴部  | 貝殻腹縁圧痕文、沈線文      | ナデ   |      | 7          | I群d類 | 13 | 8        |
| 32       | I 3 | I b | 深鉢 | 胴部  | 貝殻腹縁圧痕文、沈線文      | ナデ   |      | 8          | I群d類 | 13 | 8        |
| 33       | F 3 | I b | 深鉢 | 胴部  | 貝殻腹縁圧痕文、沈線文      | ナデ   |      | 8          | I群d類 | 13 | 8        |
| 34       | H 3 | I b | 深鉢 | 口縁部 | 貝殻腹縁圧痕文、沈線文      | ナデ   | 蟹母混り | 8          | I群d類 | 13 | 8        |
| 35       | G 4 | I c | 深鉢 | 胴部  | 貝殻条痕文、沈線文        | ナデ   |      | 9          | I群d類 | 13 | 8        |
| 36       | G 3 | I b | 深鉢 | 胴部  | 貝殻条痕文、沈線文        | ナデ   |      | 9          | I群d類 | 13 | 8        |
| 37       | G 4 | I b | 深鉢 | 口縁部 | 沈線文、刺突文、外面に炭化物付着 | ナデ   |      | 8          | I群e類 | 13 | 8        |
| 38       | I 3 | I b | 深鉢 | 口縁部 | 貝殻腹縁圧痕文、沈線文、刺突文  | ナデ   |      | 7          | I群f類 | 14 | 8        |
| 39       | J 3 | II  | 深鉢 | 口縁部 | 貝殻腹縁圧痕文、沈線文、刺突文  | ミガキ  | 砂混り  | 9          | I群f類 | 14 | 8        |
| 40       | G 4 | I b | 深鉢 | 口縁部 | 貝殻腹縁圧痕文          | ナデ   | レキ混り | 6          | I群f類 | 14 | 8        |
| 41       | J 4 | I c | 深鉢 | 胴部  | 貝殻腹縁圧痕文、沈線文、刺突文  | ナデ   |      | 5          | I群f類 | 14 | 8        |
| 42       | I 3 | I b | 深鉢 | 胴部  | 貝殻腹縁圧痕文、沈線文、刺突文  | ナデ   |      | 8          | I群f類 | 14 | 8        |
| 43       | I 3 | I b | 深鉢 | 胴部  | 貝殻腹縁圧痕文、沈線文、刺突文  | ナデ   |      | 8          | I群f類 | 14 | 8        |
| 44       | H 7 | I c | 深鉢 | 胴部  | 貝殻腹縁圧痕文、沈線文      | ナデ   |      | 8          | I群f類 | 14 | 8        |



| 遺物<br>番号 | 出土区 | 層位  | 器種 | 部位  | 文様の特徴・備考             | 内面調整 | 胎土    | 器厚<br>(mm) | 分類       | 図版 | 写真<br>図版 |
|----------|-----|-----|----|-----|----------------------|------|-------|------------|----------|----|----------|
| 45       | G 4 | I b | 深鉢 | 胴部  | 細隆起線文、内面に条痕文、両面に炭化物  | ナデ   |       | 5          | II群      | 14 | 8        |
| 46       | G 3 | I b | 深鉢 | 胴部  | 細隆起線文、外面に炭化物付着       | ナデ   |       | 6          | II群      | 14 | 8        |
| 47       | J 6 | I b | 深鉢 | 底部  | 無節縄文、内面に炭化物付着、繊維含    | ナデ   |       | 9          | III群 a 類 | 14 | 8        |
| 48       | J 4 | I c | 深鉢 | 胴部  | 0 段多条による単節縄文、繊維含     | ナデ   |       | 13         | III群 b 類 | 14 | 8        |
| 49       | H 3 | I b | 深鉢 | 底部  | 単節縄文、内面に炭化物付着、繊維含    | ナデ   | 粗砂混り  | 10         | III群 b 類 | 14 | 8        |
| 50       | I 4 | I b | 深鉢 | 口縁部 | 単節縄文、口唇部に単節縄文、繊維含    | 条痕   | 砂混り   | 11         | III群 b 類 | 14 | 9        |
| 51       | K 3 | I c | 深鉢 | 胴部  | 単節縄文、繊維含             | ナデ   | 砂レキ混り | 10         | III群 b 類 | 14 | 9        |
| 52       | J 3 | I c | 深鉢 | 胴部  | 単節縄文、繊維含             | ナデ   | レキ混り  | 9          | III群 b 類 | 14 | 9        |
| 53       | H 7 | I b | 深鉢 | 胴部  | 単節縄文、繊維含             | ナデ   | 砂混り   | 9          | III群 c 類 | 14 | 9        |
| 54       | E 3 | I b | 深鉢 | 胴部  | 0 段多条による複節縄文、繊維含     | ナデ   | 砂混り   | 9          | III群 c 類 | 14 | 9        |
| 55       | G 3 | I b | 深鉢 | 胴部  | 0 段多条による複節縄文、繊維含     | ナデ   | 砂レキ混り | 8          | III群 c 類 | 14 | 9        |
| 56       | K 4 | I b | 深鉢 | 胴部  | 複節縄文、繊維含             | ナデ   | 砂混り   | 10         | III群 c 類 | 14 | 9        |
| 57       | J 4 | I c | 深鉢 | 胴部  | 結節縄文(結束第一種)、繊維含      | ナデ   |       | 10         | III群 d 類 | 14 | 9        |
| 58       | H 3 | I b | 深鉢 | 胴部  | 結節縄文(結束第一種)、繊維含      | ナデ   |       | 10         | III群 d 類 | 14 | 9        |
| 59       | H 3 | I   | 深鉢 | 胴部  | 結節縄文(結束第一種)内面に炭化物繊維含 | ナデ   | 砂混り   | 9          | III群 d 類 | 14 | 9        |
| 60       | I 3 | I b | 深鉢 | 胴部  | 結節縄文(結束第二種)、繊維含      | ナデ   | 砂レキ混り | 8          | III群 d 類 | 14 | 9        |
| 61       | I 6 | I b | 深鉢 | 口縁部 | 結節縄文、繊維含             | ナデ   |       | 8          | III群 d 類 | 15 | 9        |
| 62       | F 5 | I   | 深鉢 | 口縁部 | 不整撚糸文、繊維含            | ミガキ  |       | 8          | III群 e 類 | 15 | 9        |
| 63       | F 5 | I   | 深鉢 | 口縁部 | 不整撚糸文、内面に炭化物付着、繊維含   | ミガキ  |       | 9          | III群 e 類 | 15 | 9        |
| 64       | F 5 | I   | 深鉢 | 口縁部 | 不整撚糸文、外面に炭化物付着、繊維含   | ナデ   | 砂混り   | 7          | III群 e 類 | 15 | 9        |
| 65       | I 3 | I c | 深鉢 | 胴部  | 撚糸文、繊維含              | ナデ   | 砂混り   | 10         | III群 e 類 | 15 | 9        |
| 66       | I 3 | I b | 深鉢 | 胴部  | 撚糸文、繊維含              | ナデ   |       | 7          | III群 e 類 | 15 | 9        |

| 遺物<br>番号 | 出土区 | 層位  | 器種 | 部位  | 文様の特徴・備考                | 内面調整 | 胎土    | 器厚<br>(mm) | 分類       | 図版 | 写真<br>図版 |
|----------|-----|-----|----|-----|-------------------------|------|-------|------------|----------|----|----------|
| 67       | J 4 | I c | 深鉢 | 口縁部 | 捺糸文、繊維含                 | ナデ   | 砂混り   | 7          | III群 e 類 | 15 | 9        |
| 68       | K 3 | I c | 深鉢 | 胴部  | 網目状捺糸文、繊維含              | ナデ   | 砂混り   | 10         | III群 e 類 | 15 | 9        |
| 69       | J 4 | I b | 深鉢 | 胴部  | 刺突文(円形竹管による)、<br>繊維含    | ナデ   | 砂レキ混り | 9          | III群 f 類 | 15 | 9        |
| 70       | G 4 | I   | 深鉢 | 胴部  | 刺突文と不整捺糸文、繊維含           | ナデ   | 砂レキ混り | 9          | III群 f 類 | 15 | 9        |
| 71       | J 4 | I c | 深鉢 | 胴部  | 刺突文、繊維含                 | ナデ   | 砂レキ混り | 7          | III群 f 類 | 15 | 9        |
| 72       | J 4 | I c | 深鉢 | 胴部  | 刺突文、単節縄文、繊維含            | ナデ   | 砂レキ混り | 7          | III群 f 類 | 15 | 9        |
| 73       | H 6 | I b | 深鉢 | 口縁部 | 単節縄文、口唇部にキザミ、<br>外面に炭化物 | ナデ   | 砂混り   | 9          | IV群 a 類  | 15 | 9        |
| 74       | J 4 | I c | かめ | 胴部  | 単節縄文、金雲母多量に<br>混入       | ナデ   | 砂混り   | 5          | IV群 a 類  | 15 | 9        |
| 75       | H 3 | I b | かめ | 胴部  | 単節縄文、金雲母多量に<br>混入、内外面に炭 | ナデ   | 砂混り   | 6          | IV群 a 類  | 15 | 9        |
| 76       | J 5 | I c | 深鉢 | 口縁部 | 表裏単節縄文、口唇縁部に<br>刺突      | ナデ   | 砂混り   | 5          | IV群 a 類  | 15 | 9        |
| 77       | G 4 | I   | 深鉢 | 胴部  | 異方向縄文、外面に炭化<br>物付着      | ナデ   | 砂混り   | 7          | IV群 a 類  | 15 | 9        |
| 78       | H 6 | I c | 深鉢 | 胴部  | 単節縄文、隆帯、外面に<br>炭化物付着    | ナデ   | 砂混り   | 5          | IV群 a 類  | 15 | 9        |
| 79       | I 6 | I b | 深鉢 | 口縁部 | 沈線文、単節縄文                | ナデ   | レキ混り  | 8          | IV群 a 類  | 15 | 9        |
| 80       | H 5 | I b | 深鉢 | 口縁部 | 沈線文、単節縄文                | ナデ   | レキ混り  | 8          | IV群 a 類  | 15 | 9        |
| 81       | J 5 | I b | 深鉢 | 口縁部 | 無文、外面に炭化物付着             | ナデ   | 砂レキ混り | 8          | IV群 b 類  | 15 | 9        |
| 82       | J 6 | I   | 深鉢 | 口縁部 | 隆帯                      | ナデ   | 砂混り   | 7          | IV群 b 類  | 15 | 9        |
| 83       | J 6 | I b | 深鉢 | 口縁部 | 粘土紐張付、沈線文、刺<br>突文       | ナデ   | 砂混り   | 7          | IV群 b 類  | 15 | 9        |
| 84       | I 3 | I b | 深鉢 | 胴部  | 沈線文、列点文、単節縄<br>文、内面に炭化物 | ナデ   |       | 4          | IV群 b 類  | 15 | 9        |
| 85       | H 3 | I b | 鉢  | 胴部  | 三叉文、沈線文                 | ナデ   | 砂混り   | 6          | IV群 b 類  | 15 | 9        |
| 86       | 不明  | I   | 深鉢 | 胴部  | 貝殻腹縁圧痕文、刺突文、<br>繊維含     | ナデ   | 砂混り   | 9          | V 群      | 15 | 9        |
| 87       | I 2 | I b | 深鉢 | 口縁部 | 捺糸文、単節縄文、内面<br>に炭化物付着   | ナデ   | 砂混り   | 6          | V 群      | 15 | 9        |
| 88       | G 4 | I   | 深鉢 | 胴部  | 網目状捺糸文                  | ナデ   | 砂混り   | 7          | V 群      | 15 | 9        |

第7表 石器計測表 (遺構外)

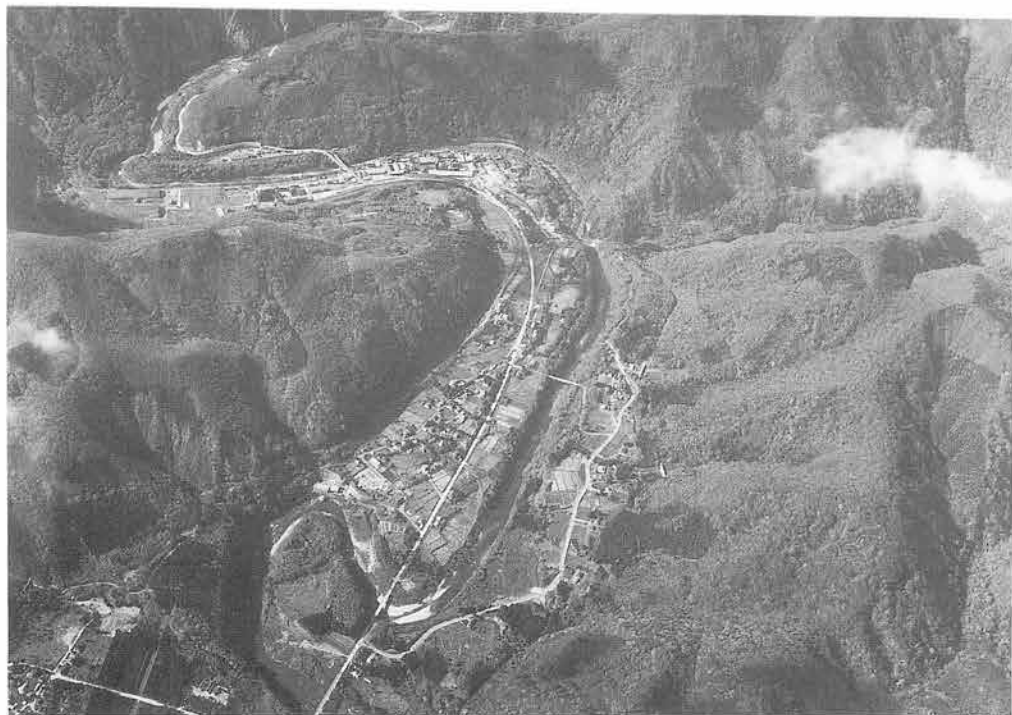
(単位: cm, g)

| 遺物番号 | 器種 | 出土区・層位  | 長さ   | 幅   | 厚さ  | 重量   | 石質    | 産地年代     |
|------|----|---------|------|-----|-----|------|-------|----------|
| 1    | 石鏃 | G7区 Ic層 | 1.9  | 1.6 | 0.4 | 0.9  | 珪質泥岩  | 川尻以西 中新統 |
| 50   | 石鏃 | J3 Ib   | 2.2  | 1.8 | 0.3 | 0.7  | 珪質泥岩  | 川尻以西 中新統 |
| 2    | 石鏃 | J4 Ib   | 3.1  | 1.8 | 0.5 | 2.0  | 硬質泥岩  | 川尻以西 中新統 |
| 51   | 石鏃 | J5 Ib   | 2.4  | 1.6 | 3.5 | 1.2  | 細粒凝灰岩 | 川尻以西 中新統 |
| 3    | 石鏃 | J5 I    | 2.2  | 1.3 | 0.2 | 0.5  | 珪質泥岩  | 川尻以西 中新統 |
| 4    | 石鏃 | I3 Ib   | 2.9  | 1.5 | 0.5 | 2.6  | 硬質泥岩  | 川尻以西 中新統 |
| 5    | 石鏃 | J6 I    | 3.4  | 2.4 | 0.8 | 5.3  | 凝灰質泥岩 | 川尻以西 中新統 |
| 6    | 石鏃 | I4 II   | 3.3  | 1.3 | 0.6 | 3.1  | 珪質泥岩  | 川尻以西 中新統 |
| 52   | 石鏃 | J6 Id   | 3.2  | 1.6 | 0.6 | 2.5  | 細粒凝灰岩 | 川尻以西 中新統 |
| 7    | 石匙 | F4 I    | 5.1  | 4.9 | 0.8 | 13.2 | 珪質泥岩  | 川尻以西 中新統 |
| 8    | 石匙 | E4 I    | 5.6  | 4.7 | 0.6 | 13.5 | 凝灰質泥岩 | 川尻以西 中新統 |
| 9    | 石匙 | F4 Ib   | 8.3  | 3.8 | 1.1 | 27.3 | 硬質泥岩  | 川尻以西 中新統 |
| 10   | 石匙 | J4 Ic   | 7.6  | 2.3 | 0.7 | 15.5 | 硬質泥岩  | 川尻以西 中新統 |
| 11   | 石匙 | H4 Ic   | 7.0  | 2.4 | 0.5 | 8.5  | 細粒凝灰岩 | 川尻以西 中新統 |
| 54   | 石匙 | 不明 Ib   | 7.6  | 1.9 | 0.7 | 11.1 | 珪質泥岩  | 川尻以西 中新統 |
| 12   | 石匙 | F3 I    | 9.5  | 2.7 | 0.9 | 24.7 | 硬質泥岩  | 川尻以西 中新統 |
| 13   | 石匙 | H7 Ic   | 6.1  | 4.1 | 0.7 | 13.8 | 凝灰質泥岩 | 川尻以西 中新統 |
| 53   | 石匙 | J4 Ic   | 6.5  | 2.7 | 0.8 | 14.3 | 凝灰質泥岩 | 川尻以西 中新統 |
| 14   | 石匙 | J3 Ic   | 5.9  | 5.7 | 1.0 | 22.1 | 細粒凝灰岩 | 川尻以西 中新統 |
| 15   | 石篋 | G4 Ia   | 9.1  | 4.6 | 2.0 | 78.1 | 凝灰質泥岩 | 川尻以西 中新統 |
| 55   | 石篋 | I5 I    | 7.7  | 3.9 | 1.7 | 44.3 | 凝灰質泥岩 | 川尻以西 中新統 |
| 56   | 石篋 | H7 Ic   | 7.3  | 4.2 | 1.9 | 48.3 | 珪質泥岩  | 川尻以西 中新統 |
| 16   | 石篋 | I3 Ic   | 9.0  | 3.5 | 1.7 | 41.9 | 硬質泥岩  | 川尻以西 中新統 |
| 57   | 石篋 | H7 Ic   | 8.6  | 4.2 | 2.3 | 56.4 | 凝灰質泥岩 | 川尻以西 中新統 |
| 17   | 石篋 | H3 I    | 5.9  | 3.9 | 0.9 | 27.8 | 凝灰質泥岩 | 川尻以西 中新統 |
| 18   | 石篋 | F4 I    | 5.1  | 3.2 | 1.2 | 18.1 | 珪質泥岩  | 川尻以西 中新統 |
| 19   | 石篋 | K2 Ic   | 5.4  | 4.2 | 1.5 | 24.2 | 珪質泥岩  | 川尻以西 中新統 |
| 20   | 石篋 | K5 Ic   | 10.3 | 4.5 | 1.8 | 73.1 | 凝灰質泥岩 | 川尻以西 中新統 |
| 21   | 石篋 | J5 I    | 6.9  | 4.8 | 1.3 | 55.0 | 硬質泥岩  | 川尻以西 中新統 |
| 58   | 石篋 | K3 I    | 8.2  | 4.2 | 1.8 | 51.9 | 凝灰質泥岩 | 川尻以西 中新統 |

(単位: cm, g)

| 遺物番号 | 器種  | 出土区・層位  | 長さ   | 幅    | 厚さ  | 重量     | 石質      | 産地年代       |
|------|-----|---------|------|------|-----|--------|---------|------------|
| 59   | 石鏡  | I 6 I   | 6.8  | 4.8  | 1.9 | 68.3   | 凝灰質泥岩   | 川尻以西 中新統   |
| 22   | 石鏡  | H 3 I   | 10.5 | 4.9  | 1.9 | 64.6   | 凝灰質泥岩   | 川尻以西 中新統   |
| 23   | 石鏡  | I 4 II  | 8.3  | 4.8  | 1.3 | 54.2   | 凝灰質泥岩   | 川尻以西 中新統   |
| 60   | 石鏡  | C 4 I b | 6.9  | 4.9  | 1.1 | 36.6   | 硬質泥岩    | 川尻以西 中新統   |
| 24   | 不定形 | 不明 I b  | 8.9  | 5.5  | 1.6 | 86.7   | 凝灰質泥岩   | 川尻以西 中新統   |
| 25   | 不定形 | J 3 II  | 3.4  | 2.9  | 1.3 | 11.2   | 珪質泥岩    | 川尻以西 中新統   |
| 26   | 不定形 | I 6 I   | 8.0  | 2.2  | 1.4 | 24.4   | 硬質泥岩    | 川尻以西 中新統   |
| 27   | 不定形 | G 5 I c | 9.2  | 4.3  | 1.2 | 46.8   | 凝灰質泥岩   | 川尻以西 中新統   |
| 28   | 不定形 | I 6 I   | 6.7  | 4.0  | 0.8 | 14.5   | 凝灰質泥岩   | 川尻以西 中新統   |
| 29   | 不定形 | F 4 I c | 5.9  | 2.5  | 1.0 | 14.8   | 凝灰質泥岩   | 川尻以西 中新統   |
| 30   | 不定形 | J 3 I   | 4.6  | 4.2  | 0.9 | 14.7   | 硬質泥岩    | 川尻以西 中新統   |
| 31   | 不定形 | I 6 II  | 4.6  | 1.6  | 0.6 | 4.6    | 硬質泥岩    | 川尻以西 中新統   |
| 32   | 不定形 | E 4 I   | 3.3  | 3.6  | 0.8 | 7.5    | 硬質泥岩    | 川尻以西 中新統   |
| 33   | 不定形 | J 4 I c | 6.2  | 2.7  | 0.9 | 15.8   | 細粒凝灰岩   | 川尻以西 中新統   |
| 34   | 不定形 | J 4 I   | 5.2  | 3.2  | 1.8 | 26.7   | 凝灰質泥岩   | 川尻以西 中新統   |
| 35   | 不定形 | I 3 I c | 5.7  | 5.5  | 1.2 | 37.6   | 細粒凝灰岩   | 川尻以西 中新統   |
| 36   | 不定形 | E 4 I   | 5.2  | 6.1  | 1.0 | 29.1   | 凝灰質泥岩   | 川尻以西 中新統   |
| 37   | 不定形 | I 6 I   | 5.6  | 3.3  | 1.1 | 14.2   | 細粒凝灰岩   | 川尻以西 中新統   |
| 61   | 不定形 | J 3 I c | 4.1  | 3.5  | 1.2 | 20.3   | 凝灰質泥岩   | 川尻以西 中新統   |
| 38   | 石核  | H 3 I   | 7.9  | 6.9  | 4.7 | 264.8  | 硬質泥岩    | 川尻以西 中新統   |
| 39   | 石核  | H 3 I   | 12.3 | 11.1 | 7.5 | 1080.0 | 硬質泥岩    | 川尻以西 中新統   |
| 40   | 石核  | H 3 I   | 6.0  | 6.5  | 3.4 | 117.9  | 凝灰質泥岩   | 川尻以西 中新統   |
| 41   | 石錘  | F 4 I   | 7.2  | 8.2  | 3.0 | 242.9  | 淡緑色凝灰岩  | 奥羽山地 中新統   |
| 42   | 石錘  | G 4 I   | 8.7  | 9.8  | 3.1 | 416.0  | 淡緑色凝灰岩  | 奥羽山地 中新統   |
| 43   | 擦石  | J 5 I c | 10.3 | 4.6  | 3.9 | 226.0  | 淡緑色凝灰岩  | 奥羽山地 中新統   |
| 45   | 凹石  | F 4 I   | 8.0  | 7.1  | 3.3 | 215.4  | 淡緑色凝灰岩  | 奥羽山地 中新統   |
| 46   | 凹石  | H 3 I   | 8.9  | 7.2  | 4.2 | 355.0  | 淡緑色凝灰岩  | 奥羽山地 中新統   |
| 47   | 凹石  | I 6 I   | 15.5 | 6.1  | 3.6 | 398.0  | 淡緑色凝灰岩  | 奥羽山地 中新統   |
| 44   | 凹石  | I 6 II  | 8.2  | 8.4  | 5.1 | 440.0  | 砂質緑色凝灰岩 | 奥羽山地一帯 中新統 |
| 48   | 凹石  | J 6 I b | 14.1 | 6.7  | 3.4 | 356.0  | 砂質緑色凝灰岩 | 奥羽山地一帯 中新統 |

# 写 真 图 版



写真図版1 遠景



調査前全景



写真図版2 調査前全景・基本土層

基本土層



平面



断面

F 4—1号土坑



平面

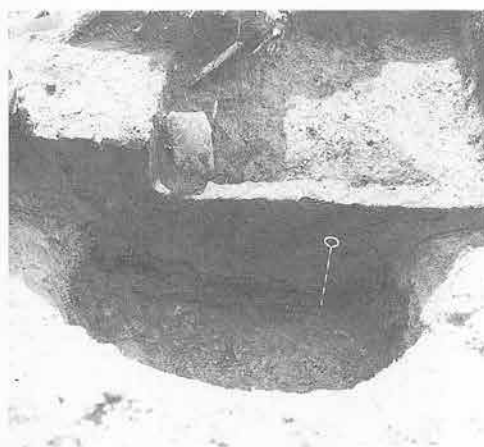


断面

J 2—1号土坑



平面

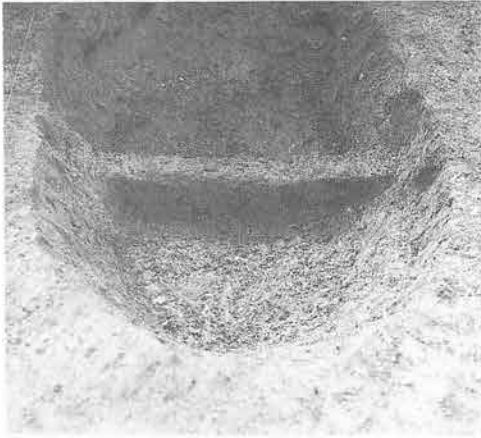


断面

J 4—1号土坑

写真图版 3 土坑(1)





断面 I 4-1号土坑



断面 F 4-1号陥し穴状遺構



平面 G 6-1号陥し穴状遺構



断面

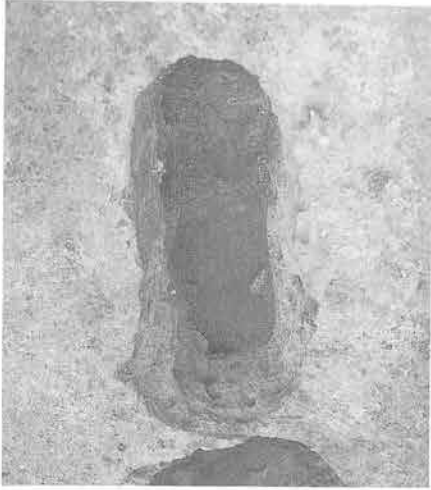


平面 H 3-1号陥し穴状遺構



断面

写真図版 4 土坑(2)・陥し穴状遺構(1)



平面



断面

H4-1号 陥し穴状遺構



平面

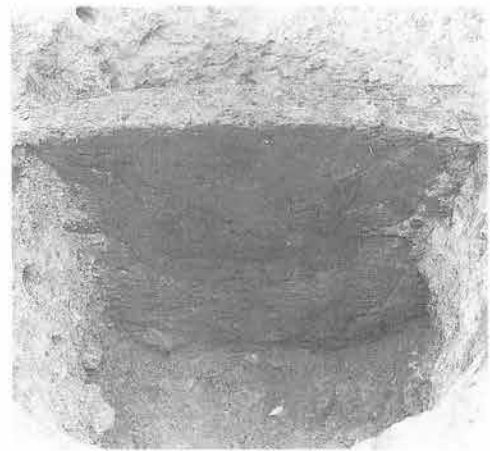


断面

H4-2号 陥し穴状遺構



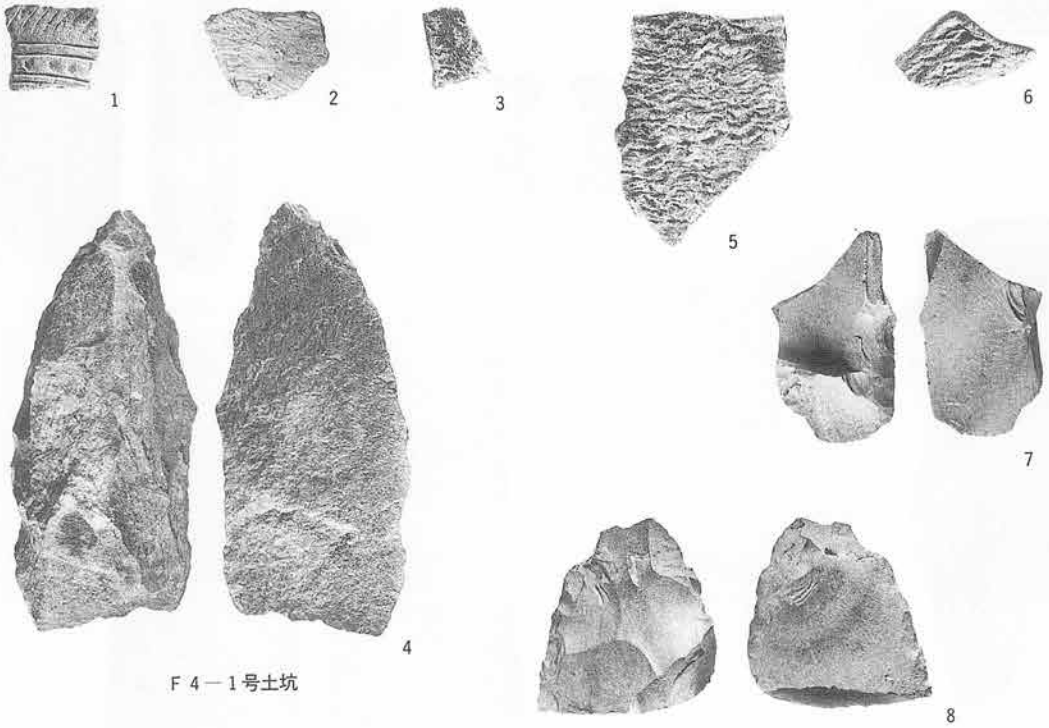
平面



断面

H4-3号 陥し穴状遺構

写真図版5 陥し穴状遺構(2)

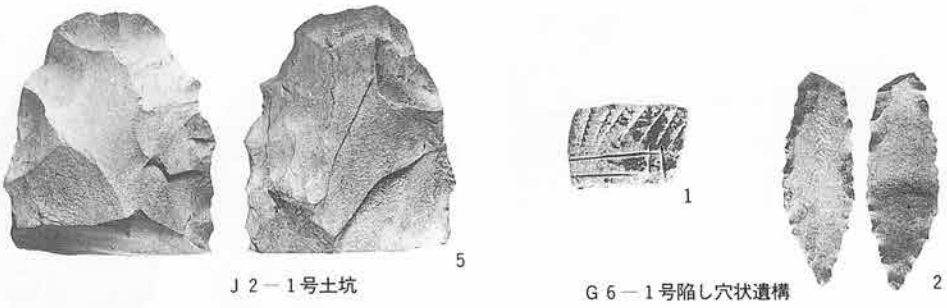


F 4-1号土坑

I 4-1号土坑



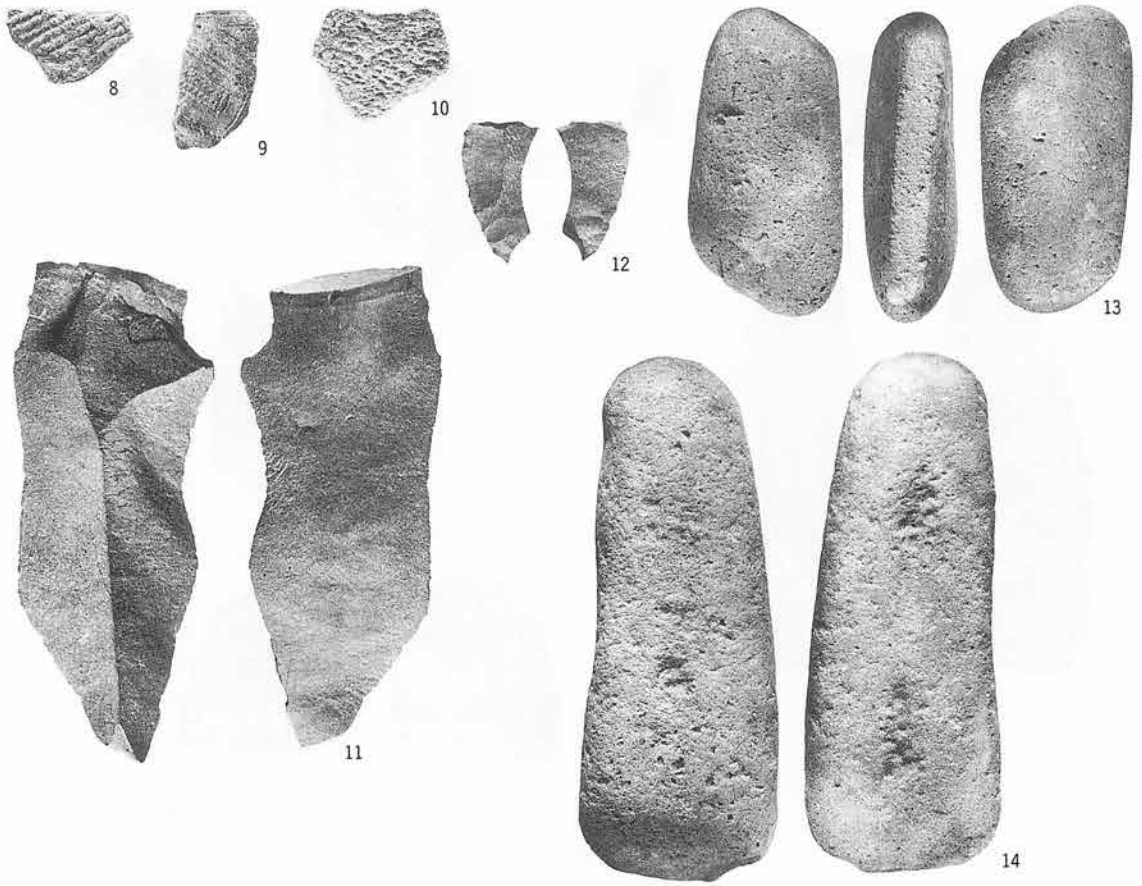
J 4-1号土坑



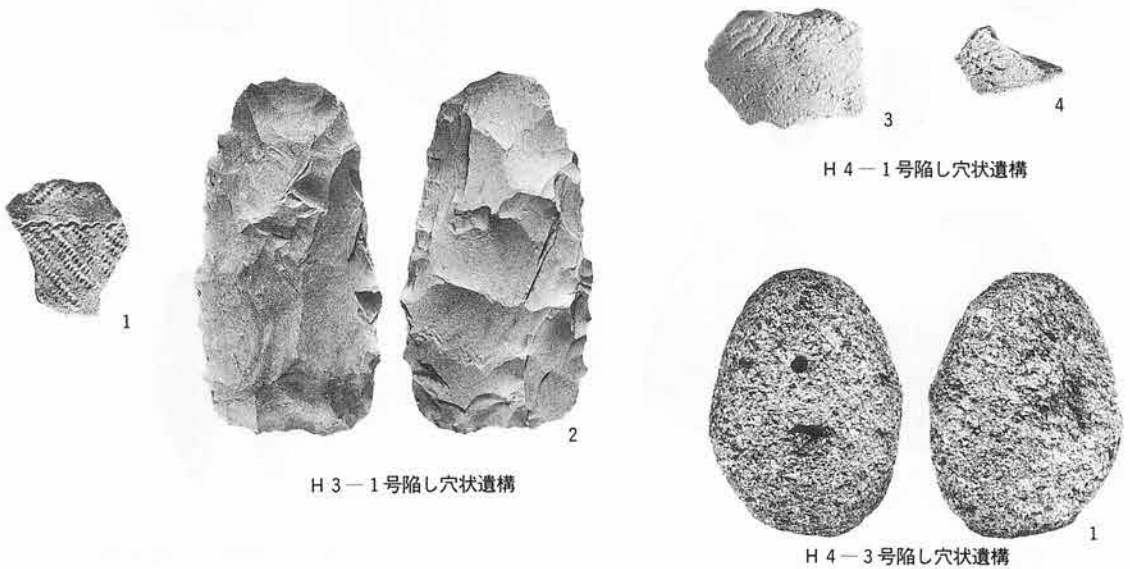
J 2-1号土坑

G 6-1号陷し穴状遺構

写真図版 6 F 4-1・I 4-1・J 2-1・J 4-1号土坑、G 6-1号陷し穴状遺構遺物



J 4 - 1号土坑

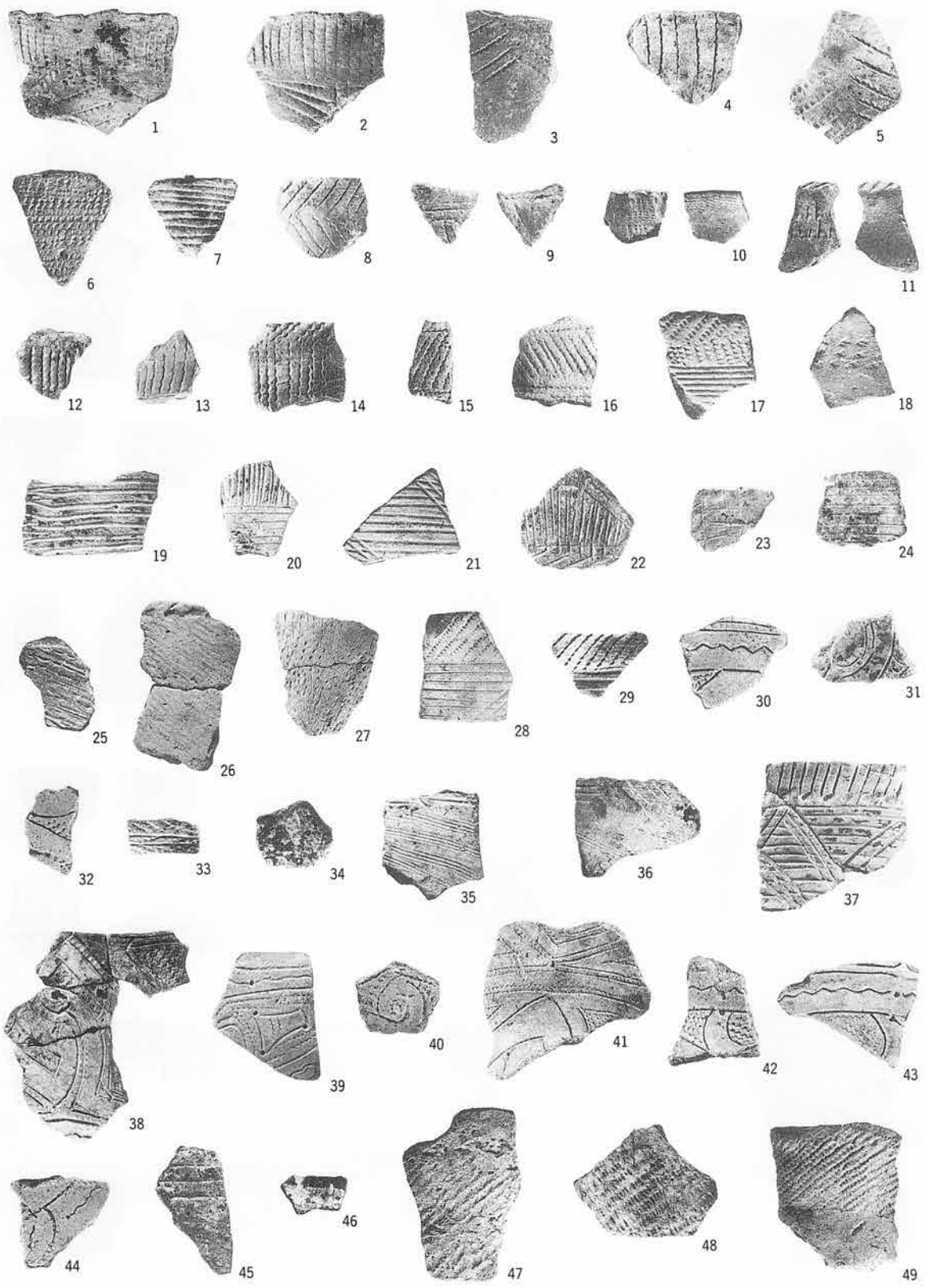


H 3 - 1号陥し穴状遺構

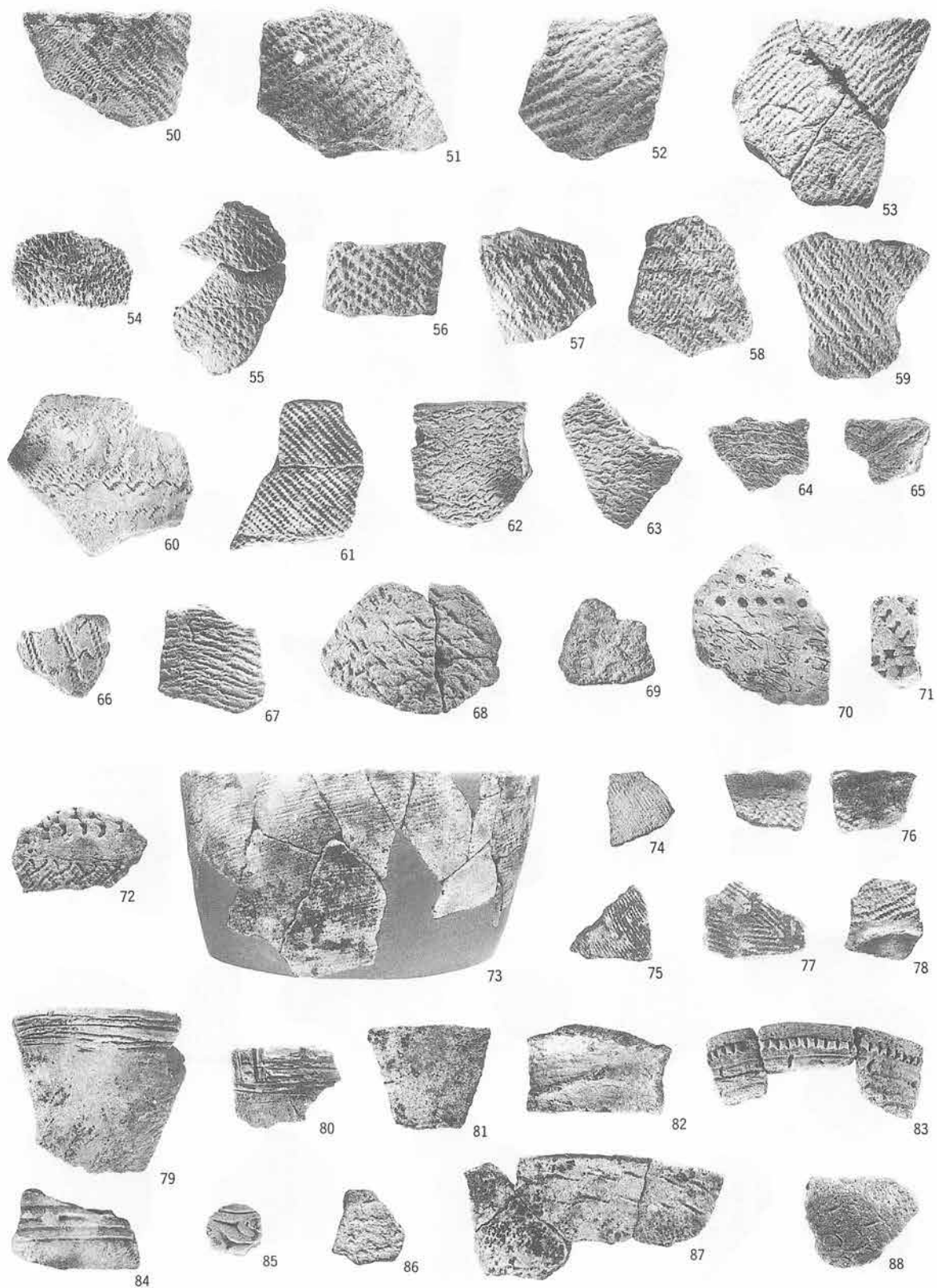
H 4 - 1号陥し穴状遺構

H 4 - 3号陥し穴状遺構

写真図版7 J 4 - 1号土坑、H 3 - 1号・H 4 - 1号・H 4 - 3号陥し穴状遺構遺物



写真図版 8 遺構外出土遺物 土器(1)



写真図版9 遺構外出土遺物 土器(2)



1



50



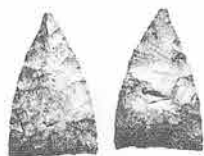
2



51



3



4



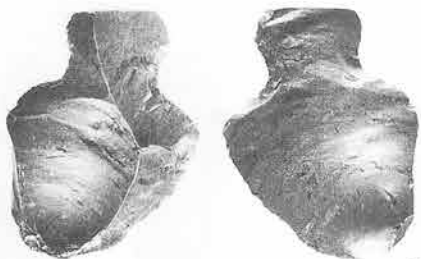
5



6



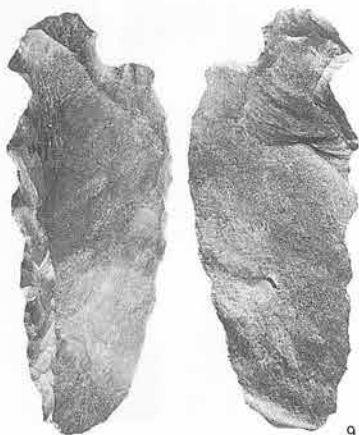
52



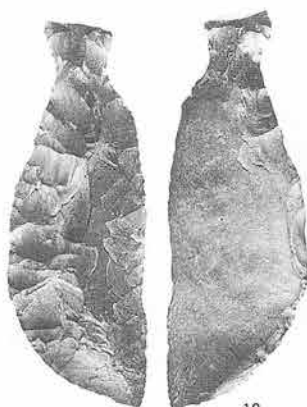
7



8



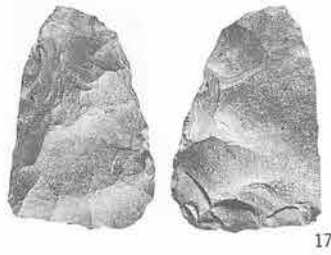
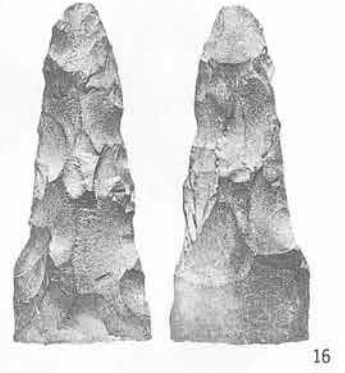
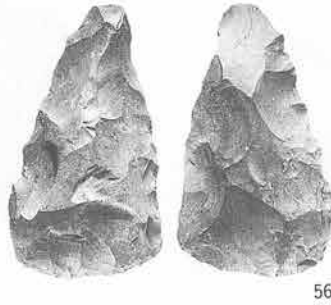
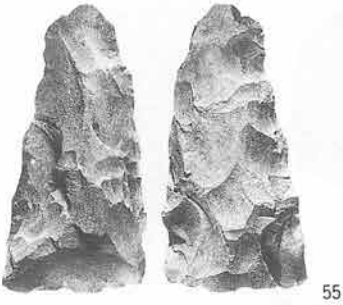
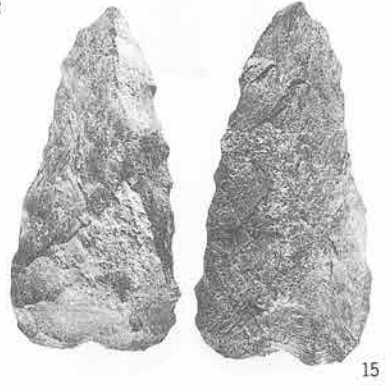
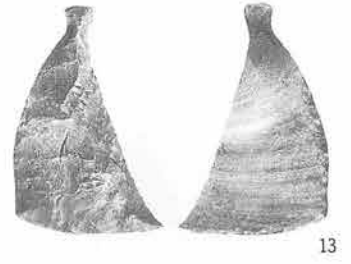
9



10

写真図版10 遺構外出土遺物 石器(1)

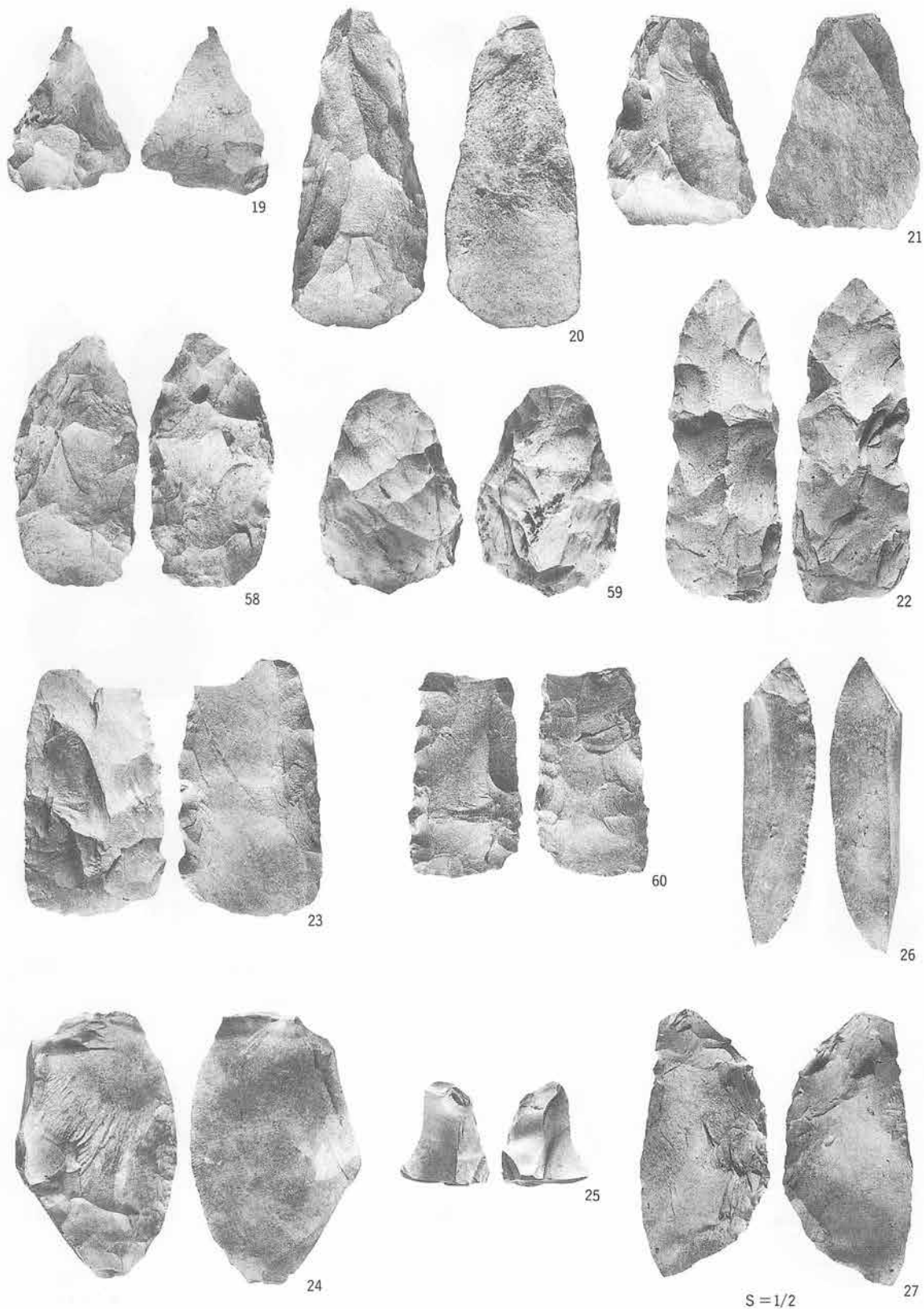
S=2/3



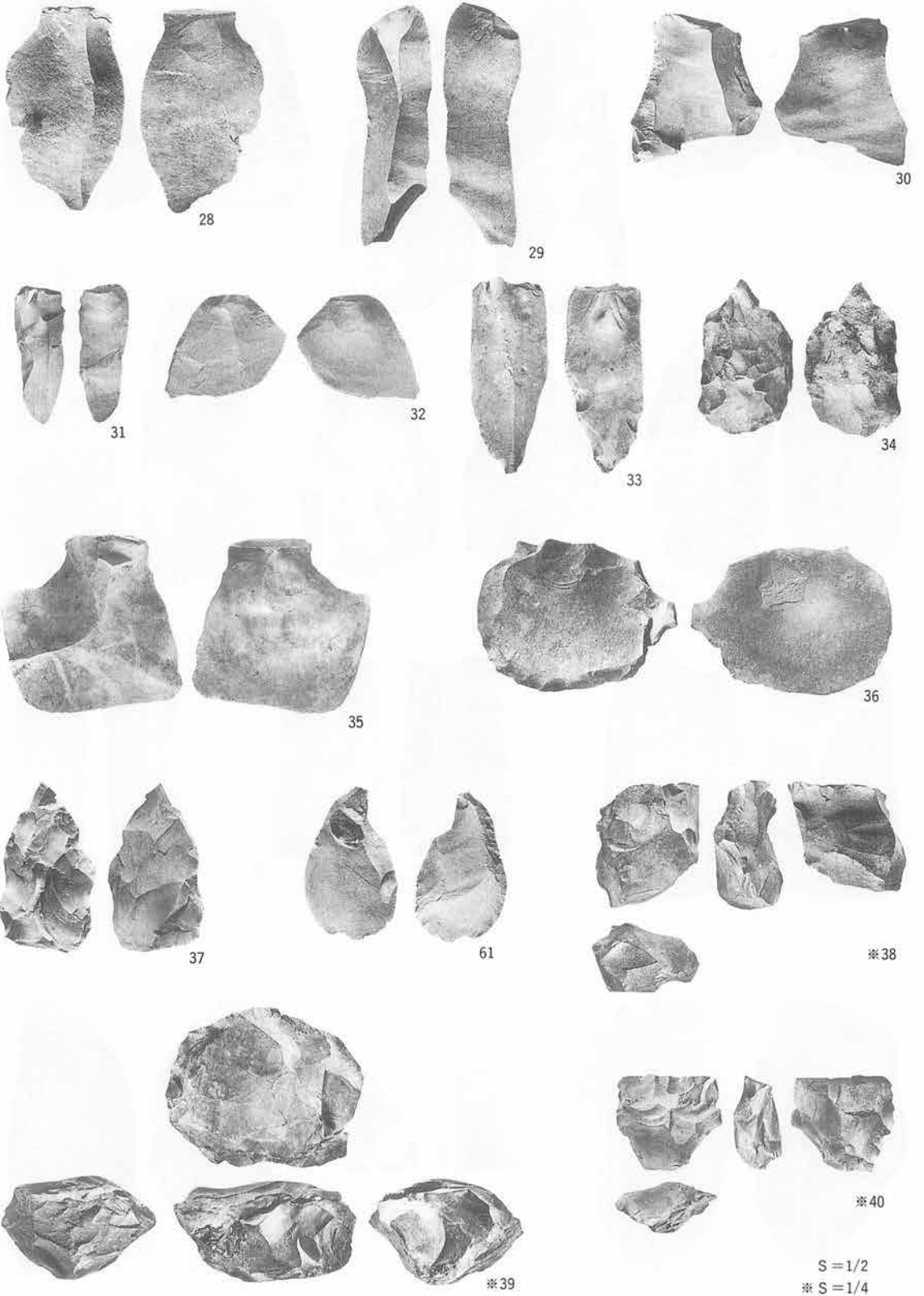
写真図版11 遺構外出土遺物 石器(2)

S=1/2





写真図版12 遺構外出土遺物 石器(3)



写真図版13 遺構外出土遺物 石器(4)



41



42



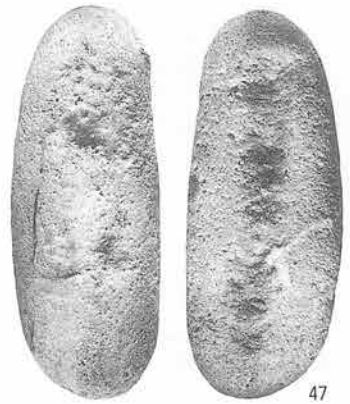
43



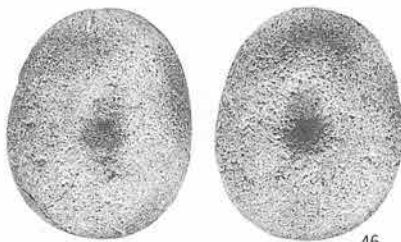
44



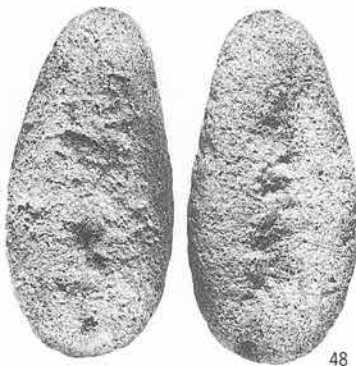
45



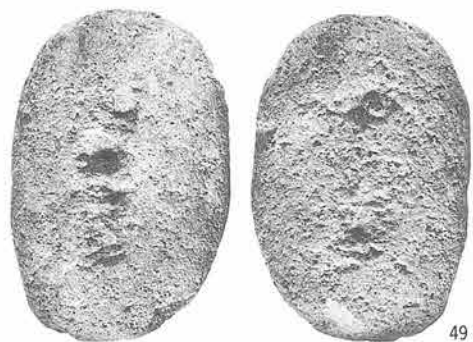
47



46



48



49

S=1/3

写真図版14 遺構外出土遺物 石器(5)

## 報告書抄録

| ふりがな          | どばいせきはつくつちようきほうこくしょ  |                   |                  |   |                    |                       |                        |                              |
|---------------|--|-------------------|------------------|---|--------------------|-----------------------|------------------------|------------------------------|
| 書名            | 土場遺跡発掘調査報告書  |                   |                  |   |                    |                       |                        |                              |
| 副書名           | 北本内ダム建設工事関連遺跡発掘調査  |                   |                  |   |                    |                       |                        |                              |
| 巻次            |  |                   |                  |   |                    |                       |                        |                              |
| シリーズ名         | 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書   |                   |                  |   |                    |                       |                        |                              |
| シリーズ番号        | 第222集  |                   |                  |   |                    |                       |                        |                              |
| 編著者名          | 吉田 充、高橋與右衛門  |                   |                  |   |                    |                       |                        |                              |
| 編集機関          | 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター  |                   |                  |   |                    |                       |                        |                              |
| 所在地           | 〒020 岩手県盛岡市下飯岡11-185 TEL 0196-38-9001                                    |                   |                  |   |                    |                       |                        |                              |
| 発行年月日         | 西暦 1995年3月31日  |                   |                  |   |                    |                       |                        |                              |
| ふりがな<br>所収遺跡名 | ふりがな<br>所在地  | コード               |                  | 北緯<br>° ' "                                     | 東経<br>° ' "        | 調査期間                  | 調査面積<br>m <sup>2</sup> | 調査原因                         |
|               |  | 市町村               | 遺跡番号             |   |                    |                       |                        |                              |
| どば<br>土場      | いわてけんきたかみし<br>岩手県北上市<br>わかちやうわが<br>和賀町和賀<br>せんになんたいちわり<br>仙人第8地割<br>44-7 | 03008             |                  | 39度<br>18分<br>30秒                               | 140度<br>54分<br>30秒 | 19931001～<br>19931105 | 570                    | 北本内ダム<br>建設工事に<br>伴う事前調<br>査 |
| 所収遺跡名         | 種別   | 主な時代              | 主な遺構             | 主な遺物  |                    | 特記事項                  |                        |                              |
| 土場            | 散布地<br>狩場  | 縄文時代<br>早期～前<br>期 | 土坑4基<br>陥し穴状遺構6基 | 土器片、石器類(石鏃、<br>石錐、石匙、石篋、不<br>定型石器、石核、凹石、<br>擦石) |                    |                       |                        |                              |

## 財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター職員

|       |           |             |  |           |           |
|-------|-----------|-------------|--|-----------|-----------|
|       | 所 長       | 高 橋 重 實     |  |           |           |
|       | 副 所 長     | 千 葉 政 男     |  |           |           |
| 〔管理課〕 |           |             |  |           |           |
|       | 管 理 課 長   | 澤 田 寛       |  | 嘱 託       | 吉 田 十 次   |
|       | 主 事       | 佐 藤 理       |  | 〃         | 野 崎 他 夫   |
|       | 〃         | 久保田 幸 恵     |  |           |           |
| 〔調査課〕 |           |             |  |           |           |
|       | 調 査 課 長   | 鈴 木 恵 治     |  | 文 化 財     | 金 子 昭 彦   |
|       | 課 長 補 佐   | 三 浦 謙 一     |  | 專 門 調 査 員 | 〃         |
|       | 〃         | 高 橋 與 右 衛 門 |  | 〃         | 木 戸 口 俊 子 |
|       | 主 任 文 化 財 | 菊 池 強 一     |  | 〃         | 大 道 篤 史   |
|       | 專 門 調 査 員 | 渡 辺 洋 一     |  | 〃         | 阿 部 勝 則   |
|       | 〃         | 工 藤 利 幸     |  | 〃         | 星 雅 之     |
|       | 〃         | 中 川 重 紀     |  | 〃         | 羽 柴 直 人   |
|       | 〃         | 佐々木 清 文     |  | 〃         | 高 木 晃     |
|       | 〃         | 高 橋 義 介     |  | 〃         | 村 上 拓     |
|       | 〃         | 中 村 英 俊     |  | 〃         | 高 橋 佐 知 子 |
|       | 〃         | 酒 井 宗 孝     |  | 〃         | 杉 沢 昭 太 郎 |
|       | 文 化 財     | 千 葉 孝 雄     |  | 〃         | 溜 浩 二 郎   |
|       | 專 門 調 査 員 | 菊 池 人 見     |  | 期 限 付 員   | 高 橋 英 樹   |
|       | 〃         | 伊 東 格       |  | 〃         | 佐 藤 修 一   |
|       | 〃         | 吉 田 充       |  | 〃         | 稲 垣 雅 宏   |
|       | 〃         | 斎 藤 邦 雄     |  | 〃         | 元 吉 弘 明   |
|       | 〃         | 高 橋 一 浩     |  | 〃         | 熊 谷 和 明   |
|       | 〃         | 鎌 田 勉       |  | 〃         | 佐々木 裕 司   |
|       | 〃         | 小山内 透       |  | 〃         | 千 葉 貴 子   |
|       | 〃         | 松 本 建 速     |  | 〃         | 沼 田 和 宏   |
|       | 〃         | 笹 平 克 子     |  |           | 後 藤 円     |
|       | 〃         | 花 坂 政 博     |  |           |           |
|       | 〃         | 佐々木 務       |  |           |           |
| 〔資料課〕 |           |             |  |           |           |
|       | 資 料 課 長   | 駒 嶺 高 幸     |  |           |           |
|       | 主 任 文 化 財 | 高 橋 正 之     |  |           |           |
|       | 專 門 調 査 員 |             |  |           |           |

---

---

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第222集

土場遺跡発掘調査報告書

北本内ダム建設工事関連遺跡発掘調査

印刷 平成7年3月25日

発行 平成7年3月31日

発行 財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

〒020 盛岡市下飯岡11-185

TEL (0196)38-9001 FAX (0196)38-8563

印刷 株式会社山口北州印刷株式会社

〒020-01 盛岡市青山四丁目10-5

TEL (0196)41-0585

---

---